

うきは市
男女共同参画推進に関する意識調査
報告書

2025 年3月

う き は 市

目 次

第 1 部 男女共同参画に関する市民意識調査

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査の性格	1
4. 回答者の属性	2
5. 調査結果利用上の注意	7

II 調査結果

第 1 章 男女平等について

1. 性別役割分担意識	9
2. 男女の地位の平等感	11
3. 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で必要なこと	21

第 2 章 家庭生活について

1. 家庭内の男女の役割分担	23
2. 配偶者・パートナーにもっとしてもらいたい家庭内の仕事	35
3. 男女ともに家庭内の仕事に積極的に参加するために必要なこと	37

第 3 章 地域活動について

1. 地域活動への参加状況	39
2. 地域活動における女性の積極的な参画について	41
3. 女性の「参画」をすすめるために必要なこと	43
4. 役職、公職への就任や立候補の依頼への対応	45
5. 役職、公職への就任や立候補の依頼を断る理由	47

第 4 章 就労について

1. 女性が職業を持つことについて	49
2. 女性が職業をずっと持たない方がいい理由	51
3. 職場での女性の働きやすさ	53
4. 女性が働きにくい理由	55
5. 育児休業・介護休業の利用について	57
6. 育児休業・介護休業を利用できない、利用したくない理由	61
7. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	63
8. 男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件	67

第 5 章 暴力などの人権侵害について

1. 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為	70
---------------------------	----

2. 配偶者や交際相手からの被害経験	77
3. 被害をうけた際の相談の有無	81
4. 被害をうけた際の相談先	83
5. 被害をうけた際に相談しなかった理由	84
6. 暴力を防止する方法	86
7. 妊娠や性に関する考えについて	88

第6章 防災について

1. 災害が発生したときに地域の一員としてできること	90
2. 性別に配慮した防災・復興対策の必要性	92
3. 防災・復興対策において、性別に配慮した対応が必要なこと	93

第7章 男女共同参画社会について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知	95
2. 「男女共同参画社会」の形成に向けて求められる行政の役割	97
3. 「男女共同参画社会」推進に関する意見（自由意見）	99

調査結果のまとめ	107
----------	-----

第2部 男女共同参画に関する事業所調査

I 調査の概要

1. 調査の目的	117
2. 調査の内容	117
3. 調査の性格	117
4. 調査結果利用上の注意	117

II 調査結果

1. 事業所の概要について	118
2. 女性従業員の人材活用について	122
3. 育児・介護休業制度について	127
4. 仕事と家庭の両立支援について	130
5. ハラスメントに関する取り組みについて	132
6. 行政への要望について	134

◆参考資料（使用した調査票）

男女共同参画推進に関する市民意識調査票	137
男女共同参画推進に関する事業所調査票	153

第 1 部 男女共同参画に関する市民意識調査

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、うきは市に居住する 18 歳以上の市民を対象に、男女共同参画社会の実現に向けた意見をうかがい、今後の施策推進のための基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査の内容

- (1) 対象者の属性
- (2) 男女平等について
- (3) 家庭生活について
- (4) 地域活動について
- (5) 就労について
- (6) 暴力などの人権侵害について
- (7) 防災について
- (8) 男女共同参画社会について

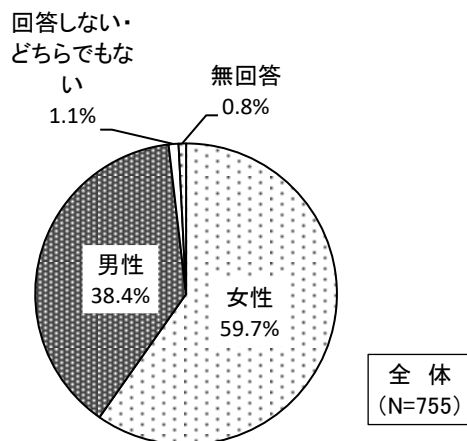
3. 調査の性格

- | | |
|--------------------|--|
| (1) 調 査 地 域 | うきは市内全域 |
| (2) 調 査 対 象 者 | うきは市内に居住する満 18 歳以上の男女
2, 0 0 0 サンプル |
| (3) 有 効 回 収 数 | 7 5 5 サンプル（うちインターネット回答 1 3 6）
有効回収率 37.8% |
| (4) 抽 出 方 法 | 住民基本台帳による無作為抽出 |
| (5) 調 査 方 法 | 郵送法、インターネット回答併用 |
| (6) 調 査 期 間 | 令和 6 年 9 月 20 日（金）～10 月 21 日（月） |
| (7) 調査企画・実施 | うきは市男女共同参画センター ”だんだん”
男女共同参画推進室 |
| (8) 調査結果の分析
と総括 | 特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
理事 倉富 史枝 |

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

4. 回答者の属性

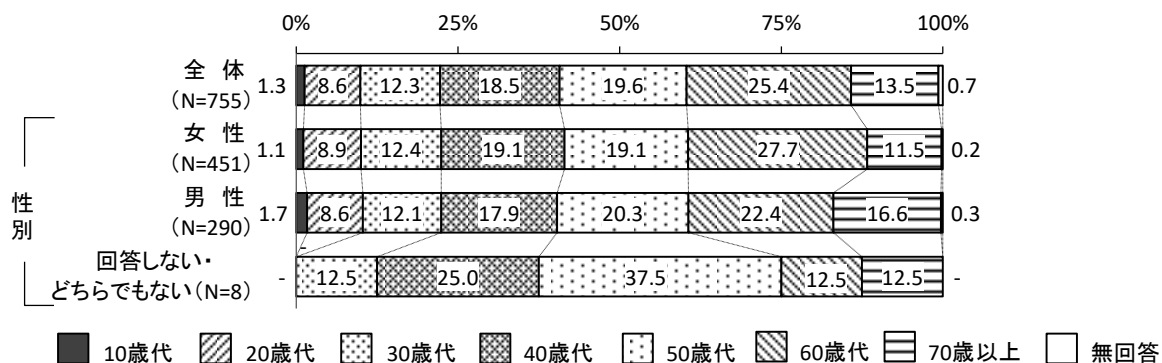
◎性別



回答者の性別は「女性」が59.7%、「男性」が38.4%と女性の回答が約2割多い。

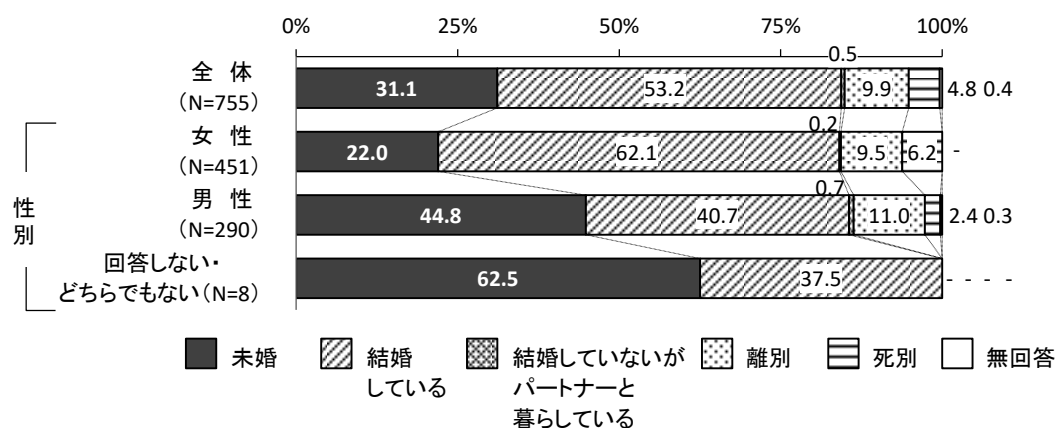
本調査における回答者全体の結果は、女性の意識や意見の方がやや強く反映されたものとなっている。

◎年齢



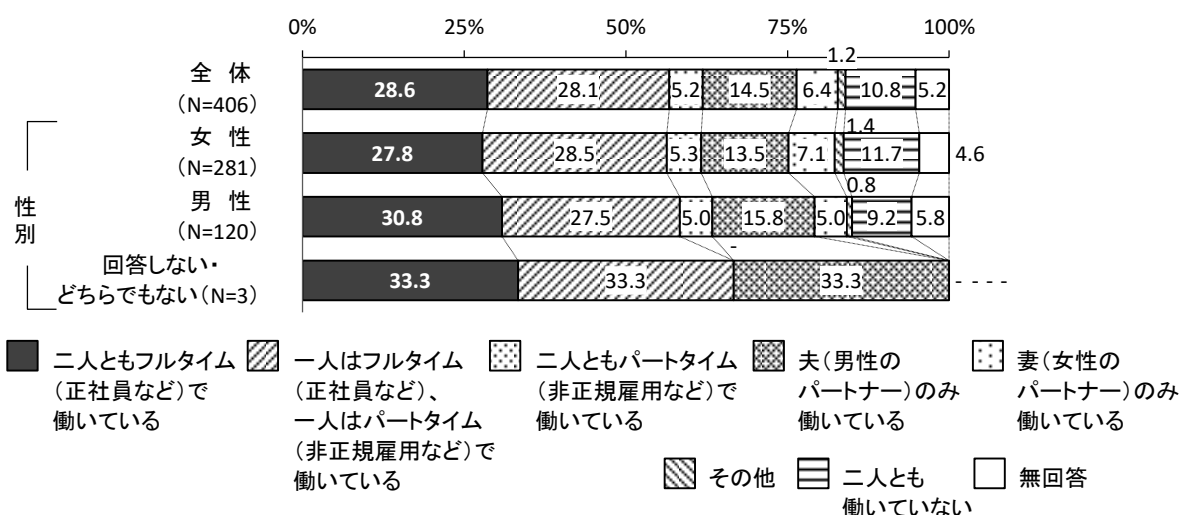
回答者の年齢は、「60歳代」(25.4%)、「50歳代」(19.6%)、「40歳代」(18.5%)、「70歳以上」(13.5%)、「30歳代」(12.3%)、「20歳代」(8.6%)、「10歳代」(1.3%)の順で多い。

◎婚姻状況



回答者の婚姻状況は、「結婚している」が53.2%、「未婚」が31.1%、「離別」が9.9%、「死別」が4.8%となっている。

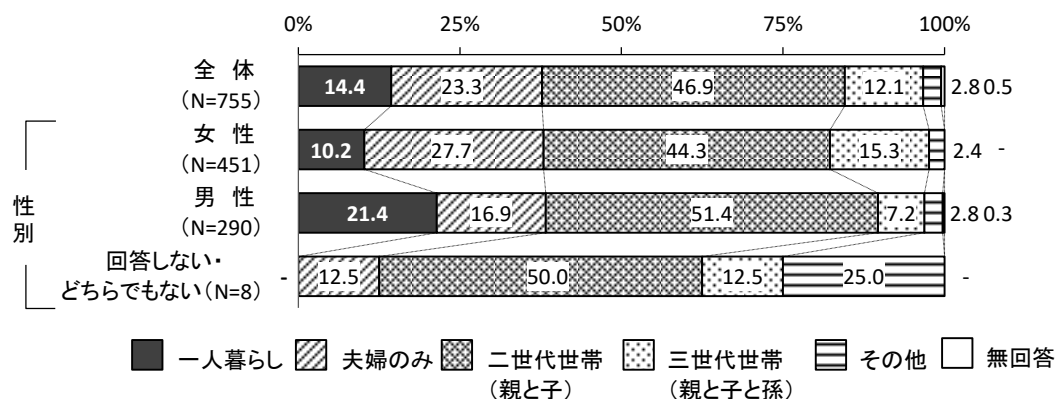
◎共働きの状況



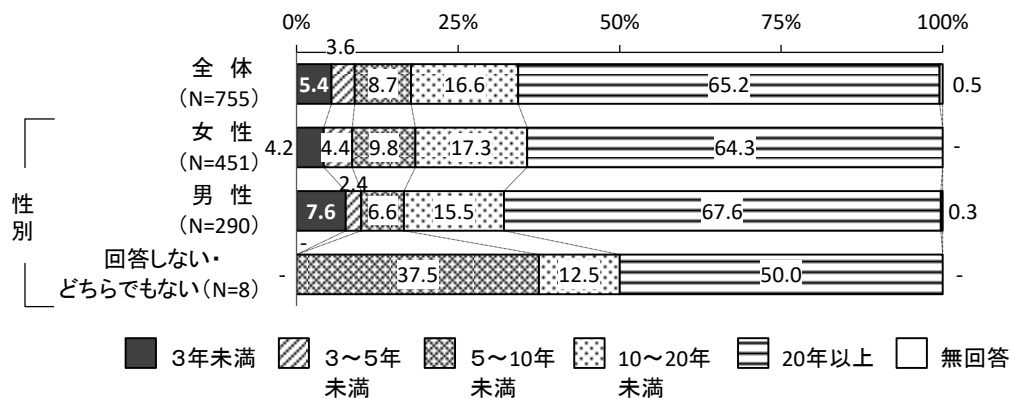
結婚している人の共働きの状況は「二人ともフルタイム (正社員など) で働いている」(28.6%)と「一人はフルタイム (正社員など)、一人はパートタイム (非正規雇用など) で働いている」(28.1%)、「二人ともパートタイム (非正規雇用など) で働いている」(5.2%) をあわせた『共働き』は61.9%である。「夫 (男性のパートナー) のみ働いている」(14.5%) と「妻 (女性のパートナー) のみ働いている」(6.4%) をあわせた『片働き』は20.9%で、「二人とも働いていない」は10.8%となっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

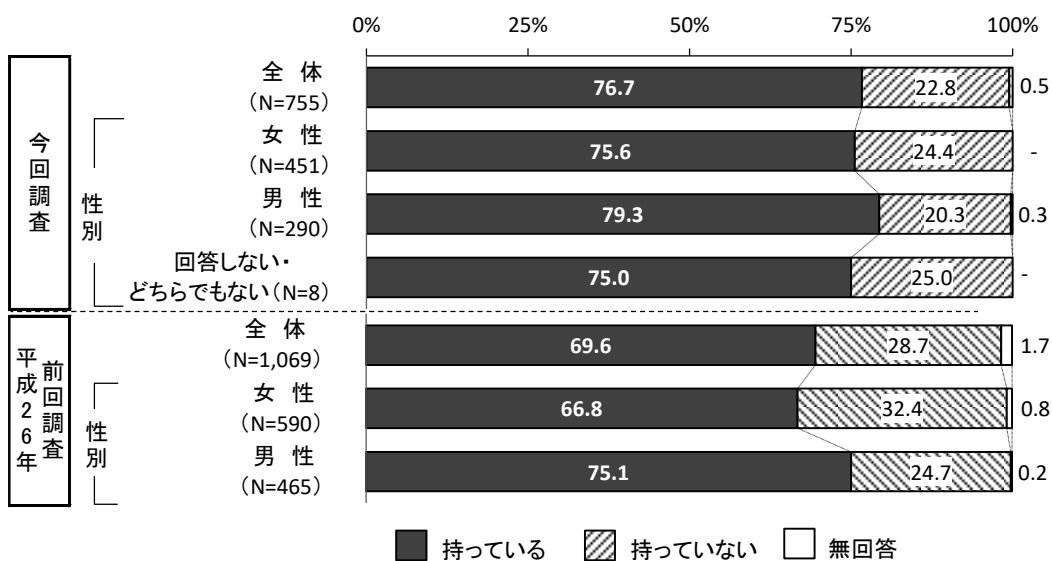
◎世帯



◎居住年数



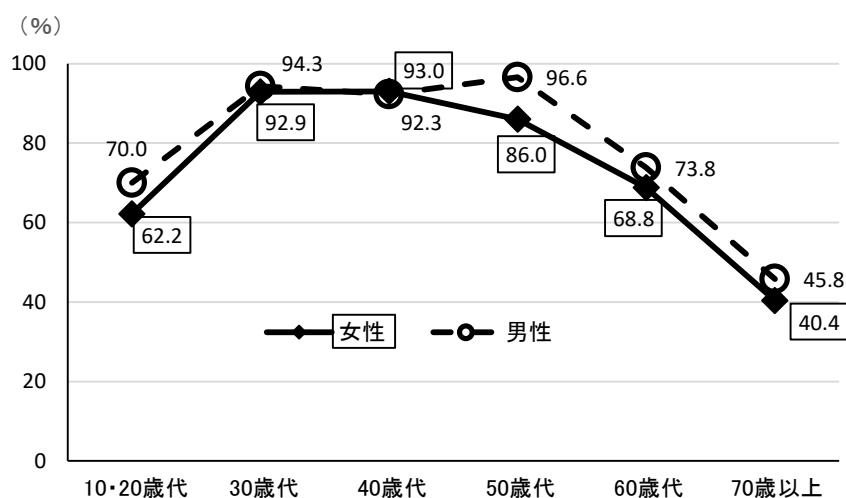
◎職業の有無



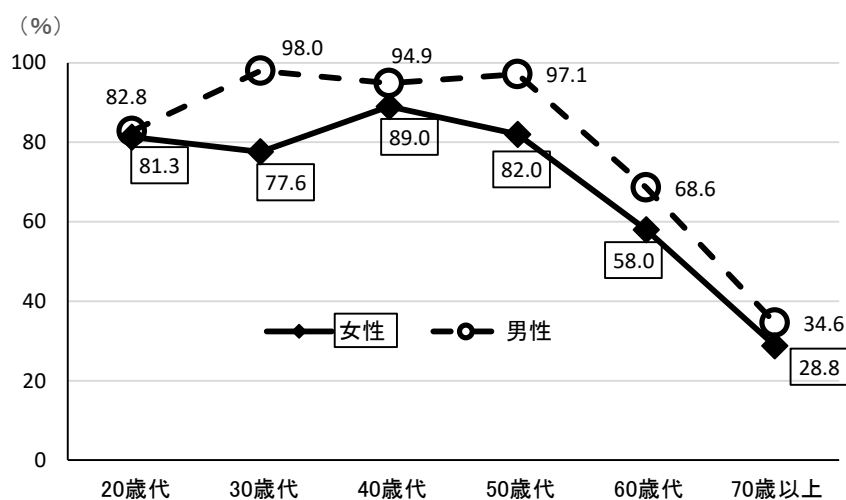
職業を「持っている」女性は75.6%、男性は79.3%となっている。平成26年9月に実施された「うきは市男女共同参画社会に関する市民意識調査」(以下、前回調査という)と比べると、職業を「持っている」女性は8.8ポイント増えている。

◎性・年齢別にみた職業をもっている人の割合

《今回調査》



《前回調査》

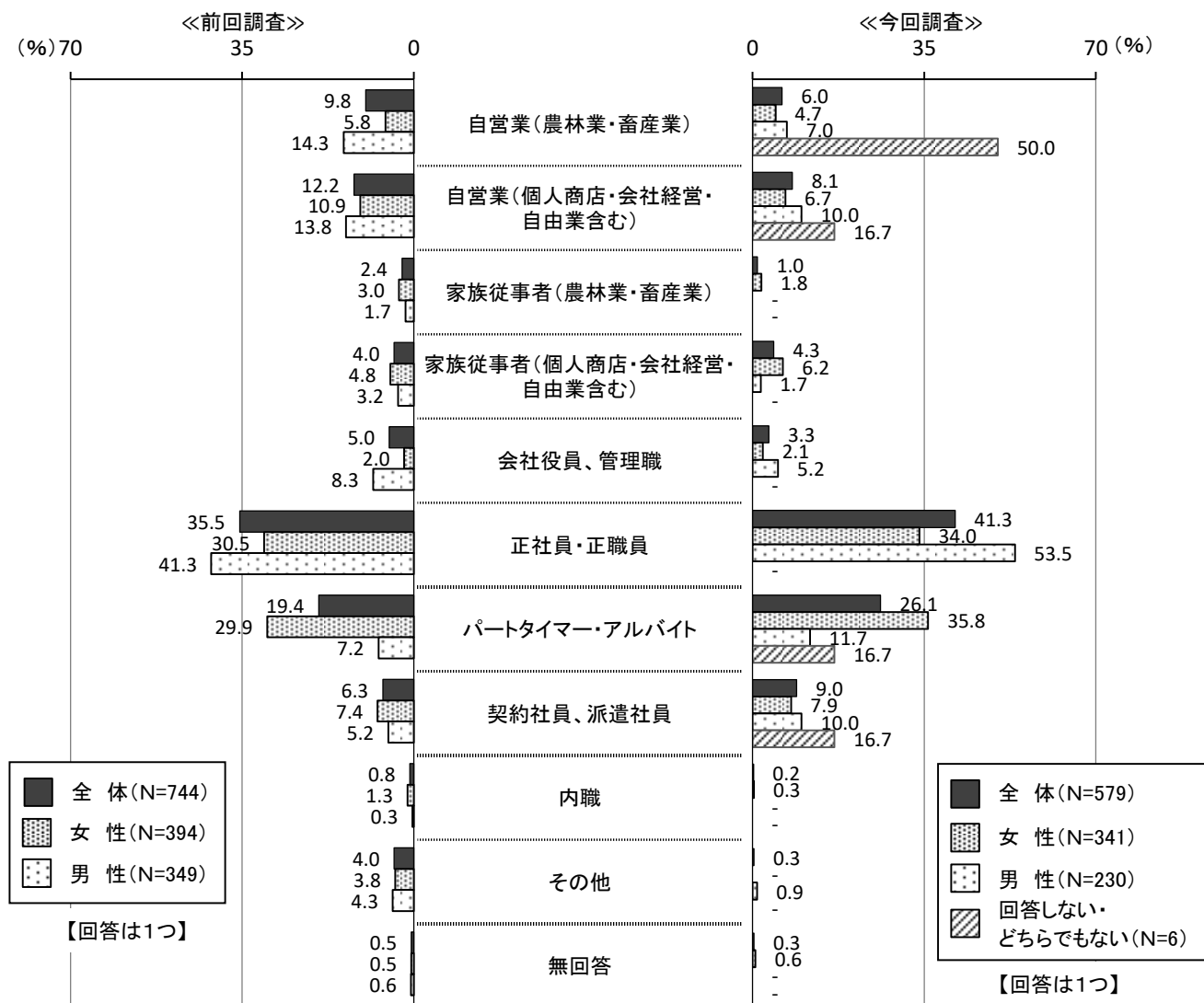


職業をもっている人を年齢別にみると、30歳代と40歳代では男女の割合に差はみられない。その他の年齢では、男性の方が職業をもっている割合は高い。

前回調査と比べると、女性の30歳代以上で職業をもっている割合は前回調査より高くなっており、特に30歳代では15.3ポイント高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

◎職業



回答者の職業は、女性では「パート・アルバイト」(35.8%)と「正社員・正職員」(34.0%)が3割台半ばで同程度となっている。男性は「正社員・正職員」が53.5%と最も多い。

前回調査と比べると、女性は「正社員・正職員」が3.5ポイント、「パート・アルバイト」が5.9ポイント増えている。

5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「－」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問○－○は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

うきは市「男女共同参画推進に関する市民意識調査」平成26年9月実施

内閣府「男女共同参画に関する世論調査」令和4年11月実施

内閣府「男女間における暴力に関する調査」令和5年11月実施

Ⅱ 調査結果

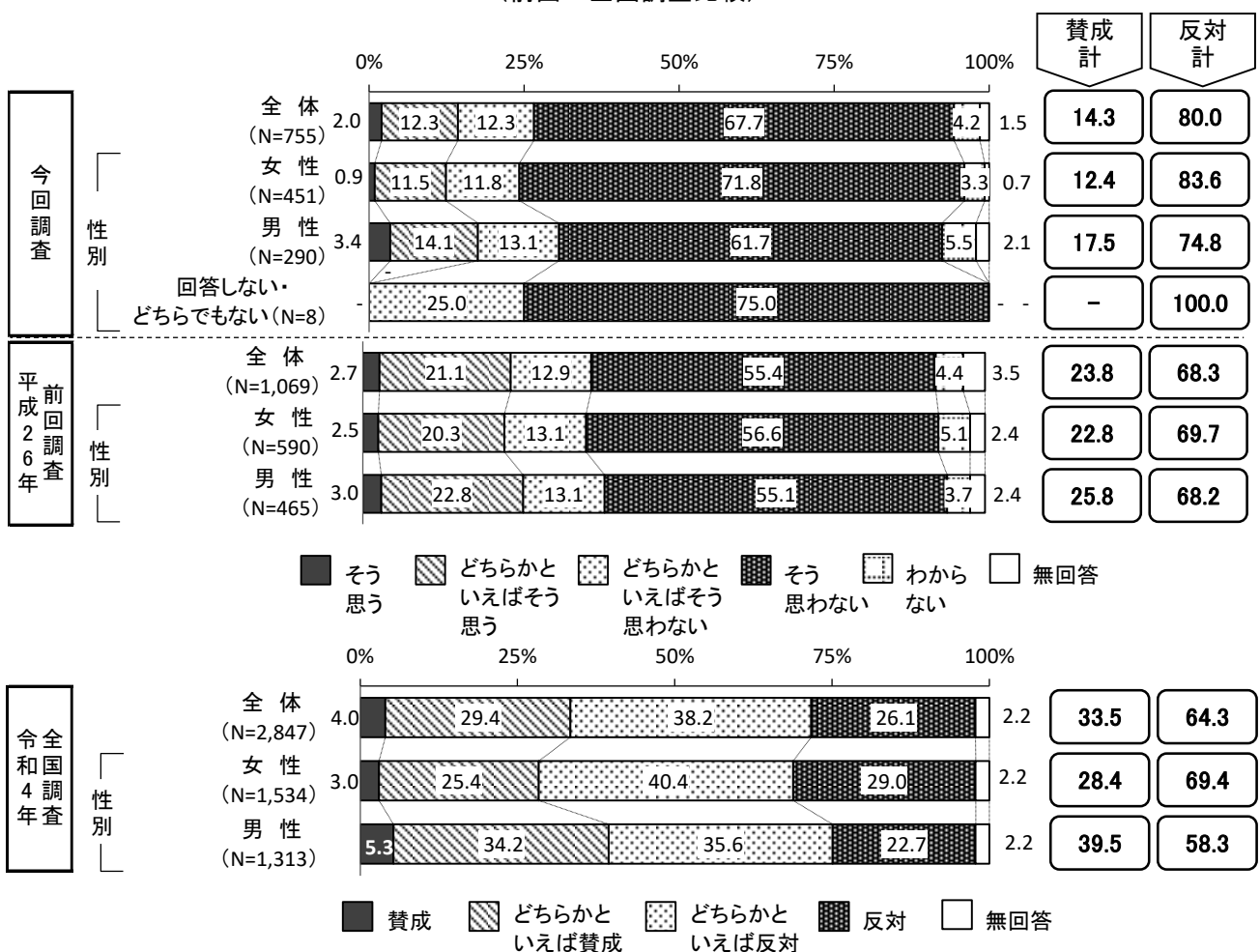
Ⅱ 調査結果

第1章 男女平等について

1. 性別役割分担意識

問1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

図表1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔全体、性別〕
(前回・全国調査比較)



「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「そう思わない」(67.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(12.3%)を合わせた『反対』は80.0%、「そう思う」(2.0%)と「どちらかといえばそう思う」(12.3%)を合わせた『賛成』は14.3%で、『反対』が65.7ポイントと大幅に上回っている。

性別にみると、女性の『反対』は83.6%、男性は74.8%と女性の方が8.8ポイント高い。

前回調査と比べると、『反対』の割合は男女とも増えており、女性で13.9ポイント、男性で6.6ポイントと、女性の方が増え方は大きい。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

令和4年11月に実施された内閣府「男女共同参画に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比べると、選択肢の文言が異なることに留意が必要であるが、うきは市の方が男女とも性別役割分担に『反対』の人が約15ポイント高い。

年齢別にみると、女性は50歳代以下で『反対』が8割台半ばを超えて高いが、男性は10・20歳代で63.3%と最も低く、40歳代で69.3%、30歳代で71.4%と8割に満たず、年齢の低い層では性別で考え方に違いがみられる。

図表1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔全体、年齢別〕

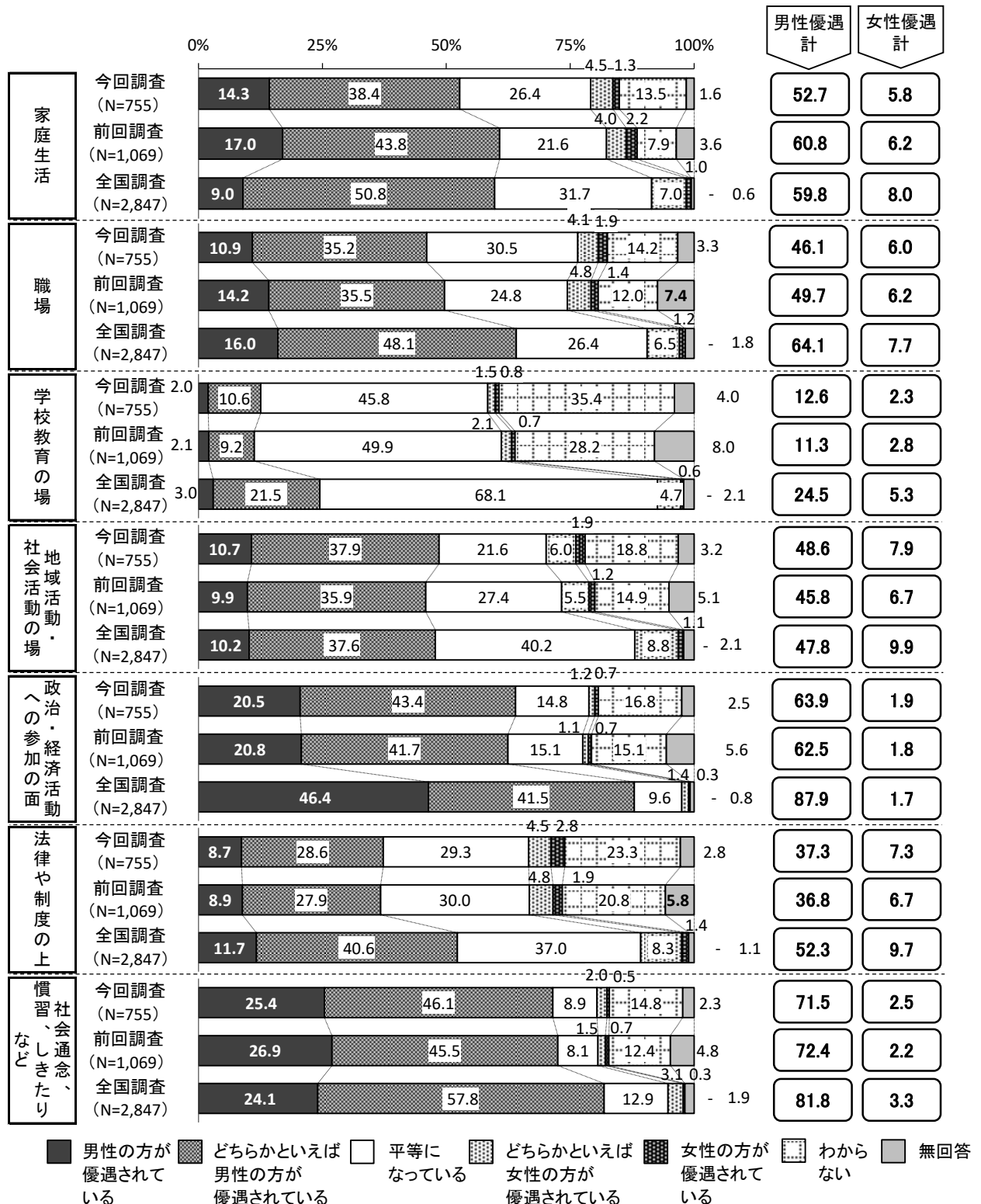
(%)

		標 本 数	そ う 思 う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	思 い ど わ え ち な い そ か う と	い そ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全 体		755 100.0	15 2.0	93 12.3	93 12.3	511 67.7	32 4.2	11 1.5	108 14.3	604 80.0
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	—	4.4	11.1	77.8	4.4	2.2	4.4	88.9
	女性:30歳代	56	—	8.9	12.5	73.2	3.6	1.8	8.9	85.7
	女性:40歳代	86	—	11.6	11.6	74.4	2.3	—	11.6	86.0
	女性:50歳代	86	—	10.5	17.4	68.6	2.3	1.2	10.5	86.0
	女性:60歳代	125	1.6	13.6	8.0	71.2	5.6	—	15.2	79.2
	女性:70歳以上	52	3.8	17.3	11.5	67.3	—	—	21.1	78.8
	男性:10・20歳代	30	3.3	16.7	10.0	53.3	13.3	3.3	20.0	63.3
	男性:30歳代	35	5.7	8.6	14.3	57.1	8.6	5.7	14.3	71.4
	男性:40歳代	52	1.9	23.1	13.5	55.8	1.9	3.8	25.0	69.3
	男性:50歳代	59	1.7	6.8	11.9	72.9	5.1	1.7	8.5	84.8
	男性:60歳代	65	1.5	10.8	16.9	67.7	3.1	—	12.3	84.6
	男性:70歳以上	48	6.3	20.8	10.4	56.3	6.3	—	27.1	66.7
	回答しない・どちらでもない	8	—	—	25.0	75.0	—	—	—	100.0
無回答		8	25.0	—	—	37.5	12.5	25.0	25.0	37.5

2. 男女の地位の平等感

問2. あなたは次のア～キの各分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

図表1-3 男女の地位の平等感〔全体〕(前回・全国調査比較)



※「地域活動・社会活動」は全国調査では「自治会やNPOの地域活動の場」

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

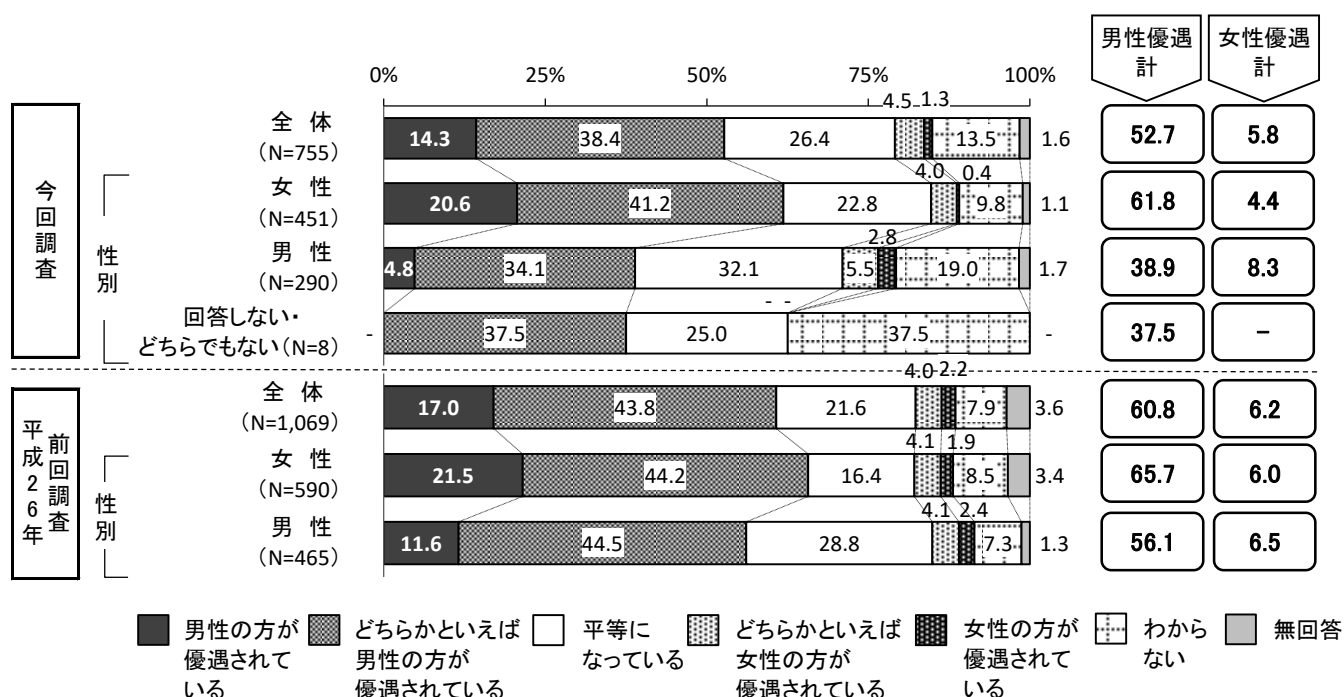
男女の地位の平等感について、7分野についてたずねた。「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』が高いのは「社会通念、慣習、しきたりなど」(71.5%)や「政治・経済活動への参加の面」(63.9%)などで6割を超え、その他「家庭生活」(52.7%)、「地域活動・社会活動の場」(48.6%)、「職場」(46.1%)などで4割台半ばから約5割、「法律や制度の上」(37.3%)で約4割である。「学校教育の場」では「平等になっている」が45.8%と最も高い。

前回調査と比べると、「家庭生活」で『男性優遇』が8.1ポイント減り、「平等になっている」が4.8ポイント増えている。また「職場」でも『男性優遇』が3.6ポイント減り、「平等になっている」が5.7ポイント増えている。その他の分野では前回調査と同様の結果となっている。

全国調査では「わからない」という項目がないため、留意が必要であるが、「平等になっている」の割合は、「職場」「政治・経済活動への参加の面」を除く分野で今回調査の方が低くなっている。

ア. 家庭生活

図表1-4 家庭生活での男女の地位の平等感〔全体、性別〕(前回調査比較)



「家庭生活」について性別にみると、「平等になっている」は男性が32.1%で、女性(22.8%)より9.3ポイント高く、また、女性の『男性優遇』は61.8%と男性(38.9%)より22.9ポイント高いなど、男女の認識の違いが大きく、女性の不平等感が強い分野となっている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合が減り、「平等になっている」が増えているが、特に男性は『男性優遇』が17.2ポイントと大きく減少している。

年齢別にみると、男女とも年齢の低い層で『男性優遇』の割合は低い傾向がみられ、特に男性の10・20歳代では20.0%と最も低く、「平等になっている」が46.7%と最も高くなっている。女性の40歳代では『男性優遇』が69.8%と最も高く、50歳代、60歳代でも約6割と高い。

婚姻状況別にみると、女性の既婚・パートナーと暮らしている人で、『男性優遇』は64.8%に対し、男性は46.6%と女性の方が18.2ポイント高い。「平等になっている」は男性の既婚・パートナーと暮らしている人では39.2%であるが、女性は24.6%と14.6ポイント低いなど、性別によって違いがみられる。

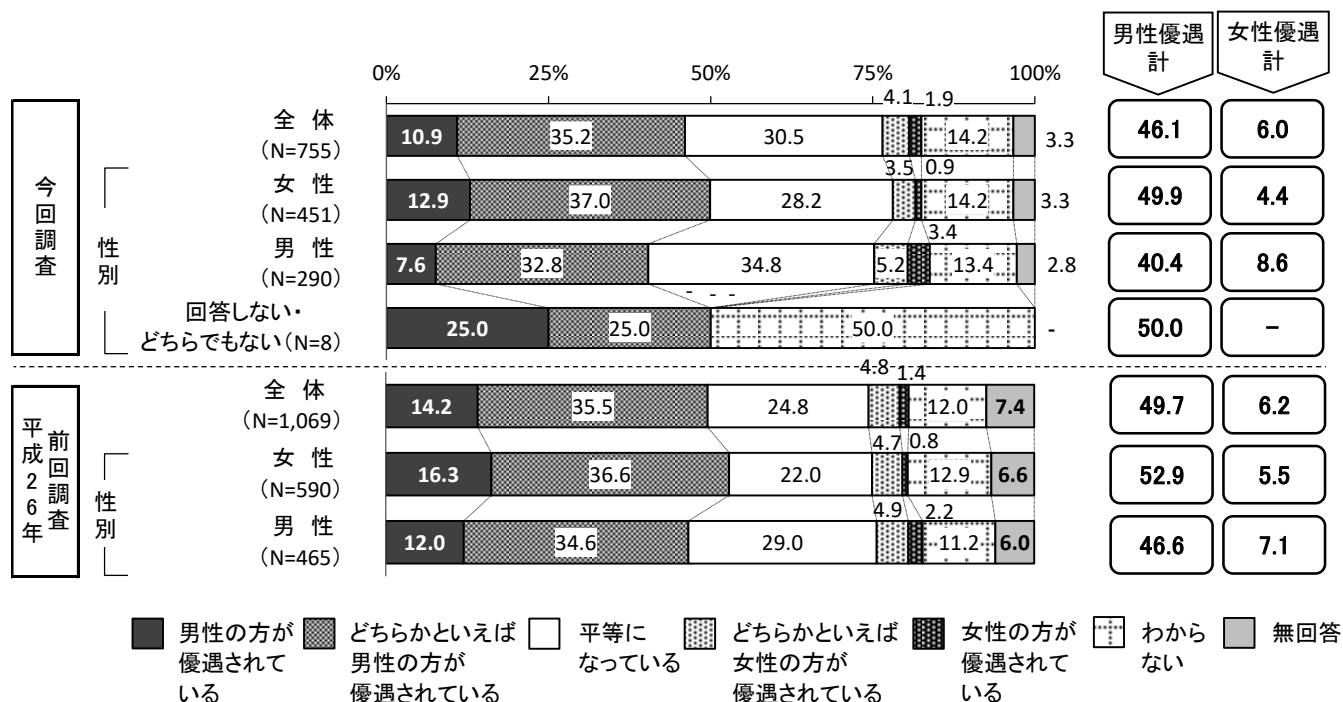
図表1－5 家庭生活での男女の地位の平等感〔全体、年齢別、婚姻状況別〕

		標 本 数	さ 男 性 の 優 遇	先 ば ど さ 男 性 ら て の か い 方 と る が い 優 え	る 平 等 に な っ て い	遇 ば ど さ 女 性 ら て の か い 方 と る が い 優 え	さ 女 性 の 優 遇	わ か ら な い	無 回 答	男 性 優 遇 計	女 性 優 遇 計
全 体		755 100.0	108 14.3	290 38.4	199 26.4	34 4.5	10 1.3	102 13.5	12 1.6	398 52.7	44 5.8
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	13.3	35.6	22.2	4.4	2.2	20.0	2.2	48.9	6.6
	女性:30歳代	56	21.4	37.5	26.8	—	—	12.5	1.8	58.9	—
	女性:40歳代	86	25.6	44.2	17.4	4.7	1.2	7.0	—	69.8	5.9
	女性:50歳代	86	12.8	48.8	23.3	3.5	—	11.6	—	61.6	3.5
	女性:60歳代	125	24.8	38.4	23.2	5.6	—	7.2	0.8	63.2	5.6
	女性:70歳以上	52	21.2	38.5	26.9	3.8	—	5.8	3.8	59.7	3.8
	男性:10・20歳代	30	—	20.0	46.7	6.7	—	26.7	—	20.0	6.7
	男性:30歳代	35	5.7	20.0	31.4	2.9	5.7	31.4	2.9	25.7	8.6
	男性:40歳代	52	9.6	36.5	26.9	7.7	5.8	13.5	—	46.1	13.5
	男性:50歳代	59	—	32.2	32.2	5.1	3.4	23.7	3.4	32.2	8.5
	男性:60歳代	65	9.2	40.0	32.3	1.5	1.5	13.8	1.5	49.2	3.0
	男性:70歳以上	48	2.1	45.8	27.1	10.4	—	12.5	2.1	47.9	10.4
	回答しない・どちらでもない 無回答	8 8	— 12.5	37.5 37.5	25.0 25.0	— —	— —	37.5 —	— 25.0	37.5 50.0	— —
婚 姻 状 況 別	女性:未婚	99	17.2	39.4	17.2	4.0	1.0	18.2	3.0	56.6	5.0
	女性:既婚・パートナーと 暮らしている	281	22.1	42.7	24.6	3.2	0.4	6.8	0.4	64.8	3.6
	女性:離別	43	18.6	39.5	23.3	7.0	—	11.6	—	58.1	7.0
	女性:死別	28	21.4	35.7	25.0	7.1	—	7.1	3.6	57.1	7.1
	男性:未婚	130	4.6	28.5	28.5	4.6	1.5	30.8	1.5	33.1	6.1
	男性:既婚・パートナーと 暮らしている	120	5.8	40.8	39.2	6.7	3.3	3.3	0.8	46.6	10.0
	男性:離別	32	—	31.3	21.9	3.1	6.3	34.4	3.1	31.3	9.4
	男性:死別	7	14.3	42.9	28.6	14.3	—	—	—	57.2	14.3
	回答しない・どちらでもない 無回答	8 7	— 14.3	37.5 28.6	25.0 14.3	— —	— —	37.5 —	— 42.9	37.5 42.9	— —

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

イ. 職場

図表1-6 職場での男女の地位の平等感〔全体、性別〕（前回調査比較）



「職場」について性別にみると、『男性優遇』は女性が 49.9%で男性（40.4%）を 9.5 ポイント上回り、「平等になっている」は男性が 34.8%で女性（28.2%）を 6.6 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 3～6.2 ポイント減り、「平等になっている」が 5.8～6.2 ポイント増えており、前回調査より不平等感は弱くなっている。

年齢別にみると、男女とも年齢の低い層で『男性優遇』の割合は低い傾向がみられ、特に男性の 10・20 歳代では 30.0%と最も低く、「平等になっている」が 46.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、女性の家族従事者（51.8%）や正社員・正職員（49.1%）、パート・アルバイト、契約・派遣社員（50.4%）で『男性優遇』が約 5 割と同じ職業の男性に比べて高くなっている。

図表1-7 職場での男女の地位の平等感〔全体、年齢別、職業別〕

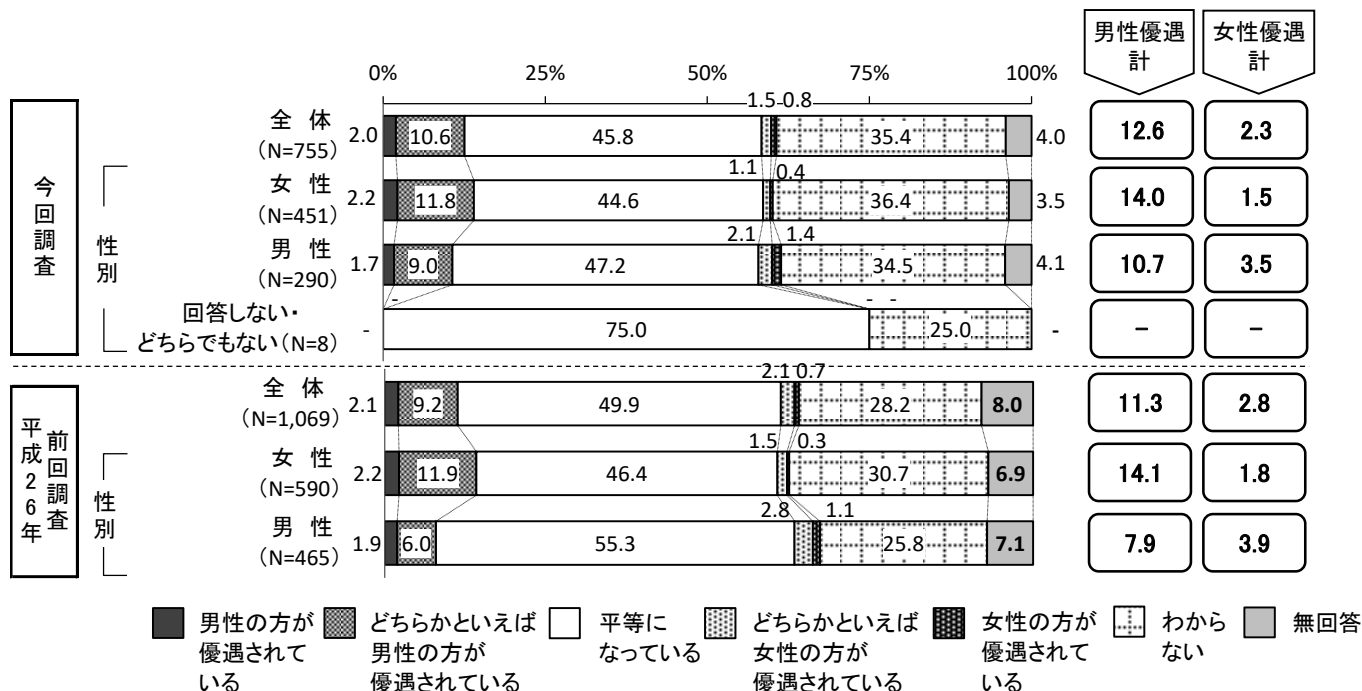
(%)

		標 本 数	さ 男 性 の 方 が 優 遇	先 さ れ て の 方 が い い 優 え	ど ち ら か と い う 方 が い い 優 え	平 等 に な っ て い る	過 ば さ れ て の 方 が い い 優 え	ど ち ら か と い う 方 が い い 優 え	さ 女 性 の 方 が 優 遇	わ か ら な い	無 回 答	男 性 優 遇 計	女 性 優 遇 計
全 体		755 100.0	82 10.9	266 35.2	230 30.5	31 4.1	14 1.9	107 14.2	25 3.3			348 46.1	45 6.0
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	8.9	35.6	33.3	4.4	-	13.3	4.4			44.5	4.4
	女性:30歳代	56	14.3	35.7	28.6	3.6	3.6	12.5	1.8			50.0	7.2
	女性:40歳代	86	14.0	38.4	27.9	5.8	1.2	12.8	-			52.4	7.0
	女性:50歳代	86	10.5	34.9	32.6	4.7	-	16.3	1.2			45.4	4.7
	女性:60歳代	125	12.8	38.4	25.6	2.4	0.8	17.6	2.4			51.2	3.2
	女性:70歳以上	52	17.3	36.5	23.1	-	-	7.7	15.4			53.8	-
	男性:10・20歳代	30	10.0	20.0	46.7	3.3	-	20.0	-			30.0	3.3
	男性:30歳代	35	8.6	34.3	34.3	11.4	2.9	5.7	2.9			42.9	14.3
	男性:40歳代	52	5.8	40.4	23.1	7.7	11.5	9.6	1.9			46.2	19.2
	男性:50歳代	59	3.4	27.1	45.8	3.4	-	18.6	1.7			30.5	3.4
	男性:60歳代	65	7.7	38.5	40.0	1.5	3.1	7.7	1.5			46.2	4.6
	男性:70歳以上	48	12.5	31.3	18.8	6.3	2.1	20.8	8.3			43.8	8.4
	回答しない・どちらでもない	8	25.0	25.0	-	-	-	50.0	-			50.0	-
	無回答	8	-	37.5	37.5	-	-	-	25.0			37.5	-
職 業 別	女性:自営業	39	7.7	28.2	30.8	5.1	-	17.9	10.3			35.9	5.1
	女性:家族従事者	27	7.4	44.4	33.3	3.7	11.1	-	-			51.8	14.8
	女性:会社役員、管理職	7	-	28.6	57.1	14.3	-	-	-			28.6	14.3
	女性:正社員・正職員	116	11.2	37.9	39.7	3.4	-	7.8	-			49.1	3.4
	女性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	149	12.1	38.3	25.5	4.7	0.7	18.1	0.7			50.4	5.4
	女性:内職、その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-			100.0	-
	男性:自営業	39	10.3	23.1	25.6	5.1	2.6	28.2	5.1			33.4	7.7
	男性:家族従事者	4	-	-	100.0	-	-	-	-			-	-
	男性:会社役員、管理職	12	33.3	33.3	16.7	-	8.3	8.3	-			66.6	8.3
	男性:正社員・正職員	123	2.4	36.6	43.9	8.1	3.3	4.9	0.8			39.0	11.4
	男性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	50	6.0	38.0	36.0	2.0	6.0	12.0	-			44.0	8.0
	男性:内職、その他	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0			-	-
	回答しない・どちらでもない	8	25.0	25.0	-	-	-	50.0	-			50.0	-
	無回答	178	16.9	33.7	18.0	1.7	0.6	20.2	9.0			50.6	2.3

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

ウ. 学校教育の場

図表1-8 学校教育の場での男女の地位の平等感〔全体、性別〕（前回調査比較）



「学校教育の場」について性別にみると、男女とも「平等になっている」（女性 44.6%、男性 47.2%）が最も高い。

前回調査と比べると、女性は同様の結果で、男性は「平等になっている」が 8.1 ポイント減り、「わからない」が 8.7 ポイント増えている。

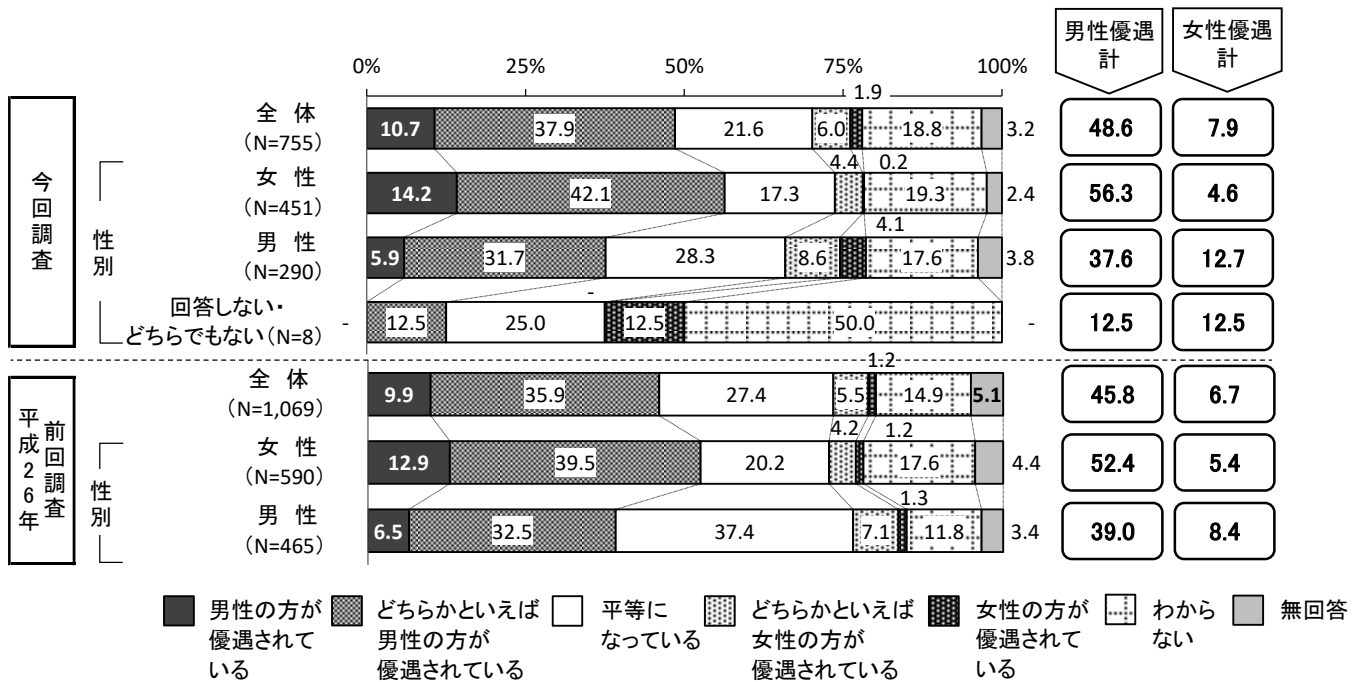
年齢別にみると、男女とも 10・20 歳代では「平等になっている」が約 6 割と高く、男女の 30 歳代や男性の 60 歳代でも 5 割台と高い。

図表1-9 学校教育の場での男女の地位の平等感〔全体、年齢別〕

		標本数	男性優遇	女性優遇	平等	どちらかといえば男性優遇	どちらかといえば女性優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		755	1.5	0.8	45.8	10.6	35.4	4.0	-	12.6	2.3
年齢別	女性:10・20歳代	45	-	8.9	62.2	2.2	-	24.4	2.2	8.9	2.2
	女性:30歳代	56	1.8	8.9	51.8	1.8	3.6	28.6	3.6	10.7	5.4
	女性:40歳代	86	3.5	16.3	41.9	-	-	37.2	1.2	19.8	-
	女性:50歳代	86	-	11.6	32.6	2.3	-	51.2	2.3	11.6	2.3
	女性:60歳代	125	2.4	11.2	44.8	0.8	-	38.4	2.4	13.6	0.8
	女性:70歳以上	52	5.8	9.6	46.2	-	-	25.0	13.5	15.4	-
	男性:10・20歳代	30	-	3.3	60.0	6.7	-	30.0	-	3.3	6.7
	男性:30歳代	35	2.9	8.6	54.3	2.9	2.9	25.7	2.9	11.5	5.8
	男性:40歳代	52	1.9	7.7	42.3	1.9	3.8	42.3	-	9.6	5.7
	男性:50歳代	59	-	10.2	37.3	-	-	45.8	6.8	10.2	-
	男性:60歳代	65	1.5	10.8	56.9	1.5	-	27.7	1.5	12.3	1.5
	男性:70歳以上	48	4.2	10.4	37.5	2.1	2.1	31.3	12.5	14.6	4.2
回答しない・どちらでもない		8	-	-	75.0	-	-	25.0	-	-	-
無回答		8	-	25.0	37.5	-	-	12.5	25.0	25.0	-

エ. 地域活動・社会活動の場では

図表 1-10 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感〔全体、性別〕（前回調査比較）



「地域活動・社会活動の場」について性別にみると、女性は『男性優遇』が 56.3% で男性 (37.6%) よりも 18.7 ポイント高く、「平等になっている」は 17.3% で男性 (28.3%) より 11 ポイント低いなど、女性の不平等感が強い分野となっている。

前回調査と比べると、『男性優遇』は男性ではあまり変わらないが、女性は 3.9 ポイント増加している。

年齢別にみると、女性の 40 歳代で『男性優遇』が 68.6% と最も高く、50 歳代以上でも 5 割を超えている。男性は 40 歳代以上で『男性優遇』が約 3 割から 4 割台半ばと同年代の女性より 13.1 ～24.4 ポイント低い。

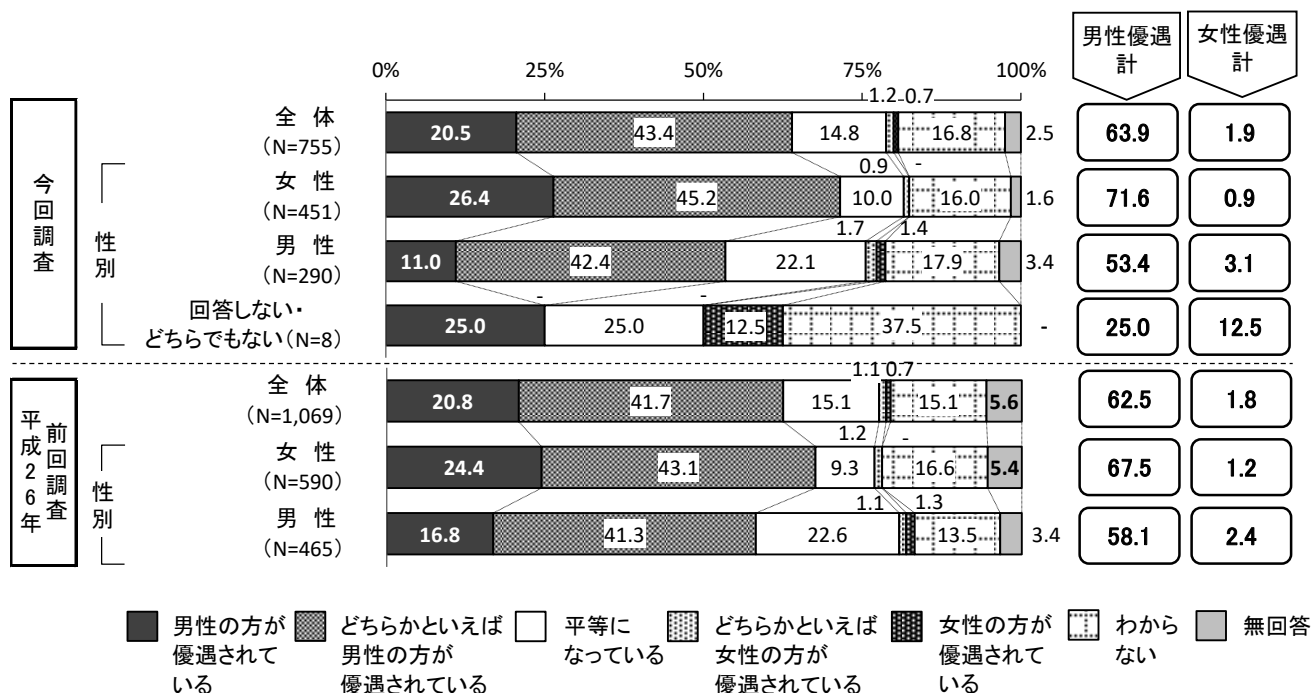
図表 1-11 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感〔全体、年齢別〕

		標本数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		755	81	286	163	45	14	142	24	367	59
		100.0	10.7	37.9	21.6	6.0	1.9	18.8	3.2	48.6	7.9
年齢別	女性:10・20歳代	45	13.3	31.1	24.4	2.2	-	26.7	2.2	44.4	2.2
	女性:30歳代	56	10.7	37.5	16.1	1.8	-	32.1	1.8	48.2	1.8
	女性:40歳代	86	23.3	45.3	7.0	1.2	1.2	20.9	1.2	68.6	2.4
	女性:50歳代	86	11.6	39.5	20.9	4.7	-	22.1	1.2	51.1	4.7
	女性:60歳代	125	12.0	47.2	16.0	9.6	-	12.0	3.2	59.2	9.6
	女性:70歳以上	52	13.5	42.3	26.9	1.9	-	9.6	5.8	55.8	1.9
	男性:10・20歳代	30	3.3	13.3	36.7	13.3	6.7	26.7	-	16.6	20.0
	男性:30歳代	35	5.7	28.6	22.9	11.4	5.7	22.9	2.9	34.3	17.1
	男性:40歳代	52	7.7	36.5	13.5	5.8	7.7	25.0	3.8	44.2	13.5
	男性:50歳代	59	3.4	28.8	28.8	8.5	1.7	22.0	6.8	32.2	10.2
	男性:60歳代	65	4.6	41.5	30.8	7.7	4.6	9.2	1.5	46.1	12.3
	男性:70歳以上	48	10.4	31.3	37.5	8.3	-	6.3	6.3	41.7	8.3
	回答しない・どちらでもない	8	-	12.5	25.0	-	12.5	50.0	-	12.5	12.5
	無回答	8	-	50.0	25.0	-	-	-	25.0	50.0	-

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

オ. 政治・経済活動への参加の面では

図表1-12 政治・経済活動への参加の面での男女の地位の平等感〔全体、性別〕（前回調査比較）



「政治・経済活動への参加の面」について性別にみると、『男性優遇』は女性で71.6%と高く、男性（53.4%）より18.2ポイント高く、「平等になっている」は12.1ポイント低いなど、女性の不平等感が強い分野となっている。

前回調査と比べると、男性はあまり大きな差はみられないが、女性は『男性優遇』が4.1ポイント増えている。

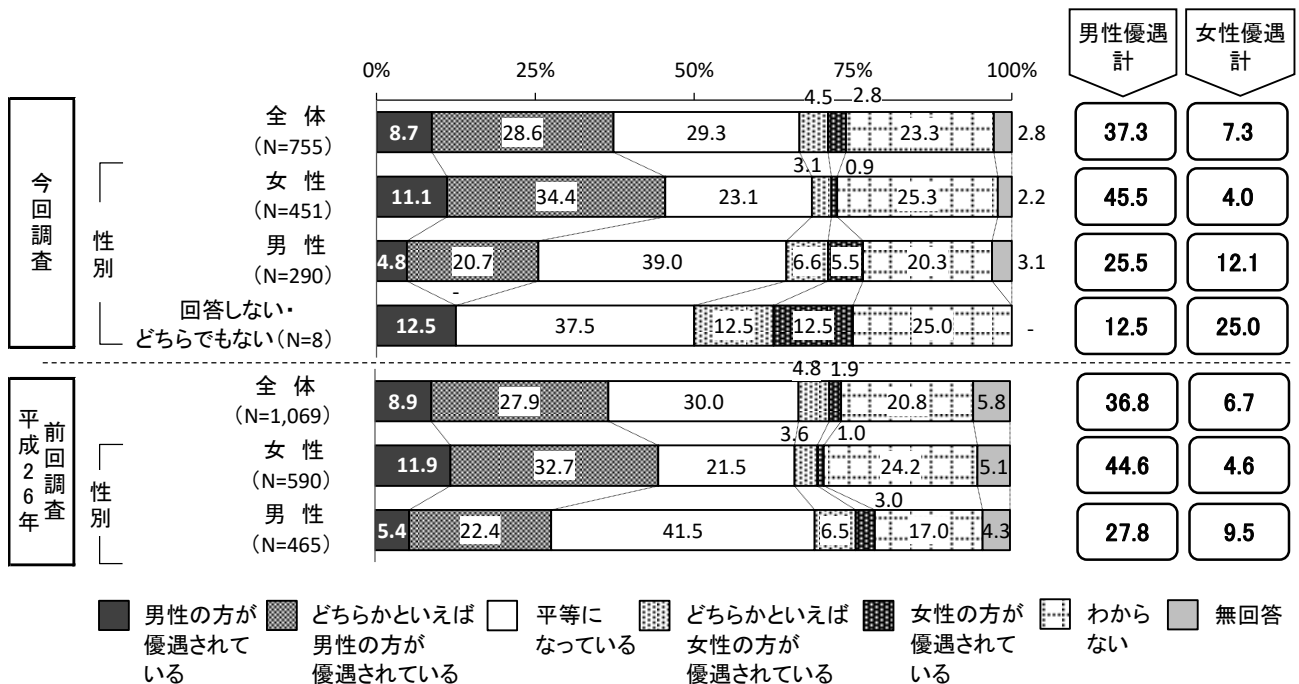
年齢別にみると、女性の40歳代で『男性優遇』が80.3%と最も高く、70歳以上を除く年齢でも約7割と高い。男性も40歳代では65.3%と男性の中では最も高いが、同年代の女性に比べ15ポイント低くなっている。

図表1-13 政治・経済活動への参加の面での男女の地位の平等感〔全体、年齢別〕

		標本数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		755 100.0	155 20.5	328 43.4	112 14.8	9 1.2	5 0.7	127 16.8	19 2.5	483 63.9	14 1.9
年齢別	女性:10・20歳代	45	33.3	37.8	6.7	-	-	20.0	2.2	71.1	-
	女性:30歳代	56	26.8	46.4	7.1	1.8	-	16.1	1.8	73.2	1.8
	女性:40歳代	86	38.4	41.9	5.8	-	-	14.0	-	80.3	-
	女性:50歳代	86	27.9	44.2	8.1	1.2	-	18.6	-	72.1	1.2
	女性:60歳代	125	19.2	50.4	12.0	0.8	-	16.0	1.6	69.6	0.8
	女性:70歳以上	52	15.4	44.2	21.2	1.9	-	11.5	5.8	59.6	1.9
	男性:10・20歳代	30	10.0	26.7	33.3	3.3	-	26.7	-	36.7	3.3
	男性:30歳代	35	8.6	37.1	22.9	2.9	2.9	22.9	2.9	45.7	5.8
	男性:40歳代	52	11.5	53.8	5.8	5.8	3.8	17.3	1.9	65.3	9.6
	男性:50歳代	59	13.6	32.2	25.4	-	-	22.0	6.8	45.8	-
	男性:60歳代	65	13.8	47.7	27.7	-	1.5	7.7	1.5	61.5	1.5
	男性:70歳以上	48	6.3	47.9	20.8	-	-	18.8	6.3	54.2	-
	回答しない・どちらでもない	8	25.0	-	25.0	-	12.5	37.5	-	25.0	12.5
無回答		8	25.0	37.5	12.5	-	-	-	25.0	62.5	-

カ. 法律や制度の上では

図表 1-14 法律や制度の上での男女の地位の平等感〔全体、性別〕（前回調査比較）



「法律や制度の上」について性別にみると、女性は『男性優遇』が 45.5% で男性（25.5%）より 20 ポイント高く、「平等になっている」は 23.1% で男性（39.0%）より 15.9 ポイント低くなっており、女性の不平等感が強い分野となっている。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、女性の 40 歳代で『男性優遇』が 55.8% と最も高い。

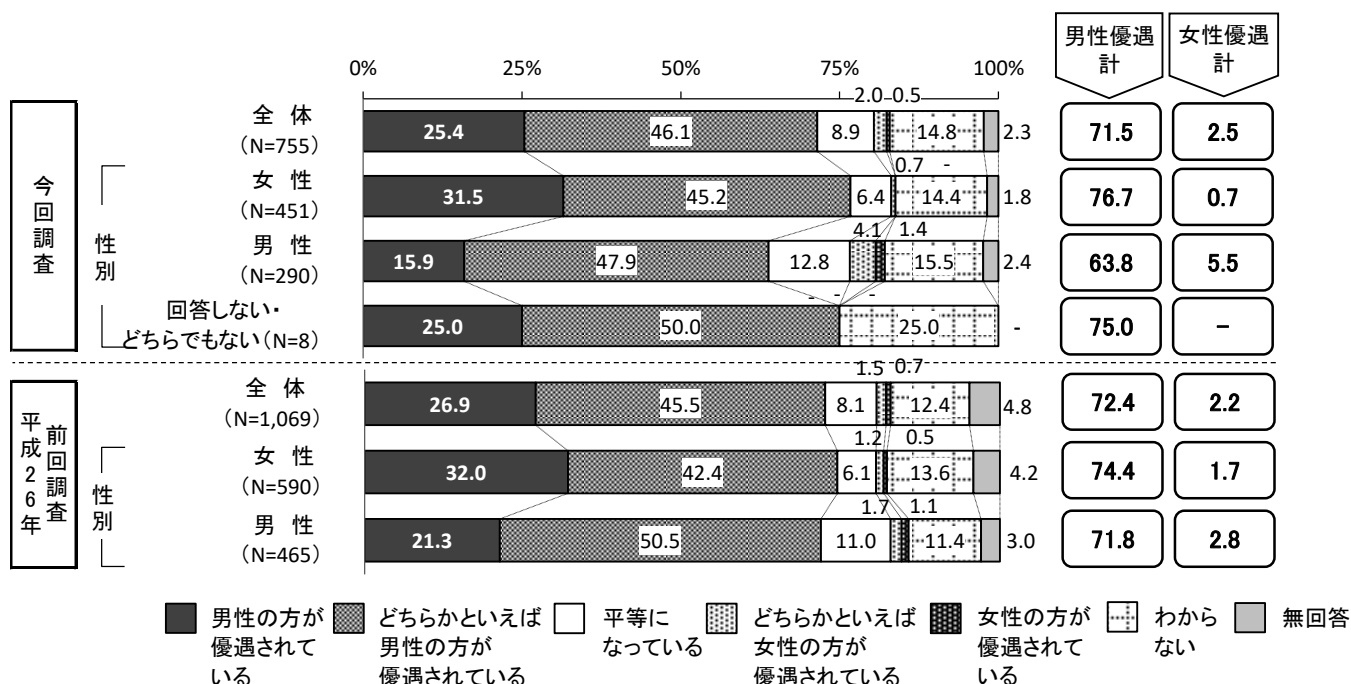
図表 1-15 法律や制度の上での男女の地位の平等感〔全体、年齢別〕

		標本数	平等感 (%)							男性優遇計	女性優遇計
			男性の方が優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答		
全体		755	66	216	221	34	21	176	21	282	55
		100.0	8.7	28.6	29.3	4.5	2.8	23.3	2.8	37.3	7.3
年齢別	女性:10・20歳代	45	13.3	26.7	26.7	4.4	-	26.7	2.2	40.0	4.4
	女性:30歳代	56	10.7	26.8	12.5	5.4	3.6	39.3	1.8	37.5	9.0
	女性:40歳代	86	16.3	39.5	23.3	1.2	-	19.8	-	55.8	1.2
	女性:50歳代	86	11.6	34.9	17.4	2.3	1.2	31.4	1.2	46.5	3.5
	女性:60歳代	125	8.0	34.4	27.2	4.0	-	24.0	2.4	42.4	4.0
	女性:70歳以上	52	7.7	38.5	30.8	1.9	1.9	11.5	7.7	46.2	3.8
	男性:10・20歳代	30	3.3	16.7	40.0	10.0	10.0	20.0	-	20.0	20.0
	男性:30歳代	35	8.6	14.3	37.1	8.6	11.4	17.1	2.9	22.9	20.0
	男性:40歳代	52	3.8	25.0	26.9	7.7	11.5	23.1	1.9	28.8	19.2
	男性:50歳代	59	1.7	20.3	40.7	6.8	1.7	23.7	5.1	22.0	8.5
	男性:60歳代	65	7.7	20.0	44.6	4.6	3.1	18.5	1.5	27.7	7.7
	男性:70歳以上	48	4.2	25.0	41.7	4.2	-	18.8	6.3	29.2	4.2
	回答しない・どちらでもない	8	12.5	-	37.5	12.5	12.5	25.0	-	37.5	-
無回答		8	12.5	25.0	25.0	-	-	12.5	25.0	37.5	-

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

キ. 社会通念・慣習・しきたりなどでは

図表1-16 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感〔全体、性別〕（前回調査比較）



「社会通念・慣習・しきたりなど」について性別にみると、女性の『男性優遇』は76.7%で男性（63.8%）よりも12.9ポイント高く、「平等になっている」は6.4ポイント低いなど、男性自身も『男性優遇』との認識は高いが、女性の不平等感が強い分野となっている。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな差はみられないが、男性は『男性優遇』が8ポイント減っている。

年齢別にみると、女性の40歳代で『男性優遇』が83.7%と最も高く、30歳代と50歳代以上でも7割台半ばから約8割と高い。

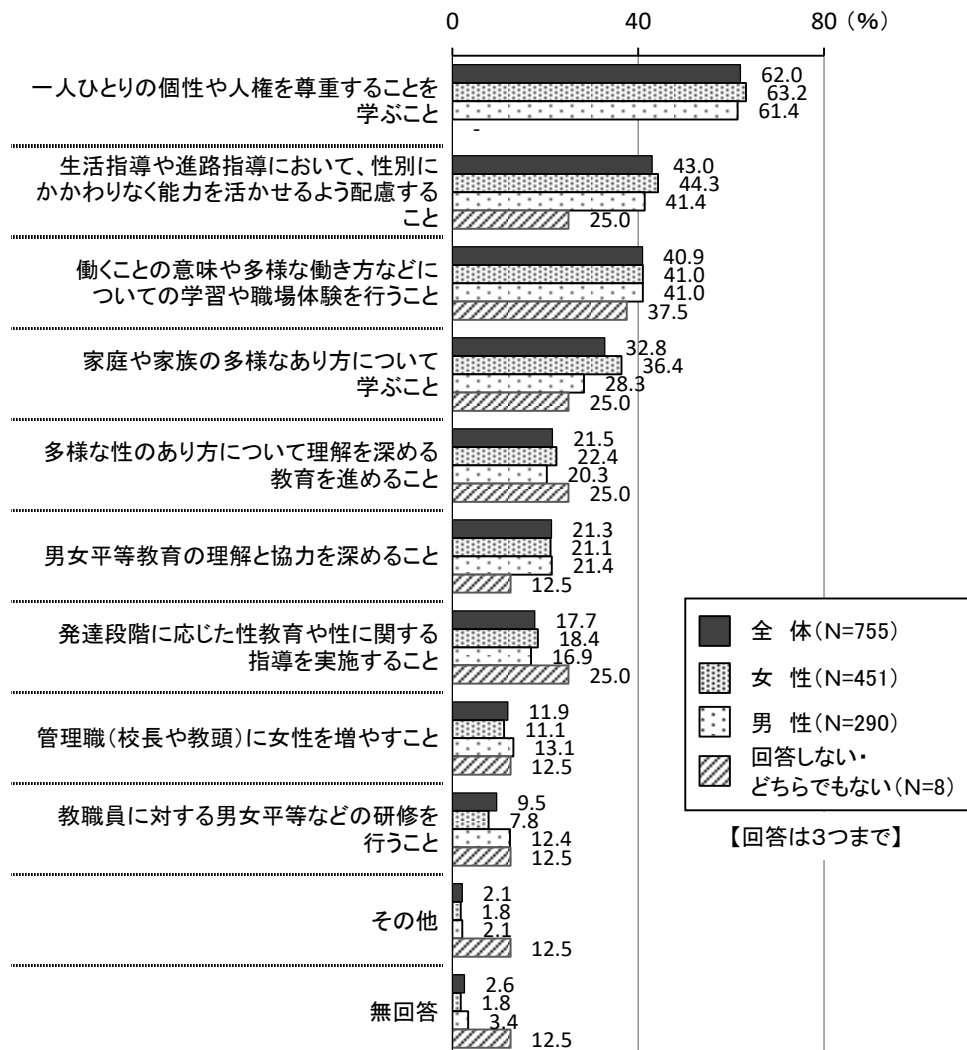
図表1-17 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感〔全体、年齢別〕

		標本数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		755	192	348	67	15	4	112	17	540	19
		100.0	25.4	46.1	8.9	2.0	0.5	14.8	2.3	71.5	2.5
年齢別	女性:10・20歳代	45	24.4	40.0	8.9	2.2	-	22.2	2.2	64.4	2.2
	女性:30歳代	56	28.6	48.2	3.6	-	-	17.9	1.8	76.8	-
	女性:40歳代	86	45.3	38.4	4.7	-	-	11.6	-	83.7	-
	女性:50歳代	86	37.2	41.9	1.2	-	-	19.8	-	79.1	-
	女性:60歳代	125	28.0	50.4	7.2	0.8	-	12.0	1.6	78.4	0.8
	女性:70歳以上	52	17.3	51.9	15.4	1.9	-	5.8	7.7	69.2	1.9
	男性:10・20歳代	30	10.0	43.3	13.3	10.0	-	23.3	-	53.3	10.0
	男性:30歳代	35	20.0	40.0	14.3	2.9	5.7	14.3	2.9	60.0	8.6
	男性:40歳代	52	23.1	38.5	7.7	7.7	-	21.2	1.9	61.6	7.7
	男性:50歳代	59	11.9	44.1	13.6	3.4	1.7	22.0	3.4	56.0	5.1
	男性:60歳代	65	18.5	58.5	9.2	3.1	1.5	7.7	1.5	77.0	4.6
	男性:70歳以上	48	10.4	58.3	18.8	-	-	8.3	4.2	68.7	-
回答しない・どちらでもない		8	25.0	50.0	-	-	-	25.0	-	37.5	-
無回答		8	25.0	12.5	37.5	-	-	-	25.0	37.5	-

3. 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で必要なこと

問3. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（〇は3つまで）

図表 1-18 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で必要なこと [全体、性別]



男女共同参画を進めていくために学校教育で必要なことについて、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が62.0%で最も高く、次いで「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」が43.0%、「働くことの意味や多様な働き方についての学習や職場体験を行うこと」が40.9%、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」が32.8%となっている。

性別でみてもあまり大きな差はみられないが、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は女性が36.4%で男性（28.3%）より8.1ポイント高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は女性の60歳代、男性の10・20歳代と70歳以上で約7割と高く、「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」は女性の70歳以上で57.7%と高い。「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」は男性の40歳代と女性の60歳代以上で約5割から5割台半ばと他の年齢に比べて高くなっている。また、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は女性の30歳代以下で4割台半ばから約5割、「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は女性の10・20歳代で37.8%と年齢の低い層で割合が高い傾向がみられる。

図表1-19 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で必要なこと〔全体、年齢別〕

													(%)	
		標 本 数	重一人 するひと りの性を 学ぶこと や人権を 尊	に発達 する段階 に導いた 性教育や 性	家庭や家 族の多様 なあり方 について 学ぶこと	多様な性 のあり方 について 理解を深 めること	生活指導 や進路指 導におい て、性別 にかかわ りなく能 力を活か せるよう 配慮する こと	男女平等 教育の理 解と協力 を深める こと	体験など を行うこ と	働くこと の意義や 多様な働 き方など についての 学習や職 場	管理職（ 校長や教 頭）に女 性を増やす こと	教職員に 対する男 女平等な などの研 修を行う こと	その他	無 回 答
全 体		755 100.0	468 62.0	134 17.7	248 32.8	162 21.5	325 43.0	161 21.3	309 40.9	90 11.9	72 9.5	16 2.1	20 2.6	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	53.3	37.8	46.7	35.6	26.7	17.8	26.7	20.0	6.7	2.2	-	
	女性:30歳代	56	53.6	25.0	53.6	23.2	32.1	26.8	44.6	8.9	7.1	1.8	-	
	女性:40歳代	86	60.5	20.9	32.6	31.4	45.3	16.3	30.2	16.3	5.8	2.3	1.2	
	女性:50歳代	86	68.6	15.1	36.0	18.6	44.2	22.1	43.0	8.1	7.0	1.2	2.3	
	女性:60歳代	125	72.0	11.2	33.6	20.0	49.6	23.2	48.0	8.8	9.6	0.8	0.8	
	女性:70歳以上	52	57.7	13.5	23.1	7.7	57.7	17.3	48.1	7.7	7.7	3.8	7.7	
	男性:10・20歳代	30	70.0	26.7	33.3	16.7	33.3	16.7	36.7	13.3	10.0	-	3.3	
	男性:30歳代	35	51.4	25.7	25.7	34.3	40.0	8.6	45.7	14.3	5.7	2.9	5.7	
	男性:40歳代	52	53.8	25.0	25.0	28.8	38.5	21.2	55.8	11.5	7.7	1.9	1.9	
	男性:50歳代	59	57.6	11.9	30.5	16.9	39.0	23.7	40.7	15.3	8.5	3.4	3.4	
	男性:60歳代	65	63.1	7.7	36.9	21.5	46.2	26.2	29.2	12.3	21.5	1.5	4.6	
	男性:70歳以上	48	72.9	14.6	16.7	6.3	45.8	25.0	39.6	12.5	16.7	2.1	2.1	
回答しない・どちらでもない		8	-	25.0	25.0	25.0	25.0	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5	
無回答		8	75.0	-	-	-	62.5	50.0	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5	

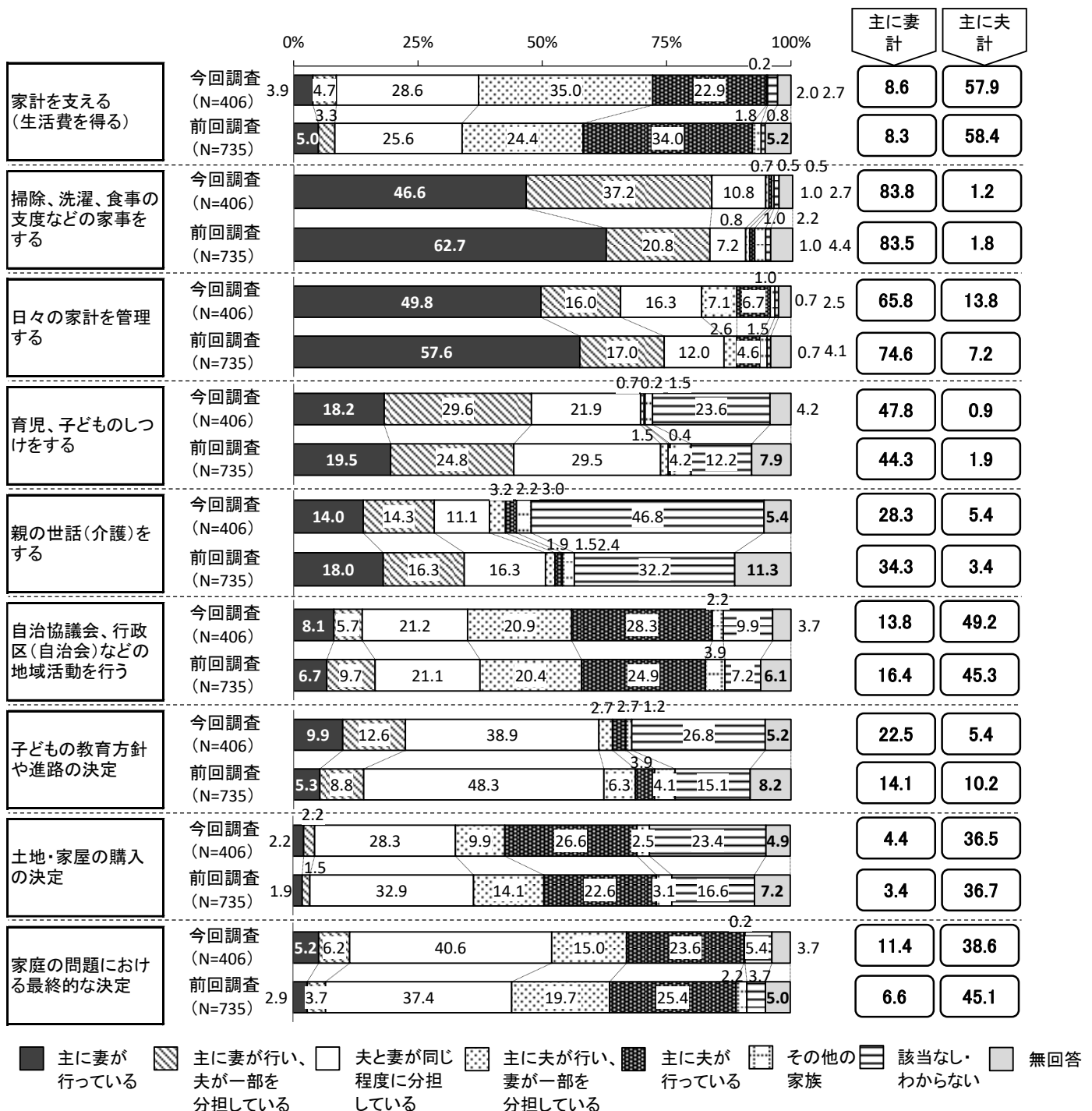
第2章 家庭生活について

1. 家庭内の男女の役割分担

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問 4. あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。
ア～ケの各項目について、最もあてはまるものを選んでください。
(それぞれに○は1つだけ)

図表 2-1 家庭内での役割分担 [全体] (前回調査比較)



第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している人に、家庭内の役割分担をたずねた。

「主に夫が行っている」と「主に夫が行い、一部を妻が分担している」をあわせた『主に夫』の割合が高いのは「家計を支える(生活費を得る)」が57.9%、「自治協議会、行政区(自治会)などの地域活動を行う」が49.2%、「土地・家屋の購入の決定」が36.5%などである。

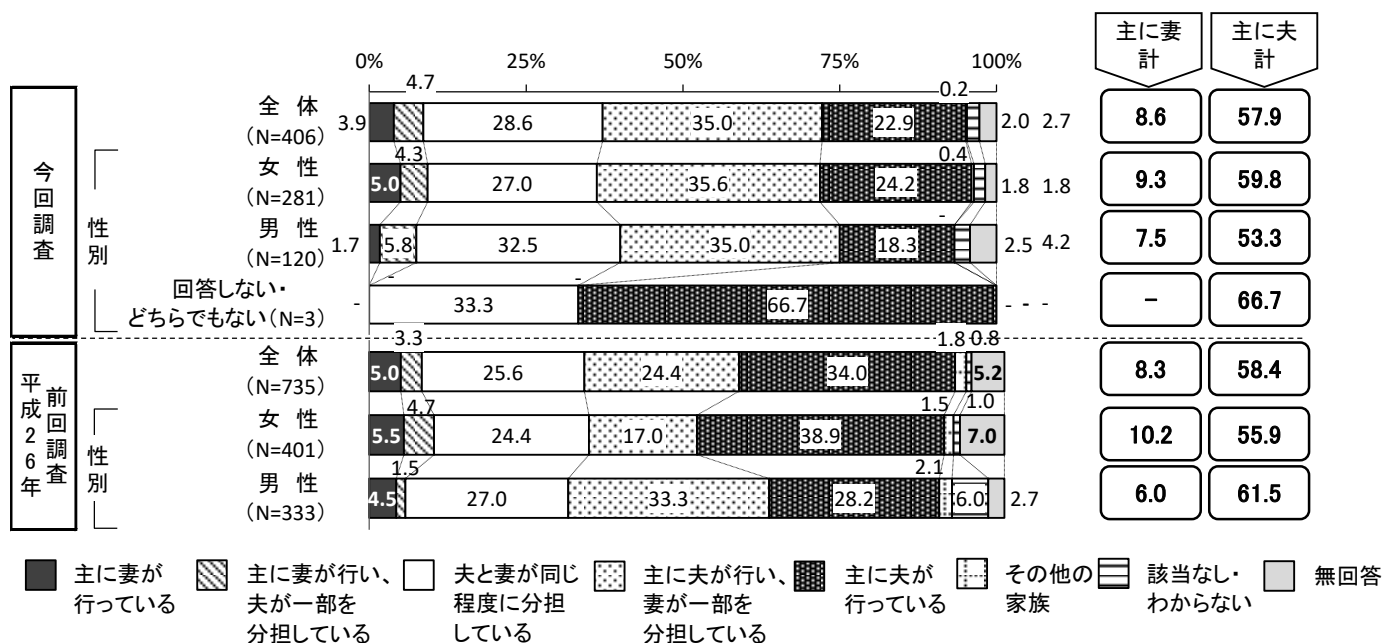
「主に妻が行っている」と「主に妻が行い、一部を夫が分担している」をあわせた『主に妻』の割合が高いのは「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が83.8%、「日々の家計を管理する」が65.8%、「育児、子どものしつけをする」が47.8%、「親の世話(介護)をする」が28.3%などである。

「夫と妻が同じ程度に分担している」が高いのは、「子どもの教育方針や進路の決定」(38.9%)や「家庭の問題における最終的な決定」(40.6%)などであるが、「子どもの教育方針や進路の決定」は『主に妻』(22.5%)、「家庭の問題における最終的な決定」は『主に夫』(38.6%)の割合も約2割から4割と2番目に高い。

前回調査と比べると、「家計を支える(生活費を得る)」の『主に夫』の割合、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」の『主に妻』の割合に大きな差はみられないが、内訳をみると「主に夫(妻)が行っている」の割合が11.1~16.1ポイント減り、「主に夫(妻)が行い、一部を夫(妻)が分担している」の割合が10.6~16.4ポイント増え、また「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合もやや増えている。「育児、子どものしつけをする」「子どもの教育方針や進路の決定」については、「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が7.6~9.4ポイント減り、『主に妻』の割合が3.5~8.4ポイント増えている。「土地・家屋の購入の決定」についてはあまり大きな差はみられない。

ア. 家計を支える(生活費を得る)

図表2-2 家計を支える(生活費を得る)[全体、性別](前回調査比較)



「家計を支える(生活費を得る)」について性別にみると、男女とも『主に夫』(女性 59.8%、男性 53.3%)が5割を超えているが、女性の方が6.5ポイント高く、「夫と妻が同じ程度に分担している」(同 27.0%、32.5%)は、男性の方が5.5ポイント高い。

前回調査と比べると、女性は『主に夫』のうち「主に夫が行っている」は14.7ポイント減り、「主に夫が行い、妻が一部を分担している」が18.6ポイント増えている。男性は『主に夫』の割合が8.2ポイント減っている。

年齢別にみると、女性の30歳代、男性の30歳代以下と60歳代で「夫と妻が同じ程度に分担している」が約4割から5割と高い。

共働き別にみると、共働きの場合「夫と妻が同じ程度に分担している」(女性27.2%、男性40.8%)は男性の方が13.6ポイント高く、『主に夫』(同62.4%、44.7%)は女性の方が17.7ポイント高いなど、共働きの場合、女性は夫が家計を支えている、男性は妻と同程度に分担しているという認識が強い。

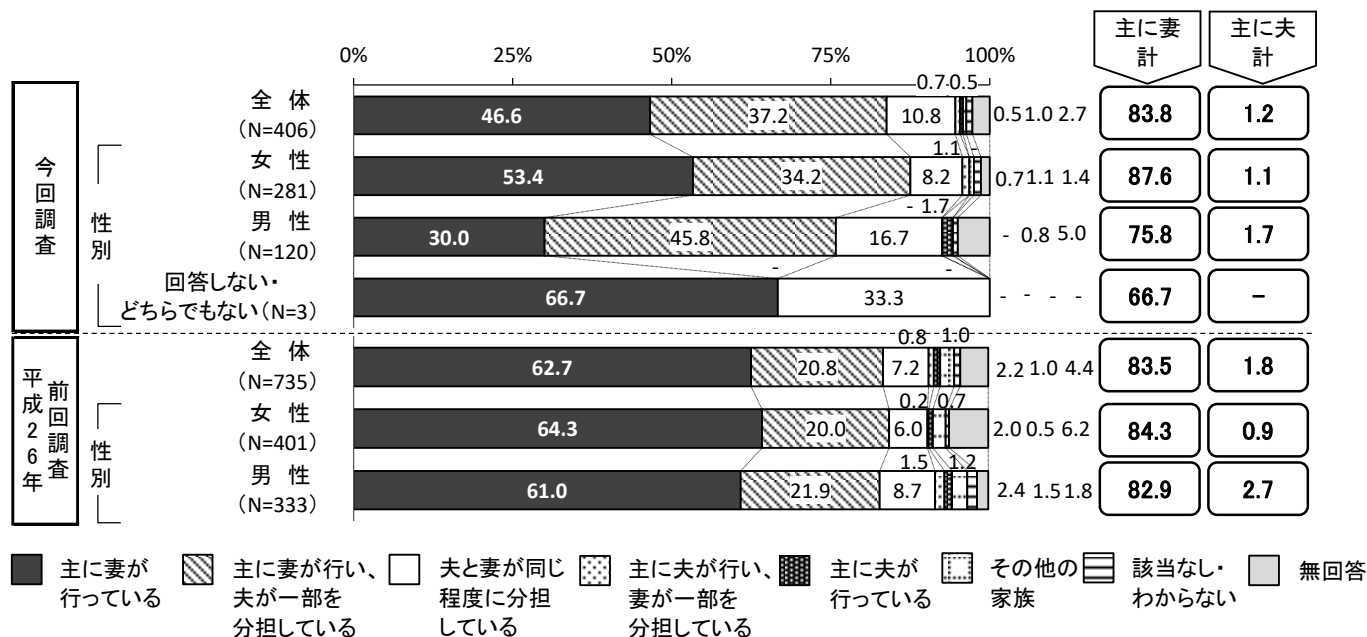
図表2-3 家計を支える(生活費を得る)[全体、年齢別、共働き別]

		標本数	主に妻が行っている	主に夫が行い、妻が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	該当しない・わからない・	無回答	主に妻計	主に夫計
全 体		406 100.0	16 3.9	19 4.7	116 28.6	142 35.0	93 22.9	1 0.2	8 2.0	11 2.7	35 8.6	235 57.9
年 齢 別	女性:10・20歳代	3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0
	女性:30歳代	27	3.7	3.7	40.7	29.6	22.2	-	-	-	7.4	51.8
	女性:40歳代	62	3.2	4.8	19.4	46.8	25.8	-	-	-	8.0	72.6
	女性:50歳代	56	8.9	1.8	26.8	37.5	21.4	1.8	1.8	-	10.7	58.9
	女性:60歳代	91	3.3	4.4	28.6	34.1	26.4	-	1.1	2.2	7.7	60.5
	女性:70歳以上	41	7.3	7.3	26.8	22.0	22.0	-	7.3	7.3	14.6	44.0
	男性:10・20歳代	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0
	男性:30歳代	5	-	-	40.0	40.0	-	-	-	20.0	-	40.0
	男性:40歳代	24	4.2	-	37.5	29.2	25.0	-	4.2	-	4.2	54.2
	男性:50歳代	27	3.7	7.4	33.3	25.9	22.2	-	3.7	3.7	11.1	48.1
	男性:60歳代	36	-	8.3	41.7	30.6	13.9	-	2.8	2.8	8.3	44.5
	男性:70歳以上	26	-	7.7	11.5	53.8	19.2	-	-	7.7	7.7	73.0
共 働 き 別	回答しない・どちらでもない	3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	-	-	66.7
	無回答	3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3
	女性:共働き	173	5.2	3.5	27.2	41.6	20.8	0.6	-	1.2	8.7	62.4
	女性:片働き	58	5.2	6.9	19.0	25.9	41.4	-	1.7	-	12.1	67.3
	女性:その他	4	-	-	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-	50.0
	女性:二人とも働いていない	33	3.0	6.1	36.4	33.3	6.1	-	12.1	3.0	9.1	39.4
	男性:共働き	76	2.6	6.6	40.8	34.2	10.5	-	2.6	2.6	9.2	44.7
	男性:片働き	25	-	4.0	12.0	32.0	44.0	-	4.0	4.0	4.0	76.0
	男性:その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性:二人とも働いていない	11	-	-	18.2	54.5	18.2	-	-	9.1	-	72.7
	回答しない・どちらでもない	3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	-	-	66.7
	無回答	22	4.5	4.5	31.8	13.6	31.8	-	-	13.6	9.0	45.4

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

イ. 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする

図表2-4 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」について性別にみると、『主に妻』が女性 87.6%、男性 75.8%と女性の方が 11.8 ポイント高く、その内「主に妻が行っている」をみると女性は 53.4%に対し、男性は 30.0%と女性の方が 23.4 ポイントも高い。男性は一部を分担していると認識しているが、女性は主に妻との認識の方が強い。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな差はないが、男性は『主に妻』が 7.1 ポイント減り、「夫と妻が同じ程度に分担している」が 8 ポイント増えている。

年齢別にみると、男性は年齢が低い層で『主に妻』の割合が低く、「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が高くなる傾向がみられるが、女性はいずれの年齢でも『主に妻』の割合は 8 割を超えて高い。

共働き別にみると、女性は共働き、片働きに関わらず『主に妻』が約 9 割と高い。男性は共働きで『主に妻』が 72.4%と片働き（88.0%）より 15.6 ポイント低く、「夫と妻が同じ程度に分担している」が 21.1%と高くなっている。

図表2-5 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする〔全体、年齢別、共働き別〕

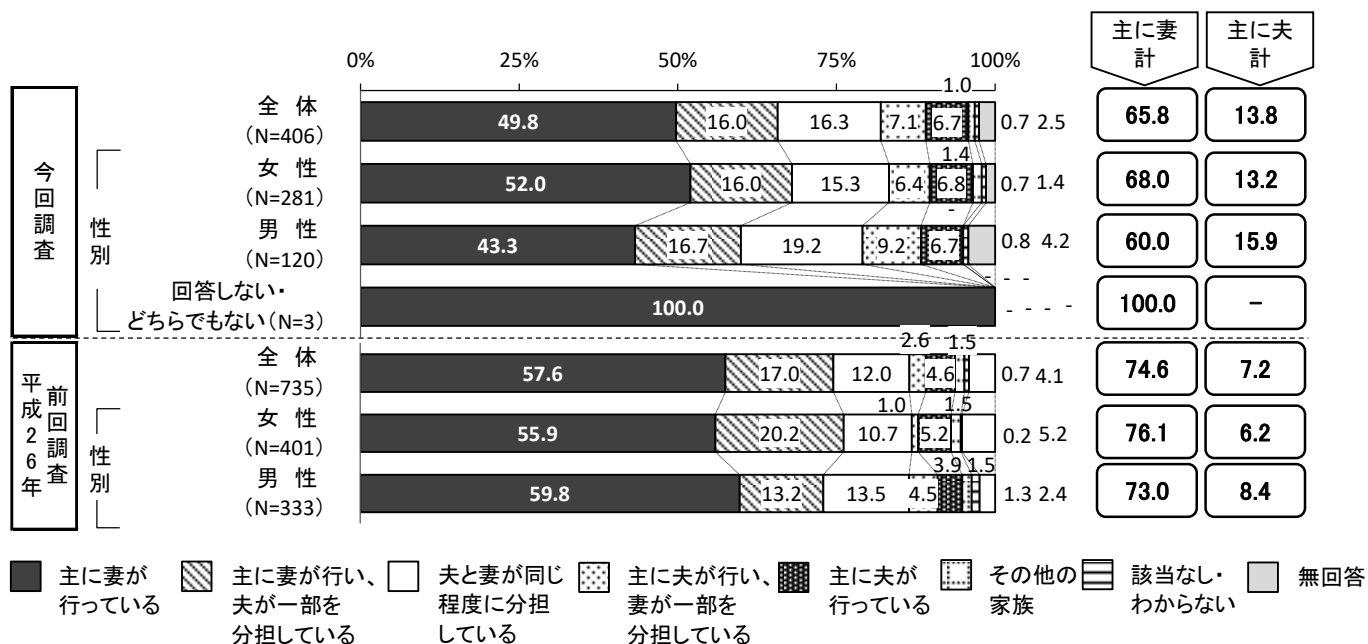
(%)

		標 本 数	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 夫 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 夫 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 夫 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 っ て
全 体		406 100.0	189 46.6	151 37.2	44 10.8	3 0.7	2 0.5	2 0.5	4 1.0	11 2.7	340 83.8	5 1.2
年 齢 別	女性:10・20歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	女性:30歳代	27	33.3	48.1	14.8	-	-	3.7	-	-	81.4	-
	女性:40歳代	62	56.5	33.9	6.5	1.6	-	1.6	-	-	90.4	1.6
	女性:50歳代	56	46.4	35.7	16.1	1.8	-	-	-	-	82.1	1.8
	女性:60歳代	91	57.1	31.9	3.3	1.1	-	-	3.3	3.3	89.0	1.1
	女性:70歳以上	41	61.0	29.3	7.3	-	-	-	-	2.4	90.3	-
	男性:10・20歳代	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
	男性:30歳代	5	-	60.0	20.0	-	-	-	-	20.0	60.0	-
	男性:40歳代	24	37.5	33.3	25.0	-	-	-	4.2	-	70.8	-
	男性:50歳代	27	11.1	66.7	18.5	-	-	-	-	3.7	77.8	-
	男性:60歳代	36	38.9	30.6	19.4	-	5.6	-	-	5.6	69.5	5.6
	男性:70歳以上	26	34.6	57.7	-	-	-	-	-	7.7	92.3	-
共 働 き 別	回答しない・どちらでもない	3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	66.7	-
	無回答	3	66.7	-	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-
	女性:共働き	173	47.4	39.9	9.2	0.6	-	1.2	1.2	0.6	87.3	0.6
	女性:片働き	58	63.8	24.1	5.2	3.4	-	-	1.7	1.7	87.9	3.4
	女性:その他	4	75.0	-	-	-	-	-	-	25.0	75.0	-
	女性:二人とも働いていない	33	63.6	24.2	9.1	-	-	-	-	3.0	87.8	-
	男性:共働き	76	30.3	42.1	21.1	-	1.3	-	1.3	3.9	72.4	1.3
	男性:片働き	25	28.0	60.0	4.0	-	4.0	-	-	4.0	88.0	4.0
	男性:その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性:二人とも働いていない	11	27.3	54.5	9.1	-	-	-	-	9.1	81.8	-
	回答しない・どちらでもない	3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	66.7	-
	無回答	22	50.0	31.8	9.1	-	-	-	-	9.1	81.8	-

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

ウ. 日々の家計の管理をする

図表2-6 日々の家計の管理をする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「日々の家計を管理する」について性別にみると、男女とも『主に妻』（女性 68.0%、男性 60.0%）が6割を超えているが、女性の方が8ポイント高い。

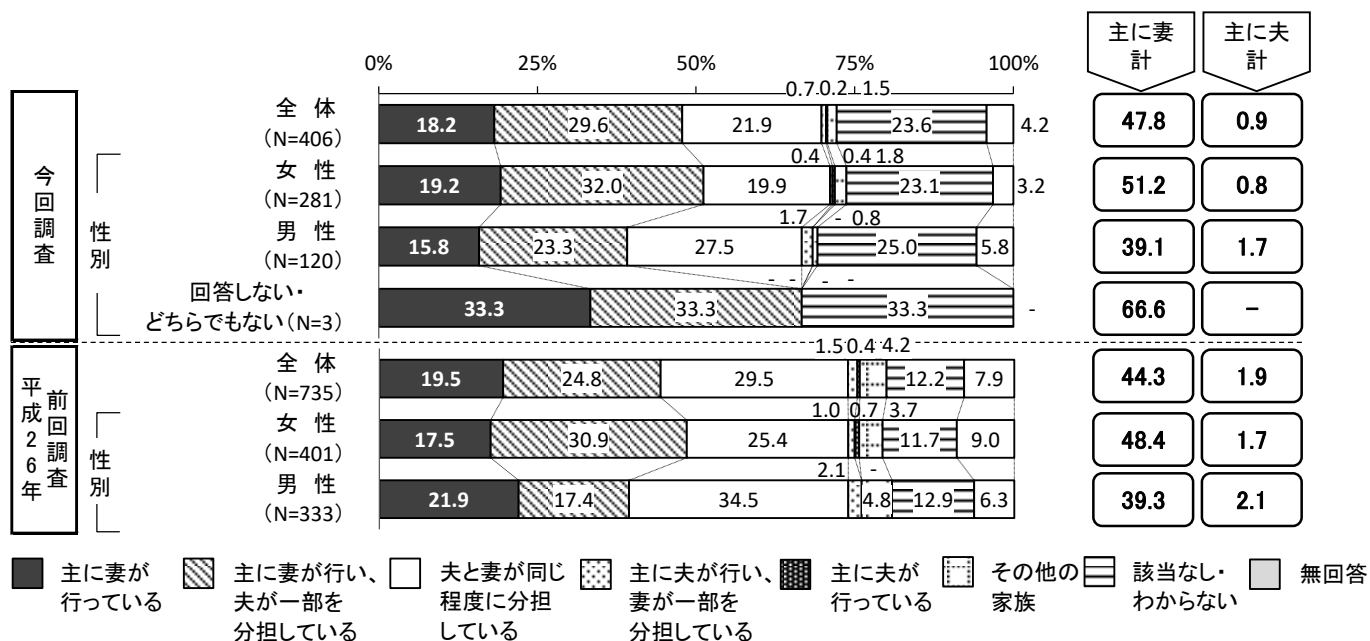
年齢別にみると、男女とも30歳代以下では「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合は40歳代以上に比べて高い。

図表2-7 日々の家計を管理する〔全体、年齢別〕

		標本数	(%)								主に妻計	主に夫計
			主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	該当なし・わからない	無回答		
全体		406	202	65	66	29	27	4	3	10	267	56
		100.0	49.8	16.0	16.3	7.1	6.7	1.0	0.7	2.5	65.8	13.8
年齢別	女性:10・20歳代	3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	66.7	-
	女性:30歳代	27	29.6	22.2	37.0	3.7	3.7	3.7	-	-	51.8	7.4
	女性:40歳代	62	54.8	14.5	12.9	4.8	9.7	3.2	-	-	69.3	14.5
	女性:50歳代	56	53.6	16.1	14.3	5.4	7.1	1.8	1.8	-	69.7	12.5
	女性:60歳代	91	51.6	15.4	15.4	7.7	5.5	-	1.1	3.3	67.0	13.2
	女性:70歳以上	41	61.0	17.1	2.4	9.8	7.3	-	-	2.4	78.1	17.1
	男性:10・20歳代	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
	男性:30歳代	5	20.0	-	60.0	-	-	-	-	20.0	20.0	-
	男性:40歳代	24	50.0	12.5	12.5	12.5	8.3	-	4.2	-	62.5	20.8
	男性:50歳代	27	51.9	14.8	22.2	3.7	3.7	-	-	3.7	66.7	7.4
	男性:60歳代	36	38.9	16.7	16.7	8.3	13.9	-	-	5.6	55.6	22.2
	男性:70歳以上	26	42.3	23.1	15.4	15.4	-	-	-	3.8	65.4	15.4
	回答しない・どちらでもない	3	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
無回答		3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-

エ. 育児、子どものしつけをする

図表2-8 育児、子どものしつけをする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「育児、子どものしつけをする」について性別にみると、『主に妻』は女性 51.2%、男性 39.1%と女性の方が 12.1 ポイント高く、「夫と妻が同じ程度に分担している」は男性が 27.5%で女性 (19.9%) より 7.6 ポイント高い。

前回調査と比べると、『主に妻』の割合については男女ともあまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、男性の 40 歳代で「夫と妻が同じ程度に分担している」が 50.0%と最も高いが、女性の 40 歳代は 22.6%、30 歳代でも 25.9%と約半分の割合である。

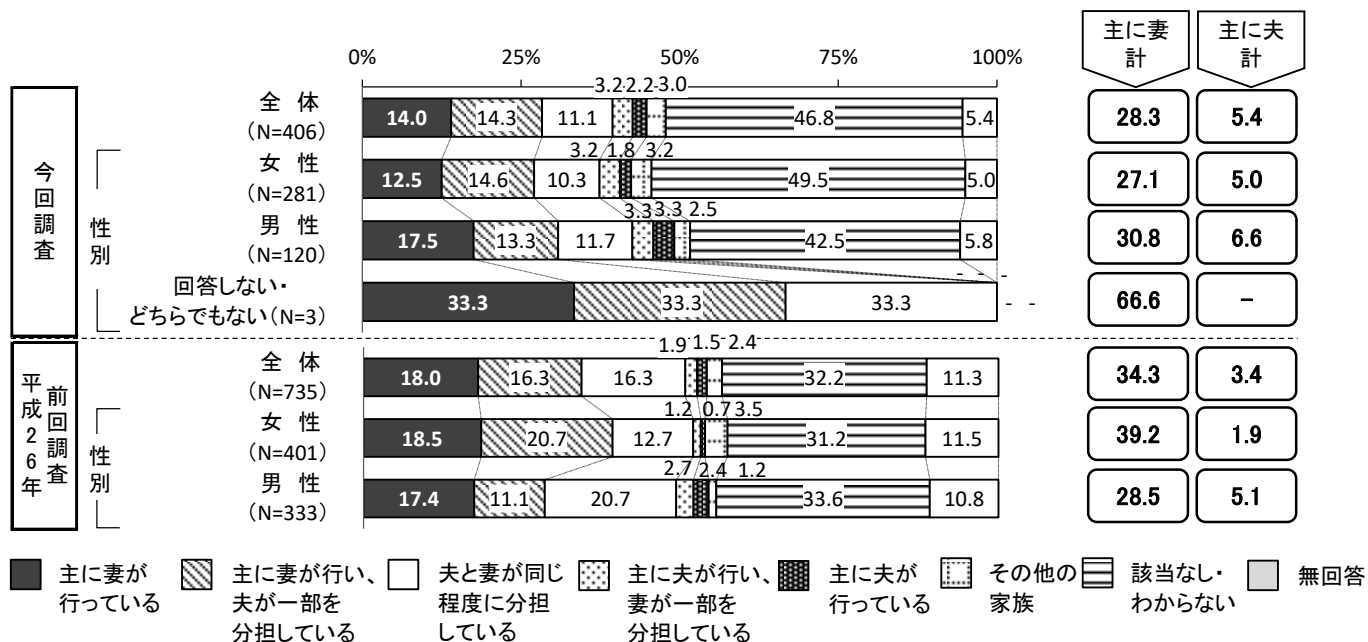
図表2-9 育児、子どものしつけをする〔全体、年齢別〕

		標本数	割合 (%)							主に妻計	主に夫計
			主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	該当なし・わからない	無回答	
全体		406	74	120	89	3	1	6	96	17	194
		100.0	18.2	29.6	21.9	0.7	0.2	1.5	23.6	4.2	47.8
年齢別	女性:10・20歳代	3	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-	66.7
	女性:30歳代	27	11.1	59.3	25.9	-	-	-	3.7	-	70.4
	女性:40歳代	62	22.6	41.9	22.6	1.6	-	-	11.3	-	64.5
	女性:50歳代	56	21.4	28.6	10.7	-	-	1.8	35.7	1.8	50.0
	女性:60歳代	91	16.5	23.1	25.3	-	1.1	3.3	26.4	4.4	39.6
	女性:70歳以上	41	24.4	22.0	12.2	-	-	2.4	29.3	9.8	46.4
	男性:10・20歳代	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0
	男性:30歳代	5	-	60.0	20.0	-	-	-	-	20.0	60.0
	男性:40歳代	24	-	20.8	50.0	8.3	-	-	20.8	-	20.8
	男性:50歳代	27	18.5	22.2	25.9	-	-	-	29.6	3.7	40.7
	男性:60歳代	36	22.2	22.2	30.6	-	-	2.8	13.9	8.3	44.4
	男性:70歳以上	26	23.1	19.2	7.7	-	-	-	42.3	7.7	42.3
	回答しない・どちらでもない	3	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	-	66.6
	無回答	3	-	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

オ. 親の世話（介護）をする

図表2-10 親の世話（介護）をする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「親の世話（介護）をする」について性別にみると、『主に行っている』(女性 27.1%、男性 30.8%)は約3割で男性の方が3.7ポイント高い。

前回調査と比べると、男性の『主に行っている』の割合は約3割とあまり変わらないが、女性は12.1ポイント減っている。

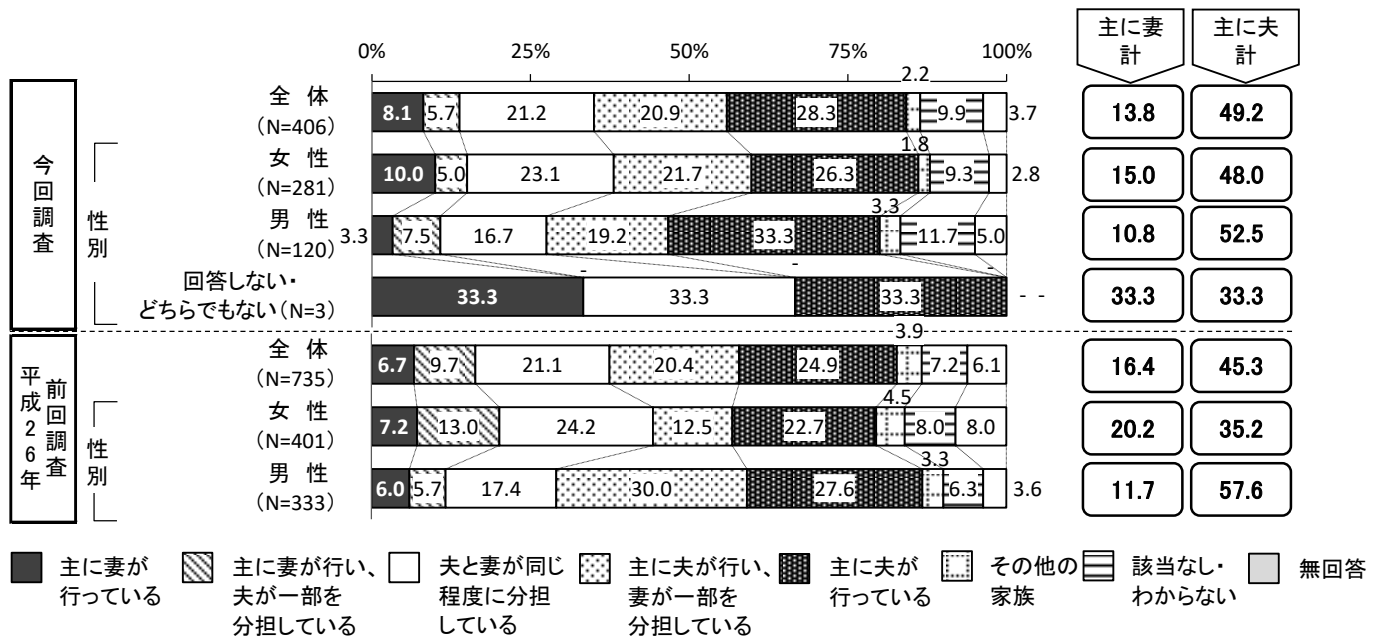
年齢別にみると、『主に行っている』は女性の50歳代と60歳代で3割台半、男性は30歳代と60歳代以上で約4割と高い。

図表2-11 親の世話（介護）をする〔全体、年齢別〕

(%)												
		標 本 数	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 い 、 夫 が 一 部 を 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 が 一 部 を 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て い る	主 に 妻 が 行 い 、 夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て い る
全 体		406 100.0	57 14.0	58 14.3	45 11.1	13 3.2	9 2.2	12 3.0	190 46.8	22 5.4	115 28.3	22 5.4
年 齢 別	女性:10・20歳代	3	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	女性:30歳代	27	-	-	18.5	-	-	-	81.5	-	-	-
	女性:40歳代	62	8.1	8.1	8.1	3.2	-	3.2	69.4	-	16.2	3.2
	女性:50歳代	56	12.5	25.0	10.7	3.6	3.6	3.6	39.3	1.8	37.5	7.2
	女性:60歳代	91	17.6	18.7	13.2	5.5	3.3	4.4	31.9	5.5	36.3	8.8
	女性:70歳以上	41	17.1	12.2	2.4	-	-	2.4	46.3	19.5	29.3	-
	男性:10・20歳代	2	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	男性:30歳代	5	20.0	20.0	-	-	-	-	40.0	20.0	40.0	-
	男性:40歳代	24	12.5	4.2	16.7	4.2	-	4.2	58.3	-	16.7	4.2
	男性:50歳代	27	14.8	3.7	14.8	3.7	7.4	3.7	48.1	3.7	18.5	11.1
	男性:60歳代	36	22.2	19.4	13.9	2.8	2.8	2.8	27.8	8.3	41.6	5.6
	男性:70歳以上	26	19.2	23.1	3.8	3.8	3.8	-	38.5	7.7	42.3	7.6
	回答しない・どちらでもない	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	66.6	-
無回答	3	-	-	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	

カ. 自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動を行う

図表2-12 自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動を行う〔全体、性別〕（前回調査比較）



「自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動を行う」について性別にみると、『主に夫』は女性が48.0%、男性が52.5%と男性の方が4.5ポイント高く、「夫と妻が同じ程度に分担している」は女性が23.1%で男性（16.7%）より6.4ポイント高い。

前回調査と比べると、女性は『主に妻』の割合が5.2ポイント減り、『主に夫』が12.8ポイント増えている。男性はあまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、女性は10・20歳代と60歳代、男性の60歳代で『主に夫』が6割を超えて高く、また女性の50歳代と男性の70歳以上でも5割を超えている。

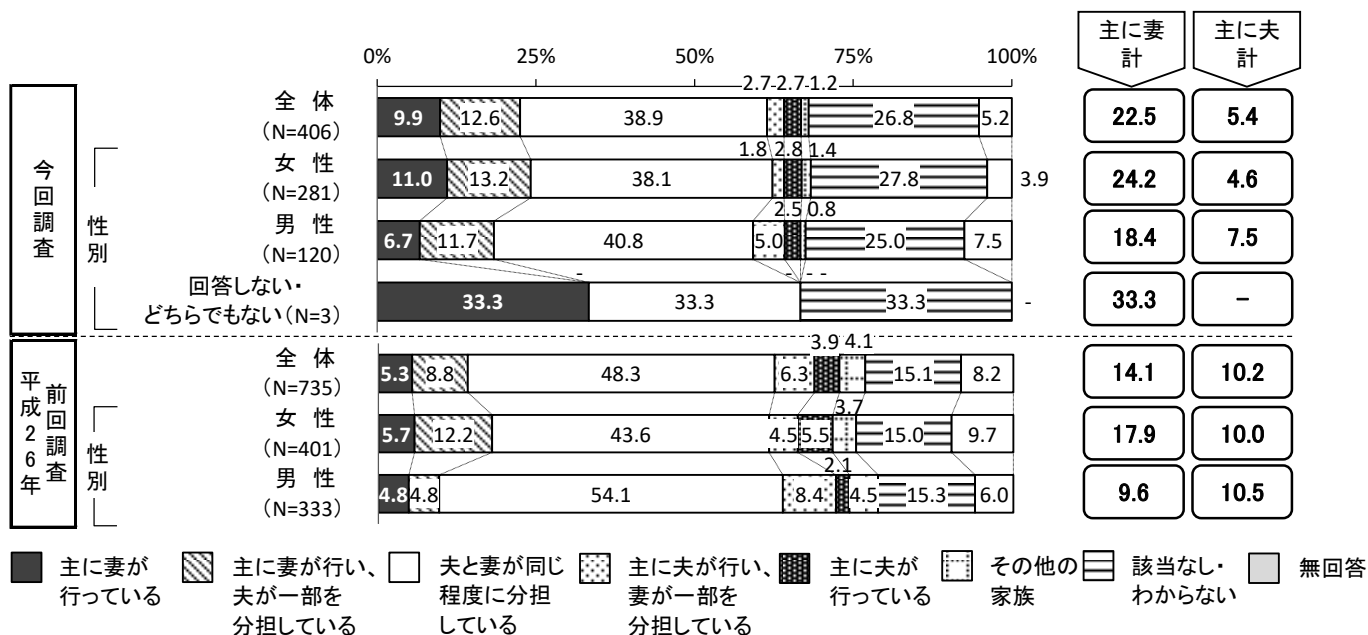
図表2-13 自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動を行う〔全体、年齢別〕

		標本数	参加の割合 (%)							無回答	主計	主計
			主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	該当なし・わからない			
全体		406	33	23	86	85	115	9	40	15	56	200
		100.0	8.1	5.7	21.2	20.9	28.3	2.2	9.9	3.7	13.8	49.2
年齢別	女性:10・20歳代	3	33.3	-	-	66.7	-	-	-	-	33.3	66.7
	女性:30歳代	27	3.7	7.4	18.5	11.1	22.2	11.1	25.9	-	11.1	33.3
	女性:40歳代	62	17.7	8.1	25.8	12.9	17.7	3.2	14.5	-	25.8	30.6
	女性:50歳代	56	5.4	7.1	28.6	26.8	25.0	-	5.4	1.8	12.5	51.8
	女性:60歳代	91	7.7	3.3	19.8	27.5	33.0	-	4.4	4.4	11.0	60.5
	女性:70歳以上	41	12.2	-	24.4	19.5	29.3	-	7.3	7.3	12.2	48.8
	男性:10・20歳代	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-
	男性:30歳代	5	-	20.0	-	-	40.0	-	20.0	20.0	20.0	40.0
	男性:40歳代	24	12.5	12.5	8.3	12.5	29.2	12.5	12.5	-	25.0	41.7
	男性:50歳代	27	-	11.1	22.2	11.1	29.6	-	22.2	3.7	11.1	40.7
	男性:60歳代	36	2.8	-	22.2	25.0	44.4	-	-	5.6	2.8	69.4
	男性:70歳以上	26	-	3.8	15.4	30.8	26.9	3.8	11.5	7.7	3.8	57.7
	回答しない・どちらでもない	3	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	33.3
	無回答	3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	66.6

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

キ. 子どもの教育方針や進路の決定

図表2-14 子どもの教育方針や進路の決定〔全体、性別〕（前回調査比較）



「子どもの教育方針や進学目標を決める」について性別にみると、男女とも「夫と妻が同じ程度に分担している」（女性 38.1%、男性 40.8%）が約4割と高く、『主に妻』は女性の方が 5.8 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「夫と妻が同じ程度に分担している」が 5.5～13.3 ポイント減り、『主に妻』が男女とも 6.3～8.8 ポイント増えている。

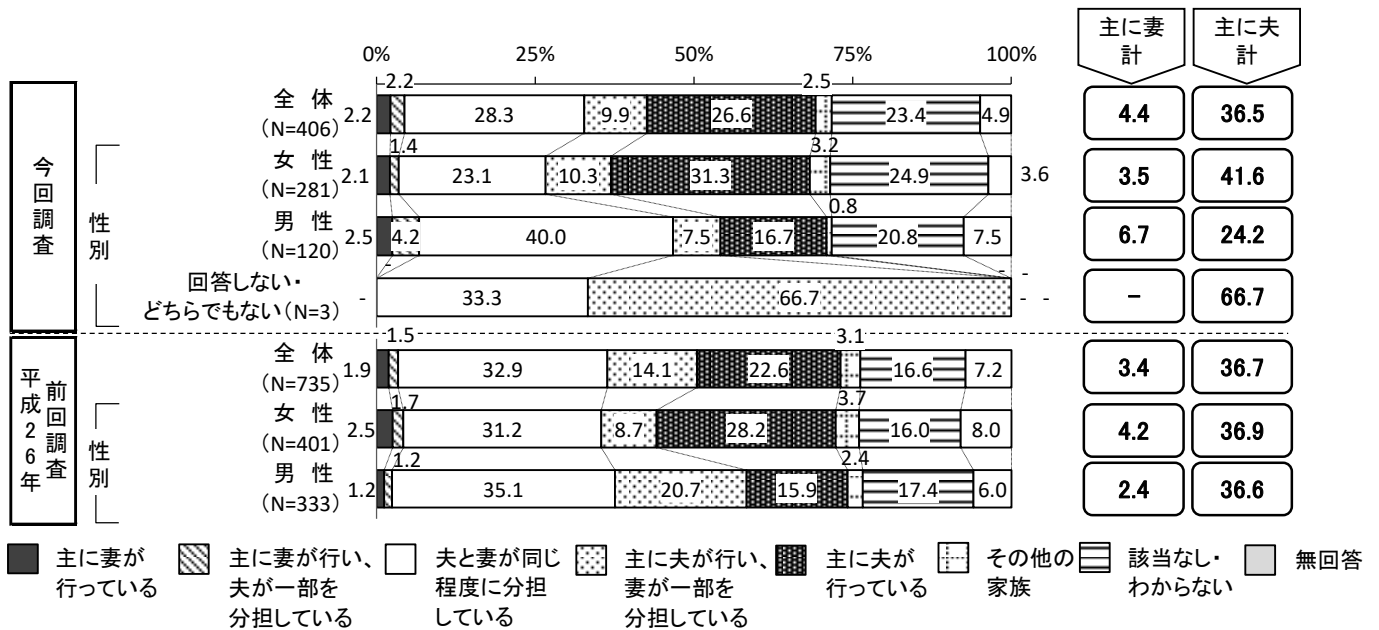
年齢別にみると、男女とも 30 歳代以下と男性の 60 歳代では「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が 5 割から 6 割台半ばと高くなっている。女性の 40 歳代では『主に妻』が 40.4% と他の年齢に比べて高い。

図表2-15 子どもの教育方針や進学目標を決める〔全体、年齢別〕

		標本数	教育方針や進学目標を決める							無回答	主計	主計
			主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	該当なし・わからない			
全体		406	40	51	158	11	11	5	109	21	91	22
		100.0	9.9	12.6	38.9	2.7	2.7	1.2	26.8	5.2	22.5	5.4
年齢別	女性:10・20歳代	3	-	-	66.7	-	-	-	33.3	-	-	-
	女性:30歳代	27	7.4	18.5	63.0	-	-	-	11.1	-	25.9	-
	女性:40歳代	62	19.4	21.0	41.9	1.6	4.8	-	11.3	-	40.4	6.4
	女性:50歳代	56	12.5	16.1	30.4	-	-	1.8	37.5	1.8	28.6	-
	女性:60歳代	91	4.4	7.7	41.8	4.4	2.2	3.3	31.9	4.4	12.1	6.6
	女性:70歳以上	41	14.6	7.3	17.1	-	7.3	-	39.0	14.6	21.9	7.3
	男性:10・20歳代	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-
	男性:30歳代	5	-	20.0	60.0	-	-	-	-	20.0	20.0	-
	男性:40歳代	24	4.2	16.7	45.8	4.2	8.3	-	20.8	-	20.9	12.5
	男性:50歳代	27	7.4	14.8	37.0	3.7	-	-	33.3	3.7	22.2	3.7
	男性:60歳代	36	5.6	8.3	50.0	5.6	2.8	2.8	16.7	8.3	13.9	8.4
	男性:70歳以上	26	11.5	7.7	23.1	7.7	-	-	34.6	15.4	19.2	7.7
	回答しない・どちらでもない	3	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3	-
無回答		3	-	-	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	-

ク. 土地・家屋の購入の決定

図表 2-16 土地・家屋の購入の決定〔全体、性別〕（前回調査比較）



「土地・家屋の購入の決定」について性別にみると、女性は『主に夫』が41.6%、男性は「夫と妻が同じ程度に分担している」が40.0%とそれぞれ最も高くなっており、認識の違いがみられる。

前回調査と比べると、女性は「夫と妻が同じ程度に分担している」が8.1ポイント減り、『主に夫』が4.7ポイント増えている。男性は『主に夫』が12.4ポイント減り、「夫と妻が同じ程度に分担している」が4.9ポイント増え、認識の違いが大きくなっている。

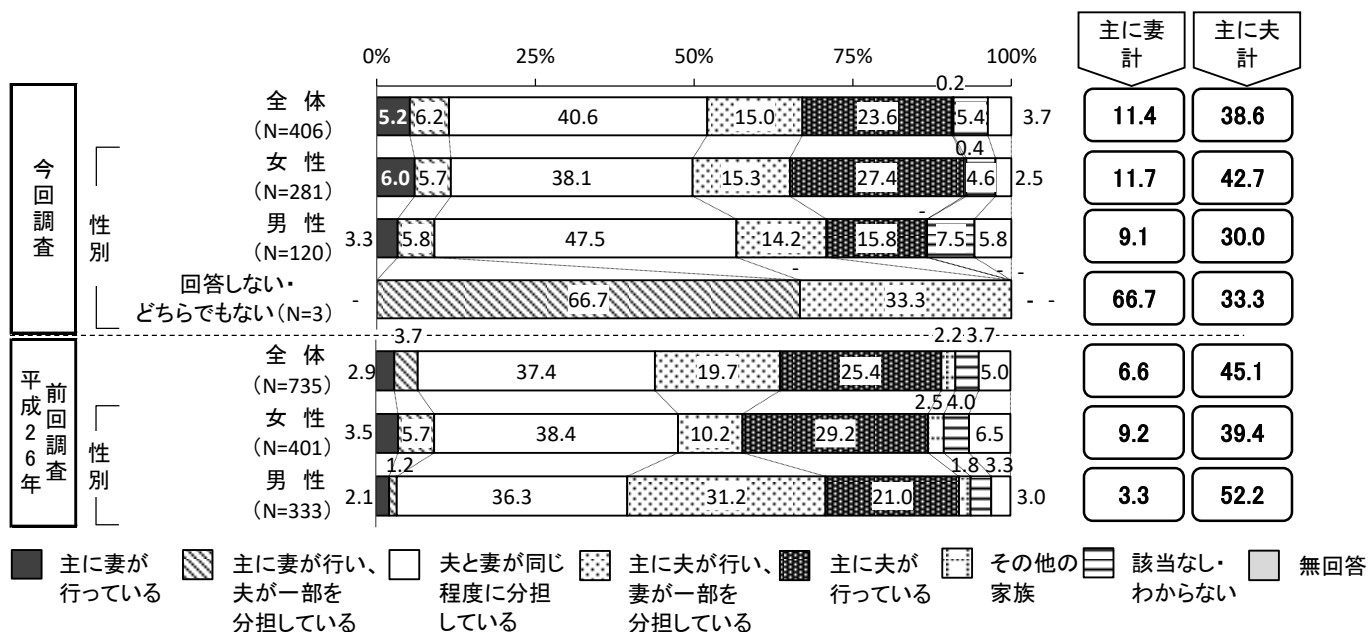
年齢別にみると、女性は40歳代以上で『主に夫』が約4割から5割、男性は30歳代から60歳代で「夫と妻が同じ程度に分担している」が4割から約6割となっている。

図表 2-17 土地・家屋の購入の決定〔全体、年齢別〕

		標本数	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 妻 が 行 い、 夫 が 一 部 を 分 担 し て	夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 分 担 し て	主 に 夫 が 行 い、 妻 が 一 部 を 分 担 し て	主 に 夫 が 行 っ て	そ の 他 の 家 族	わ か ら な い・ 該 当 な し	無 回 答	主 に 妻 計	主 に 夫 計
全 体		406 100.0	9 2.2	9 2.2	115 28.3	40 9.9	108 26.6	10 2.5	95 23.4	20 4.9	18 4.4	148 36.5
年 齢 別	女性:10・20歳代	3	-	-	66.7	-	-	33.3	-	-	-	-
	女性:30歳代	27	-	-	33.3	7.4	25.9	7.4	25.9	-	-	33.3
	女性:40歳代	62	3.2	3.2	16.1	8.1	33.9	3.2	30.6	1.6	6.4	42.0
	女性:50歳代	56	1.8	-	26.8	12.5	35.7	5.4	17.9	-	1.8	48.2
	女性:60歳代	91	3.3	-	23.1	12.1	28.6	1.1	27.5	4.4	3.3	40.7
	女性:70歳以上	41	-	4.9	19.5	9.8	31.7	-	22.0	12.2	4.9	41.5
	男性:10・20歳代	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	100.0
	男性:30歳代	5	-	-	40.0	-	-	-	40.0	20.0	-	-
	男性:40歳代	24	4.2	4.2	37.5	8.3	16.7	4.2	25.0	-	8.4	25.0
	男性:50歳代	27	-	-	63.0	3.7	7.4	-	22.2	3.7	-	11.1
	男性:60歳代	36	5.6	2.8	41.7	8.3	19.4	-	16.7	5.6	8.4	27.7
	男性:70歳以上	26	-	11.5	19.2	7.7	23.1	-	19.2	19.2	11.5	30.8
回答しない・どちらでもない		3	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	66.7
無回答		3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3

ケ. 家庭の問題における最終的な決定

図表2-18 家庭の問題における最終的な決定〔全体、性別〕（前回調査比較）



「家庭の問題における最終的な決定」について性別にみると、女性は『主に夫』が42.7%、男性は「夫と妻が同じ程度に分担している」が47.5%とそれぞれ最も高く、次いで女性は「夫と妻が同じ程度に分担している」が38.1%、男性は『主に夫』が30.0%となっており、「土地・家屋の購入の決定」ほどではないが、認識に違いがみられる。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな差はみられないが、男性は『主に夫』が22.2ポイント減り、「夫と妻が同じ程度に分担している」が11.2ポイント増えている。

年齢別にみると、女性は40歳代以下では「夫と妻が同じ程度に分担している」が約5割から6割台半ば、50歳代以上になると『主に夫』が4割台半ばから約5割と高くなっている。

図表2-19 家庭の問題における最終的な決定〔全体、年齢別〕

		標本数	最終的な決定の割合 (%)							無回答	主に妻計	主に夫計
			主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他の家族	該当なし・わからない			
全体		406	21	25	165	61	96	1	22	15	46	157
		100.0	5.2	6.2	40.6	15.0	23.6	0.2	5.4	3.7	11.4	38.6
年齢別	女性:10・20歳代	3	-	-	66.7	-	33.3	-	-	-	-	33.3
	女性:30歳代	27	3.7	7.4	59.3	11.1	11.1	-	7.4	-	11.1	22.2
	女性:40歳代	62	8.1	12.9	48.4	4.8	25.8	-	-	-	21.0	30.6
	女性:50歳代	56	7.1	7.1	33.9	16.1	30.4	1.8	3.6	-	14.2	46.5
	女性:60歳代	91	4.4	-	31.9	23.1	28.6	-	7.7	4.4	4.4	51.7
	女性:70歳以上	41	7.3	4.9	26.8	17.1	31.7	-	4.9	7.3	12.2	48.8
	男性:10・20歳代	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0
	男性:30歳代	5	-	-	80.0	-	-	-	-	20.0	-	-
	男性:40歳代	24	4.2	8.3	50.0	16.7	8.3	-	12.5	-	12.5	25.0
	男性:50歳代	27	7.4	3.7	51.9	14.8	7.4	-	11.1	3.7	11.1	22.2
	男性:60歳代	36	2.8	5.6	55.6	16.7	8.3	-	5.6	5.6	8.4	25.0
	男性:70歳以上	26	-	7.7	26.9	11.5	38.5	-	3.8	11.5	7.7	50.0
	回答しない・どちらでもない	3	-	66.7	-	33.3	-	-	-	-	66.7	33.3
	無回答	3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3

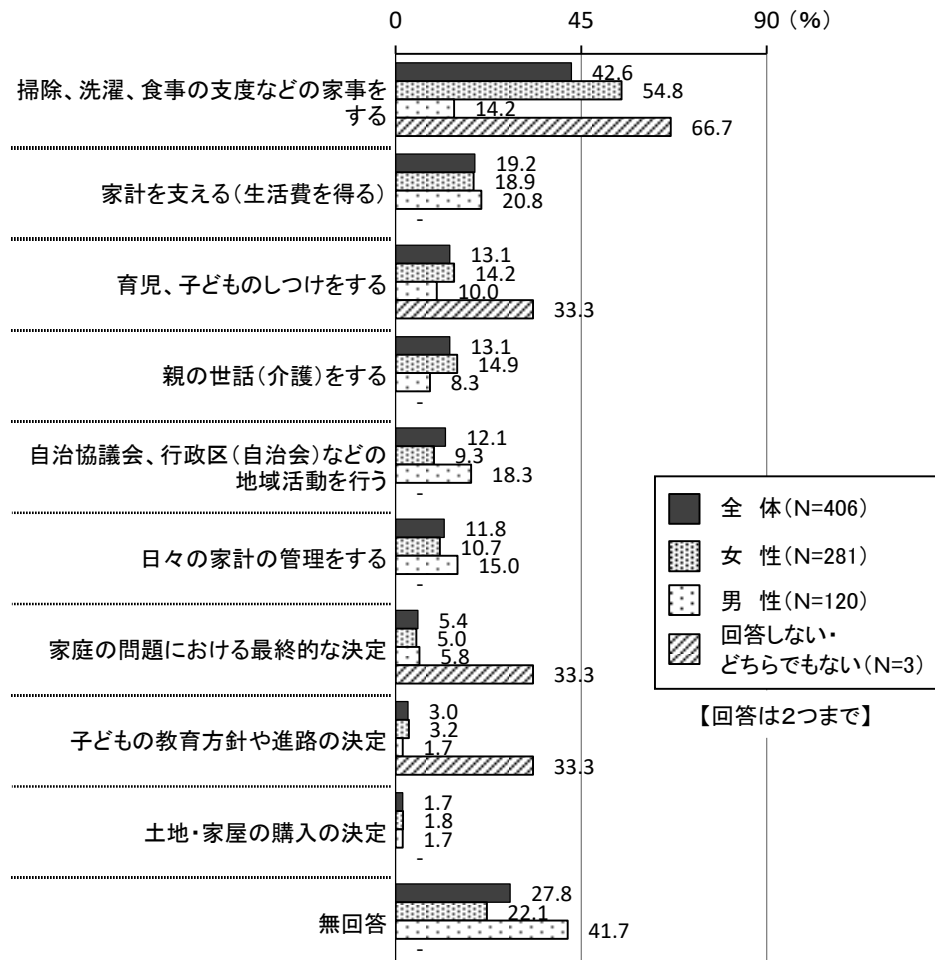
2. 配偶者・パートナーにもっとしてもらいたい家庭内の仕事

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問 4. また、あなたが、配偶者・パートナーの方にもっとしてほしいことはどれですか。

問 4 のア～ケのうち、主なものを2つまで選び、下の枠の中にカタカナで記入してください。

図表 2-20 配偶者・パートナーにもっとしてもらいたい家庭内の仕事 [全体、性別]



家庭内の仕事で、配偶者・パートナーにもっとしてもらいたいことは、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が42.6%と最も高く、次いで「家計を支える(生活費を得る)」が19.2%、「育児、子どものしつけをする」「親の世話(介護)をする」が同率13.1%、「自治協議会、行政区(自治会)などの地域活動を行う」が12.1%、「日々の家計を管理する」が11.8%などとなっている。

性別にみると、女性は「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が54.8%と男性(14.2%)を大きく上回っている。また、「親の世話(介護)をする」でも女性は14.9%と男性(8.3%)を6.6ポイント上回っている。男性は「自治協議会、行政区(自治会)などの地域活動を行う」が18.3%と女性(9.3%)を9ポイント上回っている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、女性の40歳代で「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が71.0%と最も高く、その他30歳代、60歳代でも5割を超えて高い。また、40歳代以下では「育児、子どものしつけをする」が約3割から6割台半ば、「親の世話（介護）をする」は50歳代と60歳代で2割を超えて高くなっている。「自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動を行う」は男性の30歳代と60歳代で2割を超えている。「家計を支える（生活費を得る）」は男性の40歳代で29.2%、「日々の家計を管理する」は50歳代で29.6%と高い。

共働き別にみると、女性の共働きでは「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」や「育児、子どものしつけをする」の割合が片働きよりも高く、片働きでは「親の世話（介護）をする」が共働きよりも高くなっている。男性の片働きでは「家計を支える（生活費を得る）」や「自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動を行う」の割合が共働きよりも高くなっている。

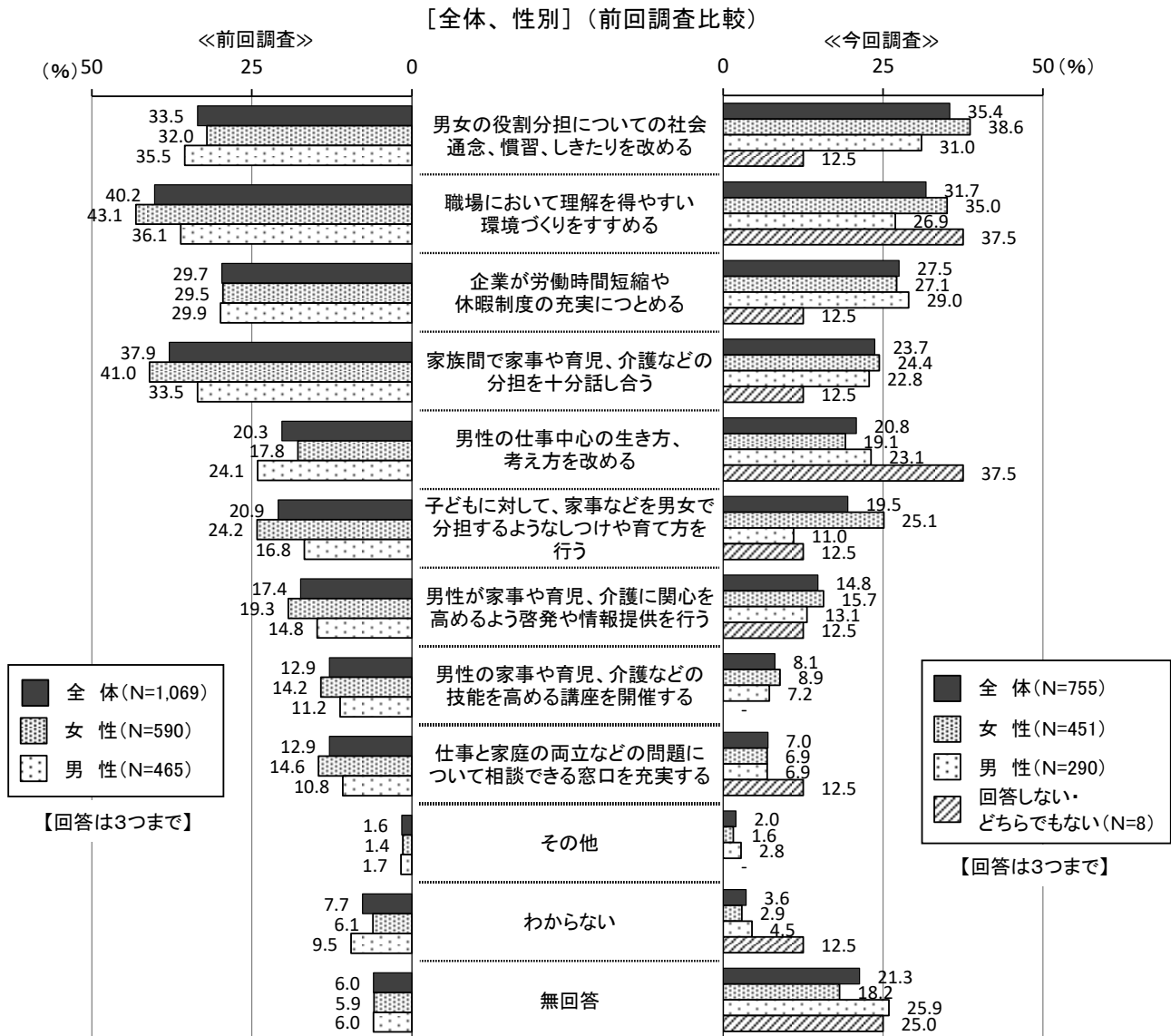
図表2-21 配偶者・パートナーにもっとしてもらいたい家庭内の仕事〔全体、年齢別、共働き別〕
(%)

		標 本 数	活家 費計 を支 える (生	をの 支除 する 度、 洗濯 の、 家事	を日 々の 家計 の管 理	つ育 児を 、子 ども のし	を親 の世 話（ 介護 ）	の地 域（ 自治 協議 会、 行政	や子 ども の決 定・ 家 屋の 購入	の土 地 決 定・ 家 屋の 購入	る家 庭の 最終 的問 題に おけ る決 定	無 回 答
全 体		406 100.0	78 19.2	173 42.6	48 11.8	53 13.1	53 13.1	49 12.1	12 3.0	7 1.7	22 5.4	113 27.8
年 齢 別	女性:10・20歳代	3	66.7	-	-	66.7	-	33.3	33.3	-	-	-
	女性:30歳代	27	22.2	55.6	-	37.0	7.4	3.7	3.7	3.7	-	22.2
	女性:40歳代	62	22.6	71.0	11.3	29.0	6.5	12.9	4.8	-	1.6	9.7
	女性:50歳代	56	14.3	41.1	10.7	12.5	23.2	16.1	5.4	1.8	1.8	23.2
	女性:60歳代	91	16.5	60.4	9.9	2.2	20.9	3.3	1.1	2.2	6.6	25.3
	女性:70歳以上	41	19.5	39.0	17.1	2.4	9.8	9.8	-	2.4	14.6	34.1
	男性:10・20歳代	2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	男性:30歳代	5	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	80.0
	男性:40歳代	24	29.2	20.8	4.2	29.2	4.2	16.7	8.3	-	4.2	29.2
	男性:50歳代	27	18.5	18.5	29.6	11.1	7.4	14.8	-	-	11.1	33.3
	男性:60歳代	36	22.2	5.6	19.4	2.8	11.1	25.0	-	2.8	-	41.7
	男性:70歳以上	26	19.2	15.4	7.7	3.8	11.5	15.4	-	3.8	11.5	53.8
	回答しない・どちらでもない	3	-	66.7	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-
	無回答	3	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	33.3
共 働 き 別	女性:共働き	173	17.3	59.5	8.1	20.8	12.7	11.0	4.6	1.2	2.3	18.5
	女性:片働き	58	19.0	46.6	17.2	3.4	20.7	10.3	1.7	5.2	6.9	24.1
	女性:その他	4	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-	-	-	50.0
	女性:二人とも働いていない	33	24.2	51.5	15.2	6.1	15.2	3.0	-	-	18.2	27.3
	男性:共働き	76	17.1	14.5	17.1	10.5	7.9	13.2	1.3	2.6	5.3	43.4
	男性:片働き	25	32.0	12.0	12.0	12.0	8.0	32.0	4.0	-	8.0	32.0
	男性:その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:二人とも働いていない	11	27.3	18.2	18.2	9.1	9.1	9.1	-	-	9.1	45.5
	回答しない・どちらでもない	3	-	66.7	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-
	無回答	22	18.2	31.8	4.5	-	18.2	18.2	-	-	-	40.9

3. 男女ともに家庭内の仕事に積極的に参加するために必要なこと

問5. あなたは、今後、男女がともに家事などの家庭内の仕事に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 2-22 男女ともに家庭内の仕事に積極的に参加するために必要なこと



男女ともに家庭内の仕事に積極的に参加するために必要なことは「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が 35.4%、「職場において理解を得やすい環境づくりをすすめる」が 31.7%、「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実につとめる」が 27.5%、「家族間で家事や育児、介護などの分担を十分話し合う」が 23.7%、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」が 20.8%、「子どもに対して、家事などを男女で分担するようしつけや育て方を行う」が 19.5%などとなっている。

性別にみると、女性の割合が高いものが多く、特に「子どもに対して、家事などを男女で分担するようしつけや育て方を行う」や「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」「職場において理解を得やすい環境づくりをすすめる」などは男性よりも 7.6～14.1 ポイント高い。男性は「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」が 4 ポイント女性よりも高い。

前回調査と比べると、男女とも割合が減っている項目が多いが、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」は女性で6.6ポイント増え、前回調査の3位から1位へと順位を上げている。また、「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実につとめる」は男女とも割合はあまり変わらないが、前回調査の4位から3位へと順位を上げている。

婚姻状況別にみると、ほとんどの項目で男女とも既婚・パートナーと暮らしている人の割合は未婚よりも高い。既婚・パートナーと暮らしている人で女性は「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(48.4%)や「子どもに対して、家事などを男女で分担するようなしつけや育て方を行う」(26.3%)、「男性が家事や育児、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」(21.4%)などが男性に比べて6.4～14.6ポイント高く、男性は「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実につとめる」(36.7%)や「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」(33.3%)などが女性に比べて7.2～9.1ポイント高い。

(%)

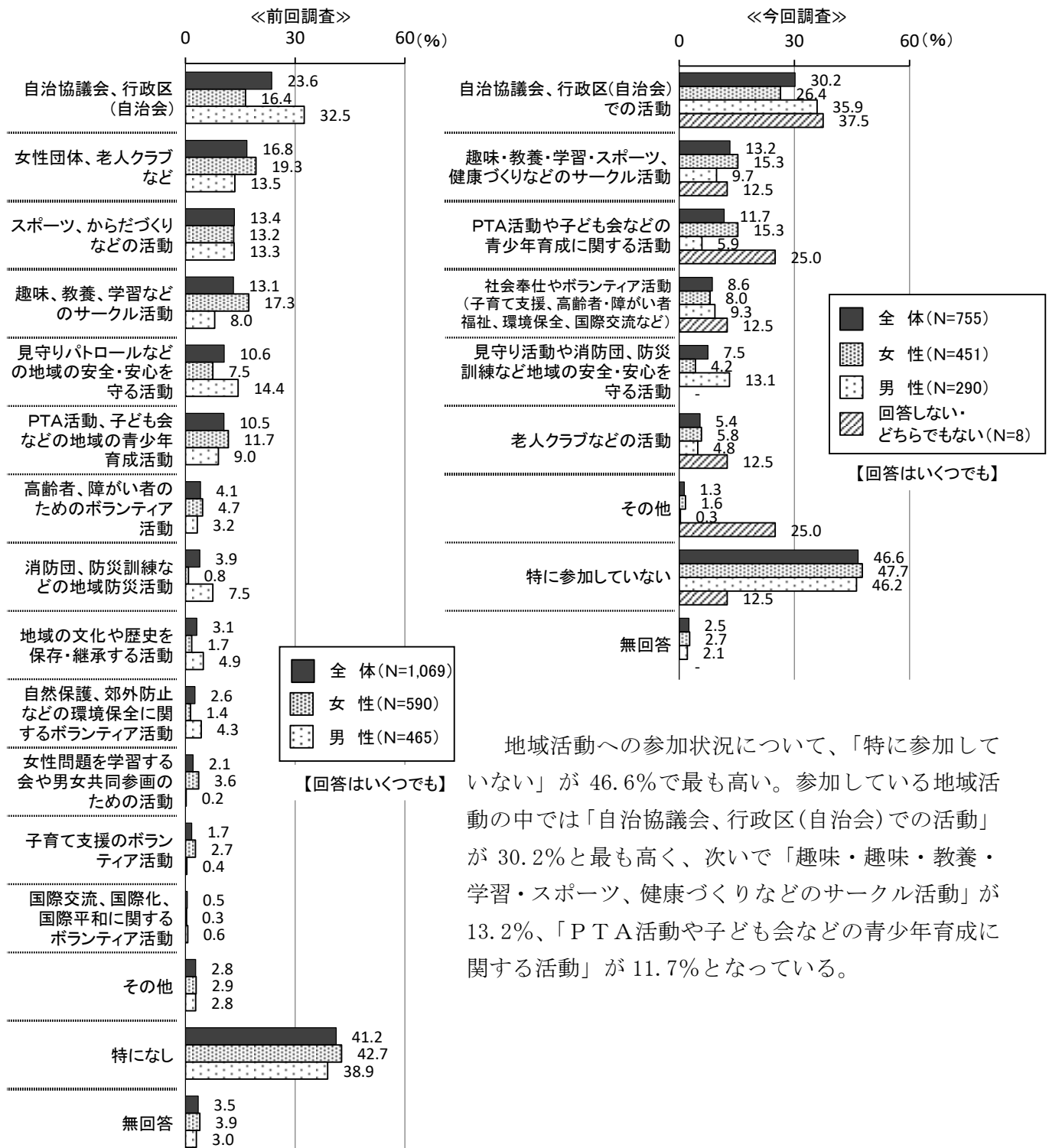
– 38 –

第3章 地域活動について

1. 地域活動への参加状況

問6. あなたは現在、地域においてどのような活動に参加していますか。
(〇はいくつでも)

図表3-1 地域活動への参加状況〔全体、性別〕(前回調査比較)

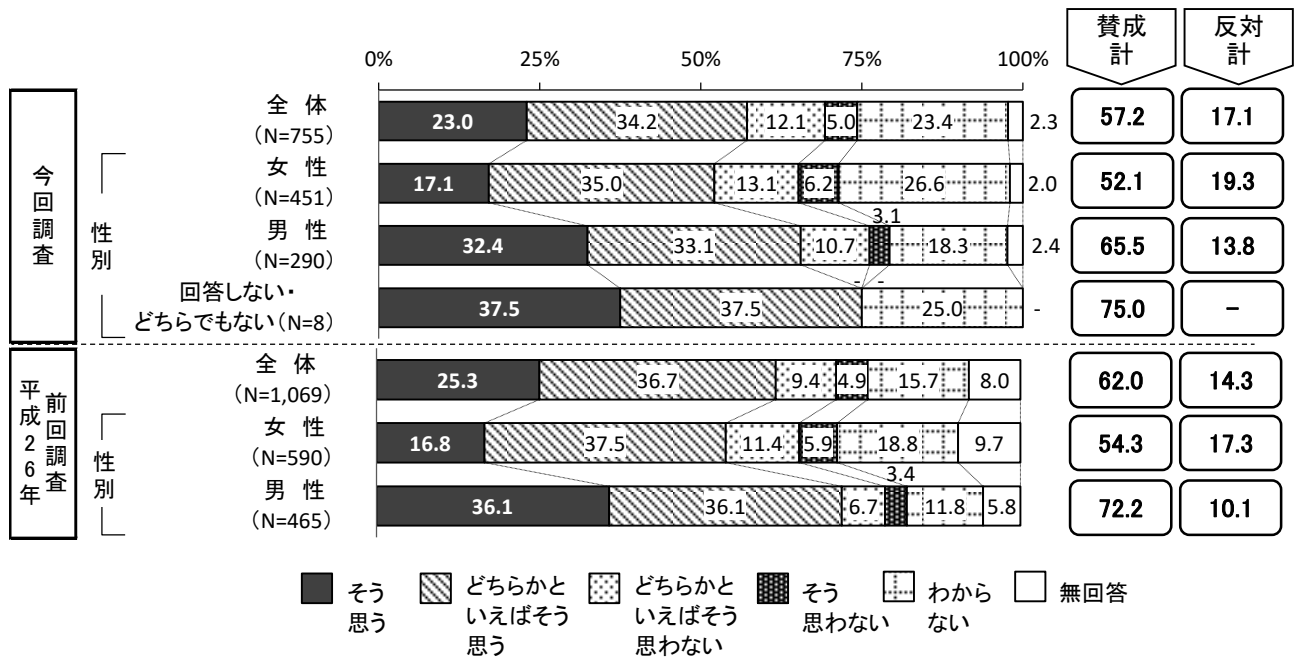


地域活動への参加状況について、「特に参加していない」が46.6%で最も高い。参加している地域活動の中では「自治協議会、行政区(自治会)での活動」が30.2%と最も高く、次いで「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が13.2%、「PTA活動や子ども会などの青少年育成に関する活動」が11.7%となっている。

2. 地域活動における女性の積極的な参画について

問7. 地域活動において、「女性も活動に参加するだけではなく、会長やリーダーになって、計画づくりや方針を決める場に積極的に参画していくべきだ」という考えがあります。あなたはこのことについてどのように思いますか。(〇は1つ)

図表3-3 地域活動における女性の積極的な参画について〔全体、性別〕(前回調査比較)



地域活動における女性の積極的な参画について、「どちらかといえばそう思う」が34.2%で最も高く、次いで「そう思う」が23.0%となっており、これらをあわせた『賛成』は57.2%である。「そう思わない」(5.0%)と「どちらかといえばそう思わない」(12.1%)をあわせた『反対』は17.1%で、約6割の人は女性が地域活動に積極的に参加した方がよいと考えている。

性別にみると、『賛成』は女性が52.1%に対し、男性は65.5%と男性の方が13.4ポイント高い。

前回調査と比べると、女性の『賛成』の割合はあまり変わらないが、男性は6.7ポイント低くなり、その分無回答が増えている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「自治協議会、行政区(自治会)での活動」の参加が最も多かったのは男性の60歳代で、『賛成』が87.7%と最も高くなっている。『反対』が2割を超えて比較的高いのは、女性の30歳代と50歳代、60歳代、男性の10・20歳代と30歳代、70歳以上である。

図表3-4 地域活動における女性の積極的な参画について〔全体、年齢別〕

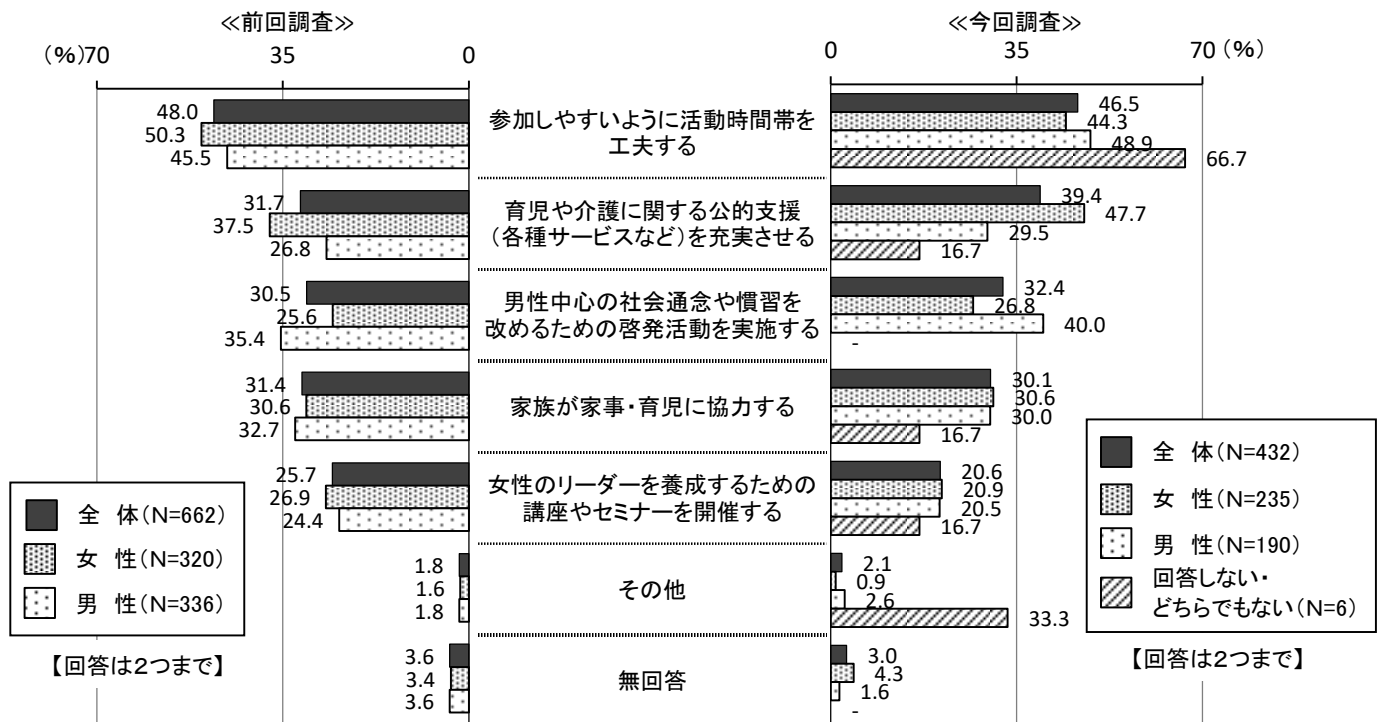
										(%)
		標 本 数	そ う 思 う	思 い ど ち ら ば ら そ か う と	思 い ど わ え ち な い そ か う と	い そ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全 体		755 100.0	174 23.0	258 34.2	91 12.1	38 5.0	177 23.4	17 2.3	432 57.2	129 17.1
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	22.2	35.6	2.2	6.7	28.9	4.4	57.8	8.9
	女性:30歳代	56	21.4	28.6	16.1	5.4	28.6	－	50.0	21.5
	女性:40歳代	86	20.9	36.0	12.8	4.7	25.6	－	56.9	17.5
	女性:50歳代	86	11.6	32.6	14.0	8.1	31.4	2.3	44.2	22.1
	女性:60歳代	125	15.2	36.8	15.2	7.2	23.2	2.4	52.0	22.4
	女性:70歳以上	52	15.4	38.5	13.5	3.8	25.0	3.8	53.9	17.3
	男性:10・20歳代	30	26.7	23.3	16.7	3.3	30.0	－	50.0	20.0
	男性:30歳代	35	37.1	22.9	8.6	11.4	20.0	－	60.0	20.0
	男性:40歳代	52	30.8	38.5	5.8	1.9	17.3	5.8	69.3	7.7
	男性:50歳代	59	25.4	32.2	11.9	1.7	23.7	5.1	57.6	13.6
	男性:60歳代	65	43.1	44.6	4.6	1.5	6.2	－	87.7	6.1
	男性:70歳以上	48	29.2	25.0	20.8	2.1	20.8	2.1	54.2	22.9
	回答しない・どちらでもない	8	37.5	37.5	－	－	25.0	－	75.0	－
	無回答	8	－	37.5	12.5	12.5	25.0	12.5	37.5	25.0

3. 女性の「参画」をすすめるために必要なこと

【問7で「1.」または「2.」と答えた方に】

付問7-1. 地域活動に女性の「参画」をすすめるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図表3-5 女性の「参画」をすすめるために必要なこと〔全体、性別〕(前回調査比較)



女性の「参画」をすすめるために必要なことは「参加しやすいように活動時間帯を工夫する」が46.5%と最も高く、次いで「育児や介護に関する公的支援(各種サービスなど)を充実させる」が39.4%、「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」が32.4%、「家族が家事・育児に協力する」が30.1%、「女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する」が20.6%などとなっている。

性別にみると、女性は「育児や介護に関する公的支援(各種サービスなど)を充実させる」が47.7%で最も高く、男性(29.5%)より18.2ポイント高い。男性は「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」が40.0%で第2位となっており、女性(26.8%)より13.2ポイント高い。

前回調査と比べると、女性では「参加しやすいように活動時間帯を工夫する」が前回調査では50.3%で第1位であったが、今回調査では44.3%と6ポイント減で第2位となり、前回第2位であった「育児や介護に関する公的支援(各種サービスなど)を充実させる」が10.2ポイント増え、第1位となっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「育児や介護に関する公的支援（各種サービスなど）を充実させる」は女性の30歳代で67.9%と最も高く、男性の10・20歳代でも66.7%と高い。「参加しやすいように活動時間帯を工夫する」は男性の30歳代で57.1%、また女性の30歳代でも53.6%と高くなっている。「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」は男性の50歳代以上で、「家族が家事・育児に協力する」は女性の10・20歳代と男性の40歳代で約4割から5割と他の年齢に比べて高くなっている。「女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する」は男女とも年齢の高い層で割合が高い傾向がみられる。

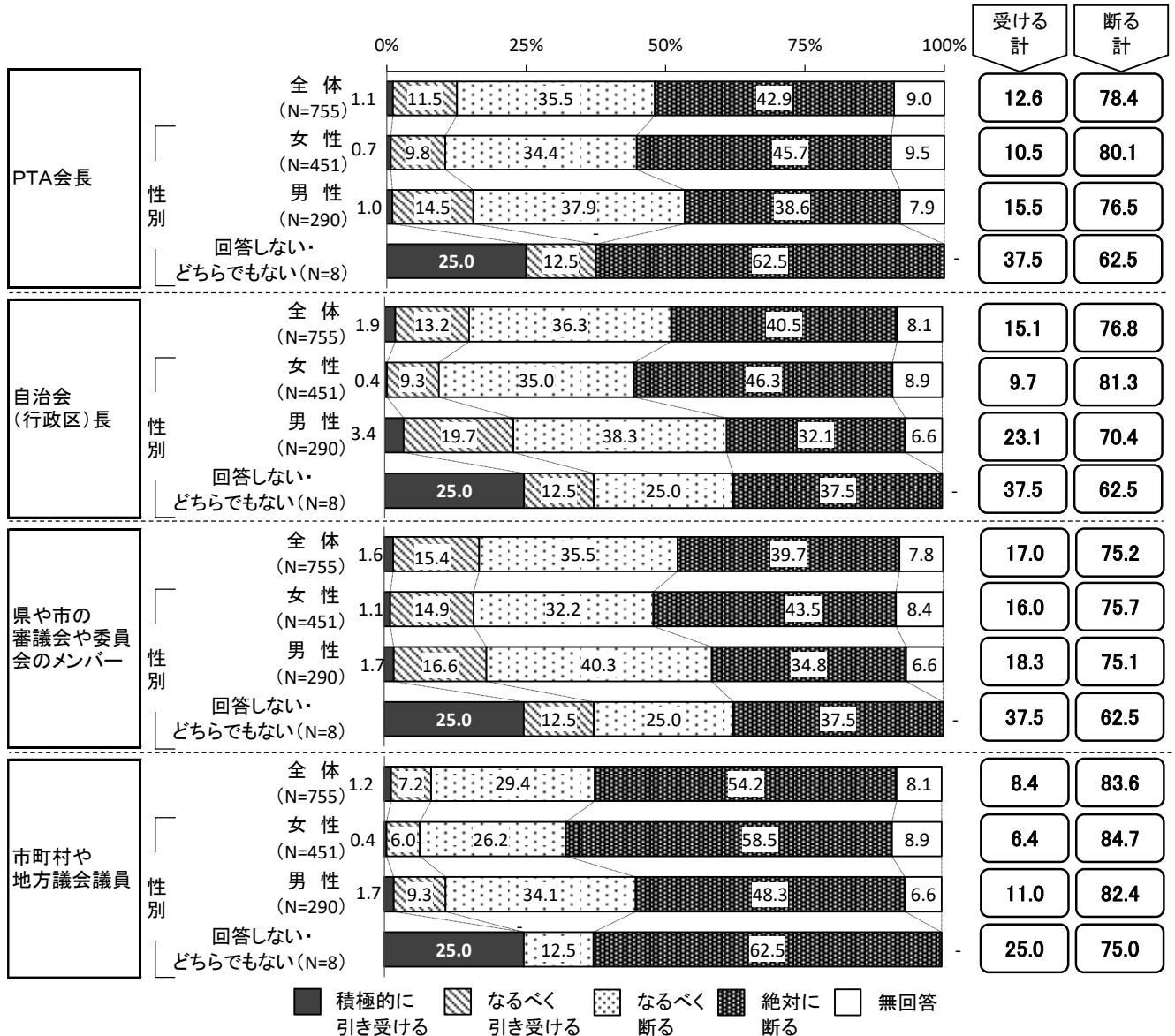
図表3-6 女性の「参画」をすすめるために必要なこと〔全体、年齢別〕

		標本数	発慣男 活習性 動を中 を改め の実の 施る社 すた会 るめ通 念の啓 や	ナす女 ーる性 をたの 開めリ 催の講 すダ る座 やを セ養 ミ成	な的育 ど支児 ー援や をへ介 充各護 実種に さサ関 せーす るビる ス公	動参 時加 間し 帯や をす 工い 夫よ すう るに 活	力家 す族 るが 家事 ・育 児に 協	そ の 他	(%) 無 回 答
全 体		432 100.0	140 32.4	89 20.6	170 39.4	201 46.5	130 30.1	9 2.1	13 3.0
年 齢 別	女性:10・20歳代	26	26.9	11.5	46.2	19.2	50.0	-	11.5
	女性:30歳代	28	10.7	14.3	67.9	53.6	17.9	3.6	7.1
	女性:40歳代	49	36.7	14.3	53.1	42.9	30.6	2.0	-
	女性:50歳代	38	28.9	21.1	50.0	50.0	23.7	-	2.6
	女性:60歳代	65	27.7	23.1	43.1	46.2	35.4	-	3.1
	女性:70歳以上	28	21.4	39.3	28.6	46.4	25.0	-	7.1
	男性:10・20歳代	15	33.3	20.0	66.7	33.3	26.7	-	-
	男性:30歳代	21	23.8	19.0	19.0	57.1	33.3	4.8	4.8
	男性:40歳代	36	30.6	11.1	30.6	52.8	44.4	8.3	-
	男性:50歳代	34	41.2	17.6	29.4	52.9	29.4	-	-
	男性:60歳代	57	47.4	22.8	26.3	50.9	29.8	-	1.8
	男性:70歳以上	26	53.8	34.6	23.1	34.6	11.5	3.8	3.8
	回答しない・どちらでもない	6	-	16.7	16.7	66.7	16.7	33.3	-
	無回答	3	33.3	33.3	33.3	66.7	-	-	-

4. 役職、公職への就任や立候補の依頼への対応

問 8. 仮にあなたが、次のアからエのような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。(それぞれに○は1つだけ)

図表 3-7 役職、公職への就任や立候補の依頼への対応 [全体、性別]



さまざまな地域の役職や公職への就任や立候補を依頼された場合の対応として、「積極的に引き受ける」と「なるべく引き受ける」をあわせた『受ける』の割合は「PTA会長」で12.6%、「自治会(行政区)長」で15.1%、「県や市の審議会や委員会のメンバー」が17.0%、「市町村や地方議会議員」は8.4%と、いずれも2割に達していない。

性別にみると、いずれも女性の『受ける』割合は男性より低く、特に「自治会(行政区)長」では女性が9.7%に対し、男性は23.1%と13.4ポイントの差がある。また、地域活動で女性は「PTA活動や子ども会などの青少年育成に関する活動」の参加が男性より高かったが、「PTA会長」を『受ける』女性は10.5%と男性(15.5%)より5ポイント低くなっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、『受ける』割合は全体に男性の10・20歳代が高く、次いで男性の60歳代となっている。女性は「PTA会長」や「県や市の審議会や委員会のメンバー」「市町村や地方議会議員」などで40歳代、「自治会（行政区）長」は50歳代で『受ける』割合が女性の中で比較的高くなっている。

図表3-8 役職、公職への就任や立候補の依頼への対応〔全体、年齢別〕

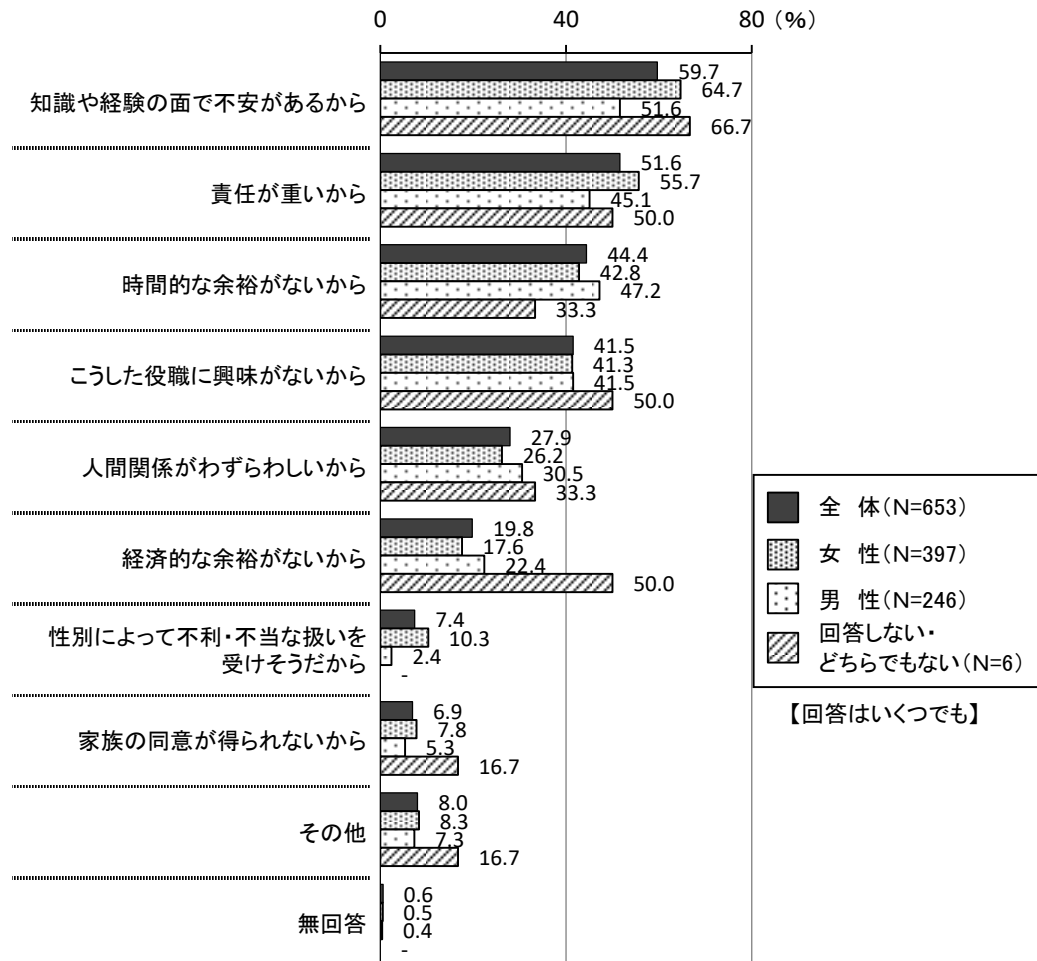
(%)

		標本数	PTA会長							自治会(行政区)長						
			きき 受ける に引	きき なる 受ける べく引	るなる べく 断	絶対 に断る	無回 答	受ける 計	断る 計	きき 受ける に引	きき なる 受ける べく引	るなる べく 断	絶対 に断る	無回 答	受ける 計	断る 計
全 体		755 100.0	8 1.1	87 11.5	268 35.5	324 42.9	68 9.0	95 12.6	592 78.4	14 1.9	100 13.2	274 36.3	306 40.5	61 8.1	114 15.1	580 76.8
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	2.2	13.3	28.9	44.4	11.1	15.5	73.3	-	11.1	37.8	40.0	11.1	11.1	77.8
	女性:30歳代	56	-	10.7	44.6	33.9	10.7	10.7	78.5	-	5.4	37.5	46.4	10.7	5.4	83.9
	女性:40歳代	86	1.2	14.0	46.5	33.7	4.7	15.2	80.2	-	9.3	46.5	39.5	4.7	9.3	86.0
	女性:50歳代	86	1.2	11.6	19.8	60.5	7.0	12.8	80.3	1.2	12.8	24.4	54.7	7.0	14.0	79.1
	女性:60歳代	125	-	8.0	36.0	48.8	7.2	8.0	84.8	0.8	10.4	36.0	46.4	6.4	11.2	82.4
	女性:70歳以上	52	-	-	26.9	48.1	25.0	-	75.0	-	3.8	25.0	50.0	21.2	3.8	75.0
	男性:10・20歳代	30	3.3	36.7	46.7	6.7	6.7	40.0	53.4	6.7	33.3	40.0	13.3	6.7	40.0	53.3
	男性:30歳代	35	-	8.6	42.9	42.9	5.7	8.6	85.8	2.9	14.3	45.7	34.3	2.9	17.2	80.0
	男性:40歳代	52	1.9	9.6	28.8	51.9	7.7	11.5	80.7	1.9	11.5	32.7	44.2	9.6	13.4	76.9
	男性:50歳代	59	-	6.8	40.7	44.1	8.5	6.8	84.8	1.7	13.6	37.3	39.0	8.5	15.3	76.3
	男性:60歳代	65	1.5	18.5	38.5	35.4	6.2	20.0	73.9	6.2	29.2	40.0	21.5	3.1	35.4	61.5
	男性:70歳以上	48	-	14.6	35.4	37.5	12.5	14.6	72.9	2.1	18.8	37.5	33.3	8.3	20.9	70.8
回答しない・どちらでもない	8	25.0	12.5	-	62.5	-	37.5	62.5	25.0	12.5	25.0	37.5	-	37.5	62.5	
無回答	8	-	-	50.0	25.0	25.0	-	75.0	-	-	50.0	25.0	25.0	-	75.0	
		標本数	県や市の審議会や委員会のメンバー							市町村や地方議会議員						
			きき 受ける に引	きき なる 受ける べく引	るなる べく 断	絶対 に断る	無回 答	受ける 計	断る 計	きき 受ける に引	きき なる 受ける べく引	るなる べく 断	絶対 に断る	無回 答	受ける 計	断る 計
全 体		755 100.0	12 1.6	116 15.4	268 35.5	300 39.7	59 7.8	128 17.0	568 75.2	9 1.2	54 7.2	222 29.4	409 54.2	61 8.1	63 8.4	631 83.6
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	4.4	11.1	33.3	40.0	11.1	15.5	73.3	2.2	6.7	24.4	55.6	11.1	8.9	80.0
	女性:30歳代	56	-	12.5	37.5	39.3	10.7	12.5	76.8	-	1.8	37.5	50.0	10.7	1.8	87.5
	女性:40歳代	86	1.2	22.1	39.5	32.6	4.7	23.3	72.1	-	11.6	33.7	50.0	4.7	11.6	83.7
	女性:50歳代	86	1.2	14.0	23.3	54.7	7.0	15.2	78.0	1.2	3.5	18.6	69.8	7.0	4.7	88.4
	女性:60歳代	125	-	14.4	35.2	44.8	5.6	14.4	80.0	-	6.4	25.6	62.4	5.6	6.4	88.0
	女性:70歳以上	52	1.9	9.6	21.2	48.1	19.2	11.5	69.3	-	3.8	15.4	57.7	23.1	3.8	73.1
	男性:10・20歳代	30	6.7	30.0	40.0	16.7	6.7	36.7	56.7	3.3	26.7	40.0	23.3	6.7	30.0	63.3
	男性:30歳代	35	-	14.3	48.6	34.3	2.9	14.3	82.9	2.9	2.9	40.0	51.4	2.9	5.8	91.4
	男性:40歳代	52	1.9	9.6	32.7	46.2	9.6	11.5	78.9	1.9	5.8	32.7	50.0	9.6	7.7	82.7
	男性:50歳代	59	-	10.2	39.0	42.4	8.5	10.2	81.4	-	10.2	27.1	54.2	8.5	10.2	81.3
	男性:60歳代	65	3.1	23.1	47.7	23.1	3.1	26.2	70.8	3.1	12.3	33.8	47.7	3.1	15.4	81.5
	男性:70歳以上	48	-	16.7	35.4	39.6	8.3	16.7	75.0	-	2.1	37.5	52.1	8.3	2.1	89.6
回答しない・どちらでもない	8	25.0	12.5	25.0	37.5	-	37.5	62.5	25.0	-	12.5	62.5	-	25.0	75.0	
無回答	8	-	12.5	50.0	12.5	25.0	12.5	62.5	-	-	62.5	12.5	25.0	-	75.0	

5. 役職、公職への就任や立候補の依頼を断る理由

【問8でア～エのうち、ひとつでも「3.」または「4.」と答えた方に】
 付問8-1. 引き受けないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

図表3-9 役職、公職への就任や立候補の依頼を断る理由〔全体、性別〕



地域の役職や公職への就任や立候補の依頼を断る理由は「知識や経験の面で不安があるから」が59.7%と最も高く、次いで「責任が重いから」が51.6%、「時間的な余裕がないから」が44.4%、「こうした役職に興味がないから」が41.5%、「人間関係がわずらわしい」が27.9%、「経済的な余裕がないから」が19.8%などとなっている。

性別にみると、女性は「知識や経験の面で不安があるから」(女性64.7%、男性51.6%)や「責任が重いから」(同55.7%、45.1)が男性よりも10.6～13.1ポイント高い。また、割合は低い「性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから」(同10.3%、2.4%)も女性が7.9ポイント高い。男性は「時間的な余裕がないから」「人間関係がわずらわしいから」「経済的な余裕がないから」などの理由が女性よりも4.3～4.8ポイント高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、女性の10・20歳代で「知識や経験の面で不安があるから」が81.1%と最も高く、30歳代から60歳代でも6割台半ばとなっている。「責任が重いから」は男性の10・20歳代で73.7%、女性の10・20歳代と50歳代でも6割を超えている。「時間的な余裕がないから」は男性の40歳代と女性の30歳代で約6割から7割、「こうした役職に興味がない」は女性の30歳代と男女の50歳代で約5割と他の年齢に比べて高くなっている。「性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから」は女性の30歳代から50歳代で比較的高くなっている。

図表3-10 役職、公職への就任や立候補の依頼を断る理由〔全体、年齢別〕

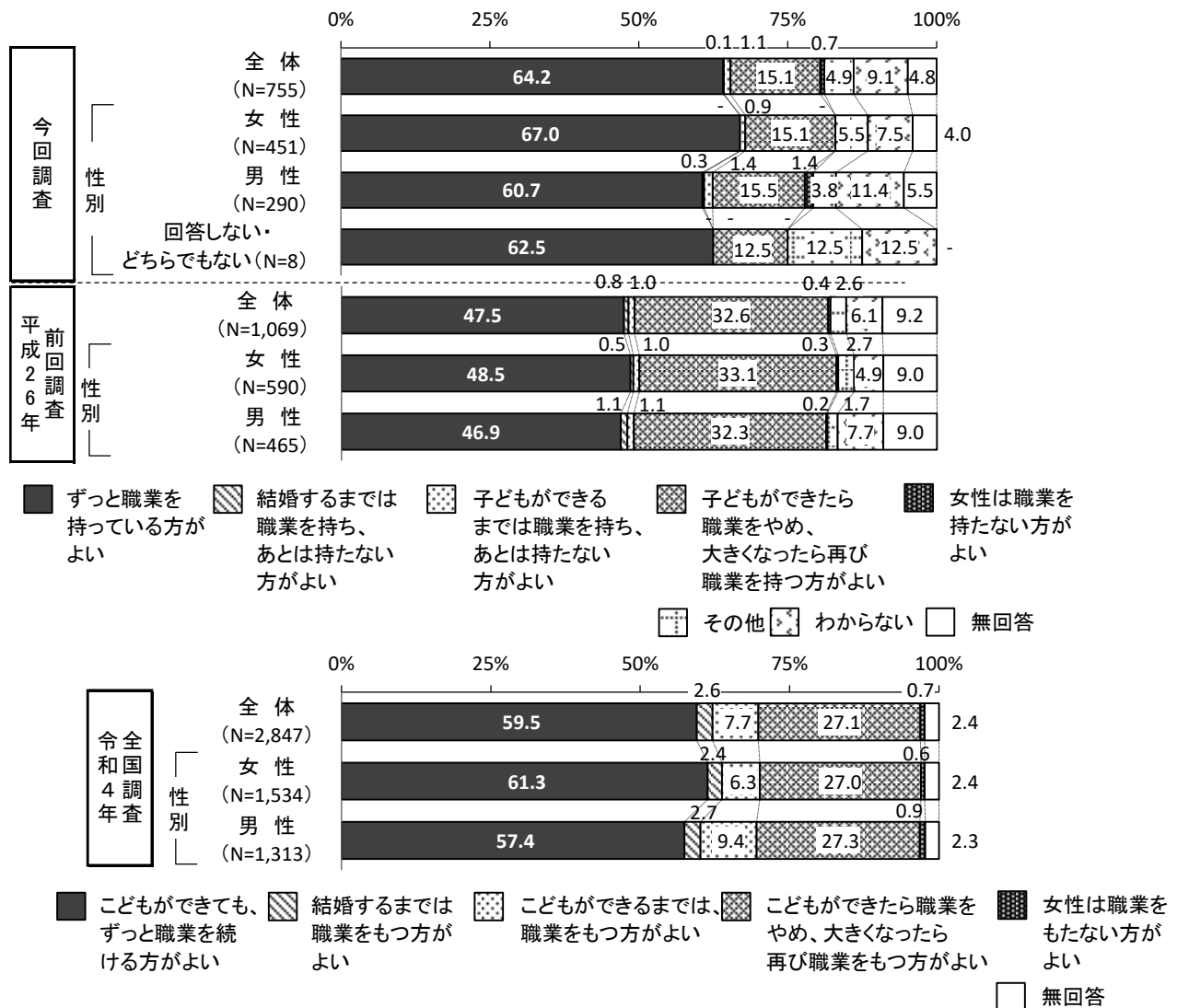
		(%)											
		標 本 数	責 任 が 重 い か ら	安 知 が あ る か ら	時 間 的 な 余 裕 が な い	経 済 的 な 余 裕 が な い	家 族 の 同 意 が 得 ら れ	人 間 関 係 が わ ず ら わ	不 当 な 扱 い を 受 け そ う	性 別 に よ っ て 不 利 な 点 が あ る	こ う し た 役 職 に 興 味 が な い	そ の 他	無 回 答
全 体		653 100.0	337 51.6	390 59.7	290 44.4	129 19.8	45 6.9	182 27.9	48 7.4	271 41.5	52 8.0	4 0.6	
年 齢 別	女性:10・20歳代	37	62.2	81.1	59.5	27.0	8.1	21.6	8.1	45.9	-	-	
	女性:30歳代	49	51.0	63.3	61.2	18.4	8.2	36.7	22.4	51.0	8.2	-	
	女性:40歳代	79	53.2	65.8	53.2	24.1	12.7	29.1	12.7	34.2	8.9	1.3	
	女性:50歳代	76	63.2	63.2	42.1	22.4	5.3	30.3	10.5	47.4	6.6	-	
	女性:60歳代	113	54.9	65.5	31.0	11.5	8.8	21.2	6.2	39.8	10.6	0.9	
	女性:70歳以上	42	50.0	50.0	21.4	4.8	-	19.0	4.8	33.3	11.9	-	
	男性:10・20歳代	19	73.7	52.6	47.4	15.8	10.5	42.1	5.3	42.1	5.3	-	
	男性:30歳代	33	57.6	51.5	57.6	18.2	3.0	24.2	3.0	39.4	9.1	-	
	男性:40歳代	43	37.2	39.5	67.4	18.6	4.7	32.6	2.3	44.2	-	2.3	
	男性:50歳代	51	39.2	49.0	54.9	31.4	3.9	29.4	5.9	47.1	11.8	-	
	男性:60歳代	55	41.8	60.0	34.5	20.0	5.5	29.1	-	43.6	7.3	-	
	男性:70歳以上	44	40.9	56.8	27.3	25.0	6.8	31.8	-	31.8	9.1	-	
回答しない・どちらでもない		6	50.0	66.7	33.3	50.0	16.7	33.3	-	50.0	16.7	-	
無回答		6	50.0	50.0	33.3	16.7	-	16.7	16.7	33.3	-	16.7	

第4章 就労について

1. 女性が職業を持つことについて

問9. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

図表4-1 女性が職業を持つことについて〔全体、性別〕(前回・全国調査比較)



女性が職業を持つことについての考えをたずねたところ、「ずっと職業を持っている方がよい」が64.2%で最も高く、次いで、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が15.1%となっている。

性別にみると、「ずっと職業を持っている方がよい」は女性が67.0%と、男性(60.7%)よりも6.3ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「ずっと職業を持っている方がよい」が13.8～18.5ポイント増加し、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が16.8～18ポイント減少するなど、意識の変化が顕著にみられる。

全国調査と比べると、「ずっと職業を持っている方がよい」は男女とも今回調査の方が3.3～5.7ポイント高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「ずっと職業を持っている方がよい」は女性の30歳代と60歳代、男性の10・20歳代で7割を超え、また、女性の40歳代と男性の30歳代でも約7割と高い。「子どもができたらか職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は女性の70歳以上と男性の60歳代で2割台半ばと他の年齢に比べて高くなっている。

図表4-2 女性が職業を持つことについて〔全体、年齢別〕

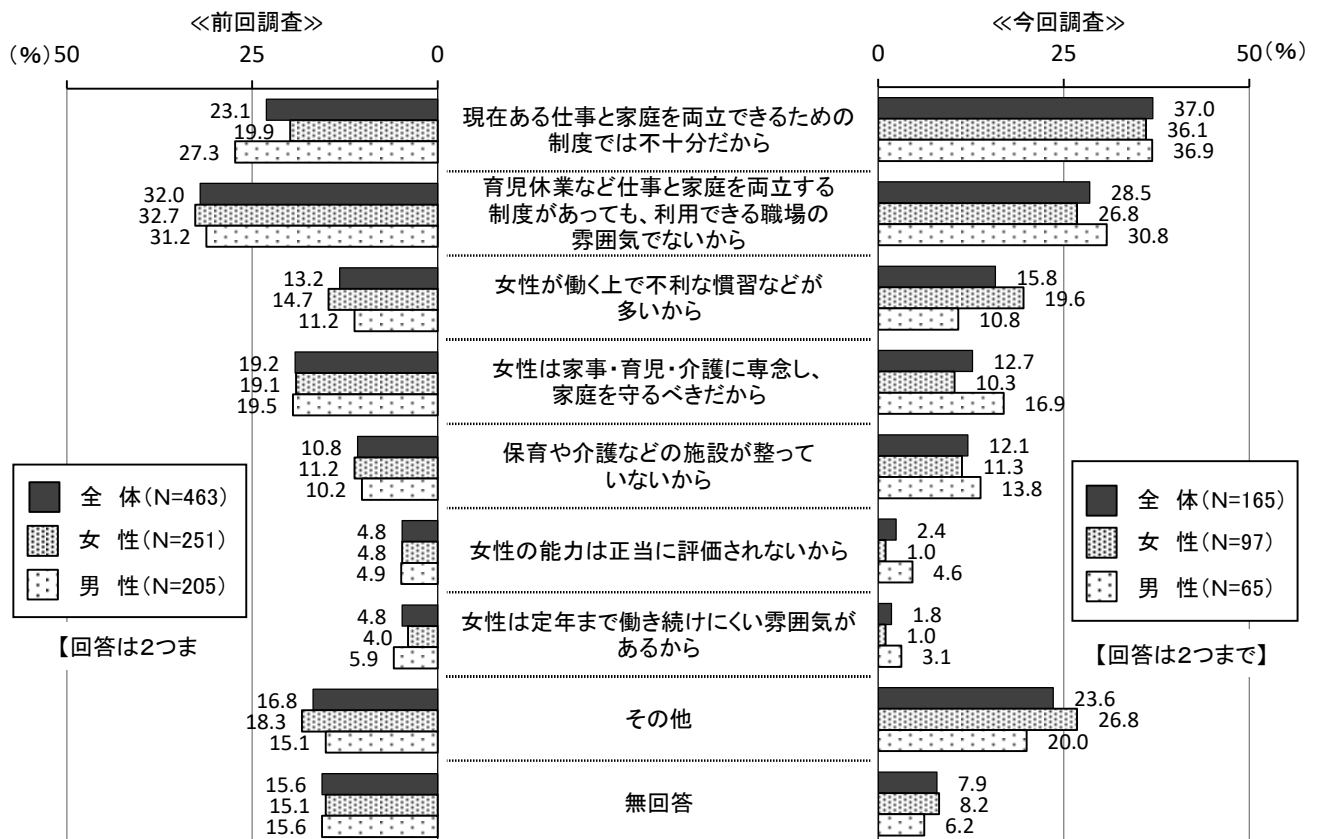
		(%)								
		標 本 数	が よ い	結 婚 す る ま で は 職 業 を 持 て い な い 方 が よ い	子 ど も が あ と は 持 た な い ま で は 職 業 を 持 て い な い 方 が よ い	子 ど も が あ と は 持 た な い ま で は 職 業 を 持 て い な い 方 が よ い	子 ど も が あ と は 持 た な い ま で は 職 業 を 持 て い な い 方 が よ い	子 ど も が あ と は 持 た な い ま で は 職 業 を 持 て い な い 方 が よ い	子 ど も が あ と は 持 た な い ま で は 職 業 を 持 て い な い 方 が よ い	子 ど も が あ と は 持 た な い ま で は 職 業 を 持 て い な い 方 が よ い
全 体		755 100.0	485 64.2	1 0.1	8 1.1	114 15.1	5 0.7	37 4.9	69 9.1	36 4.8
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	62.2	-	4.4	13.3	-	2.2	13.3	4.4
	女性:30歳代	56	73.2	-	-	7.1	-	10.7	7.1	1.8
	女性:40歳代	86	69.8	-	-	11.6	-	10.5	8.1	-
	女性:50歳代	86	60.5	-	-	16.3	-	10.5	9.3	3.5
	女性:60歳代	125	73.6	-	0.8	16.8	-	-	3.2	5.6
	女性:70歳以上	52	53.8	-	1.9	25.0	-	-	9.6	9.6
	男性:10・20歳代	30	73.3	-	-	6.7	-	3.3	16.7	-
	男性:30歳代	35	68.6	-	-	8.6	-	2.9	20.0	-
	男性:40歳代	52	59.6	-	1.9	15.4	-	3.8	9.6	9.6
	男性:50歳代	59	55.9	1.7	1.7	16.9	-	6.8	10.2	6.8
	男性:60歳代	65	64.6	-	-	26.2	3.1	1.5	3.1	1.5
	男性:70歳以上	48	47.9	-	4.2	10.4	4.2	4.2	16.7	12.5
	回答しない・どちらでもない	8	62.5	-	-	12.5	-	12.5	12.5	-
無回答	8	50.0	-	-	-	12.5	-	12.5	25.0	

2. 女性が職業をずっと持たない方がいい理由

【問9で「2.」～「6.」に答えた方に】

付問9-1. あなたが、そう思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものを選んでください。（〇は2つまで）

図表4-3 女性が職業をずっと持たない方がいい理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



女性が職業をずっと持たない方がいいと考える理由は、「現在ある仕事と家庭を両立できるための制度では不十分だから」が37.0%と最も高く、次いで「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」が28.5%、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が15.8%などとなっている。

性別にみると、「現在ある仕事と家庭を両立できるための制度では不十分だから」は男女とも3割台半ばで同程度である。女性は「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が19.6%で男性（10.8%）より8.8ポイント高い。男性は「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」（女性26.8%、男性30.8%）や「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」（同10.3%、16.9%）などが女性より4～6.6ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「現在ある仕事と家庭を両立できるための制度では不十分だから」が9.6～16.2ポイント増え、前回調査の第2位から第1位へと順位を上げている。また、女性では「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が4.9ポイント増え「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が8.8ポイント減っている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「現在ある仕事と家庭を両立できるための制度では不十分だから」は、男女の30歳代と女性の60歳代、男性の50歳代と60歳代で4割から7割台半ば、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」は女性の30歳代と男性の60歳代以上で4割から5割台半ばと他の年齢よりも高くなっている。その他「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は女性の50歳代以上で約2割から3割、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」は男性の70歳以上で36.4%と高いのが目立つ。

仕事の有無別にみると、男女とも仕事を持っている人で「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度では不十分だから」や「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」などほとんどの項目で持っていない人より割合が高い。持っていない人では「育児休業など仕事と家庭を両立する制度があっても、利用できる職場の雰囲気でないから」の割合が持っている人より高くなっている。

図表4-4 女性が職業をずっと持たない方がいい理由〔全体、年齢別、仕事の有無別〕

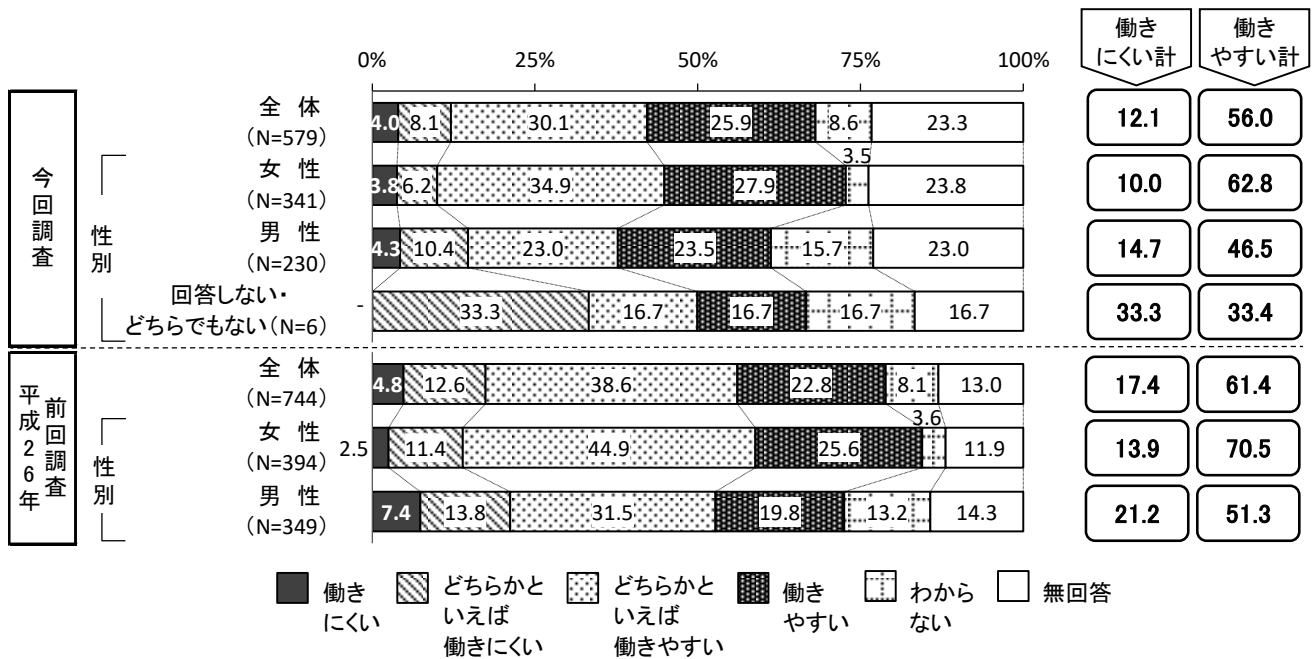
		標本数	し女性、家庭を 守るべきだ か、介護に 専念	女性 は定年 まで働 き続け にくい	女性 の能力 は正当 に評価 されな い	女性 が働く 上で不 利な慣 習など が多い	育児休 業など 仕事と 家庭を 両立す るため の制度 が不十 分だか ら	現在あ る仕事 と家庭 を両立 できる ための 制度が 不十分 だから	保育や 介護な どの施 設が整 って	その他	(%) 無回 答
全 体		165 100.0	21 12.7	3 1.8	4 2.4	26 15.8	47 28.5	61 37.0	20 12.1	39 23.6	13 7.9
年 齢 別	女性:10・20歳代	9	11.1	-	-	11.1	33.3	22.2	33.3	11.1	-
	女性:30歳代	10	-	-	-	-	40.0	40.0	10.0	60.0	-
	女性:40歳代	19	-	5.3	5.3	15.8	36.8	36.8	15.8	26.3	15.8
	女性:50歳代	23	8.7	-	-	30.4	21.7	34.8	8.7	30.4	4.3
	女性:60歳代	22	22.7	-	-	22.7	18.2	45.5	9.1	18.2	4.5
	女性:70歳以上	14	14.3	-	-	21.4	21.4	28.6	-	21.4	21.4
	男性:10・20歳代	3	-	-	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-
	男性:30歳代	4	-	-	-	-	-	75.0	25.0	25.0	-
	男性:40歳代	11	18.2	-	-	9.1	18.2	18.2	27.3	9.1	27.3
	男性:50歳代	16	18.8	-	-	12.5	12.5	43.8	12.5	37.5	-
	男性:60歳代	20	10.0	10.0	15.0	5.0	55.0	45.0	10.0	15.0	-
	男性:70歳以上	11	36.4	-	-	18.2	45.5	27.3	-	9.1	9.1
仕 事 の 有 無 別	回答しない・どちらでもない	2	-	-	-	-	50.0	100.0	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	女性:持っている	72	12.5	1.4	1.4	23.6	25.0	38.9	12.5	26.4	4.2
	女性:持っていない	25	4.0	-	-	8.0	32.0	28.0	8.0	28.0	20.0
	男性:持っている	52	17.3	1.9	5.8	11.5	28.8	38.5	15.4	19.2	5.8
	男性:持っていない	13	15.4	7.7	-	7.7	38.5	30.8	7.7	23.1	7.7
仕 事 の 有 無 別	回答しない・どちらでもない	2	-	-	-	-	50.0	100.0	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

3. 職場での女性の働きやすさ

【現在、職業を持っている方におたずねします】

問 10. あなたの職場（自営業や家族従事者を含む）は、女性にとって働きやすいと思いますか。（〇は1つ）

図表 4－5 職場での女性の働きやすさ〔全体、性別〕（前回調査比較）



現在仕事を持っている人に、職場での女性の働きやすさをたずねた。「どちらかといえば働きやすい」が30.1%で最も高く、次いで「働きやすい」が25.9%でこれらをあわせた『働きやすい』は56.0%である。「働きにくい」(4.0%)と「どちらかといえば働きにくい」(8.1%)をあわせた『働きにくい』は12.1%である。

性別にみると、女性の『働きやすい』は62.8%で男性(46.5%)より16.3ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『働きやすい』の割合は減っており、女性で7.7ポイント、男性で4.8ポイント低くなっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、女性は40歳代以下、男性は30歳代から50歳代で『働きにくい』の割合が約1割から2割ある。

業種別にみると、女性は自営業と正社員・正職員で『働きにくい』が約1割、男性は自営業、家族従事者、正社員・正職員で約1割から2割となっている。

図表4-6 職場での女性の働きやすさ〔全体、年齢別、職業別〕

(%)

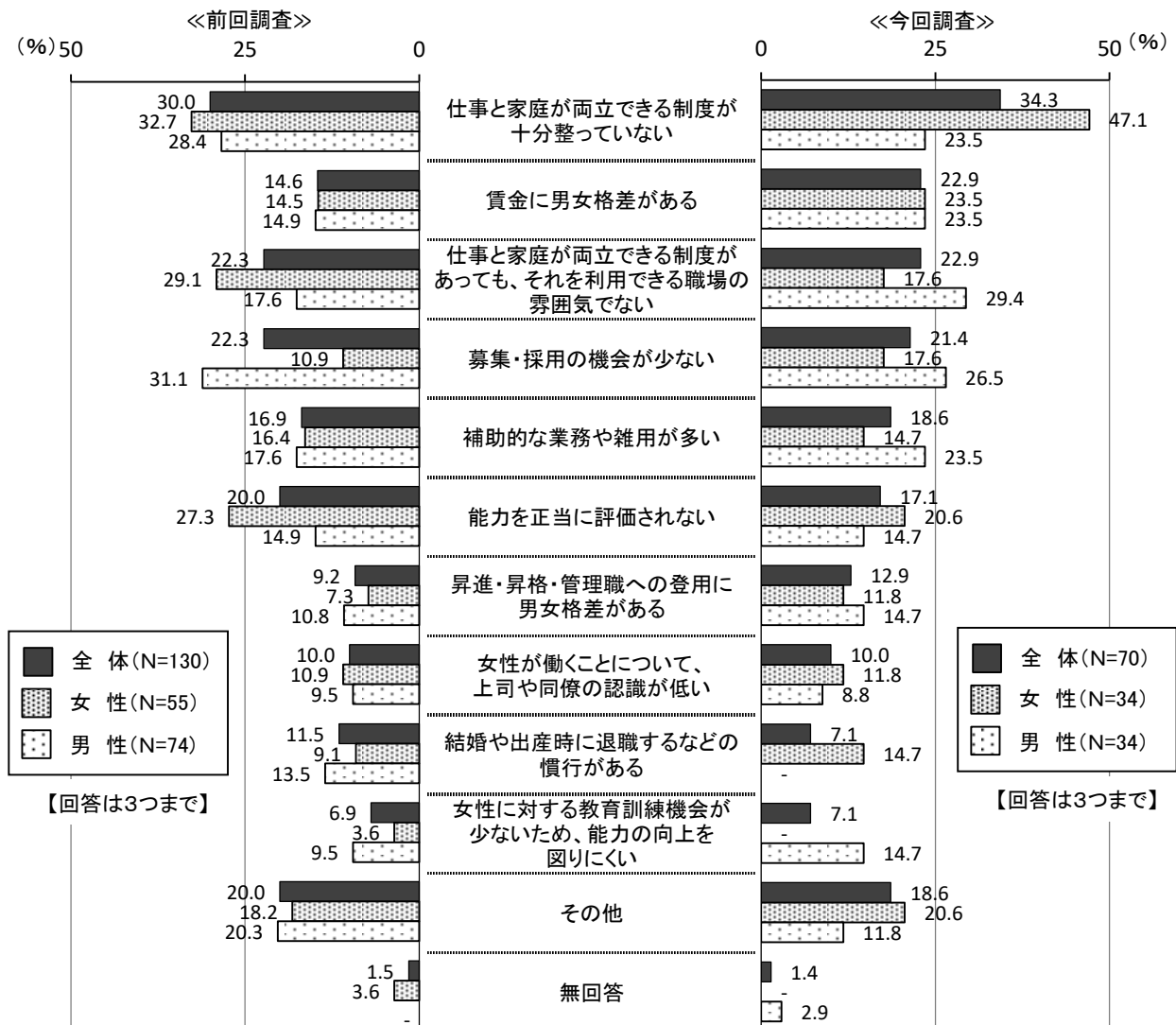
		標 本 数	働 き に く い	い え ど ち ら 働 き か と く い	い え ど ち ら 働 き か と す い	働 き や す い	わ か ら な い	無 回 答	働 き に く い 計	働 き や す い 計
全 体		579 100.0	23 4.0	47 8.1	174 30.1	150 25.9	50 8.6	135 23.3	70 12.1	324 56.0
年 齢 別	女性:10・20歳代	28	7.1	3.6	28.6	39.3	-	21.4	10.7	67.9
	女性:30歳代	52	7.7	13.5	28.8	26.9	5.8	17.3	21.2	55.7
	女性:40歳代	80	5.0	6.3	35.0	22.5	6.3	25.0	11.3	57.5
	女性:50歳代	74	1.4	6.8	39.2	28.4	2.7	21.6	8.2	67.6
	女性:60歳代	86	2.3	1.2	41.9	25.6	2.3	26.7	3.5	67.5
	女性:70歳以上	21	-	9.5	14.3	42.9	-	33.3	9.5	57.2
	男性:10・20歳代	21	-	4.8	28.6	23.8	28.6	14.3	4.8	52.4
	男性:30歳代	33	6.1	15.2	15.2	33.3	15.2	15.2	21.3	48.5
	男性:40歳代	48	6.3	12.5	31.3	10.4	16.7	22.9	18.8	41.7
	男性:50歳代	57	8.8	14.0	15.8	22.8	15.8	22.8	22.8	38.6
	男性:60歳代	48	-	6.3	25.0	29.2	8.3	31.3	6.3	54.2
	男性:70歳以上	22	-	4.5	27.3	27.3	18.2	22.7	4.5	54.6
	回答しない・どちらでもない	6	-	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	33.4
	無回答	3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3
職 業 別	女性:自営業	39	5.1	5.1	20.5	25.6	7.7	35.9	10.2	46.1
	女性:家族従事者	27	3.7	3.7	29.6	44.4	3.7	14.8	7.4	74.0
	女性:会社役員、管理職	7	-	-	28.6	28.6	14.3	28.6	-	57.2
	女性:正社員・正職員	116	3.4	10.3	31.9	27.6	2.6	24.1	13.7	59.5
	女性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	149	3.4	4.0	42.3	25.5	2.7	22.1	7.4	67.8
	女性:内職、その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0
	男性:自営業	39	5.1	7.7	15.4	20.5	23.1	28.2	12.8	35.9
	男性:家族従事者	4	-	25.0	-	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0
	男性:会社役員、管理職	12	-	8.3	16.7	8.3	33.3	33.3	8.3	25.0
	男性:正社員・正職員	123	5.7	13.0	24.4	24.4	12.2	20.3	18.7	48.8
	男性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	50	2.0	6.0	30.0	26.0	14.0	22.0	8.0	56.0
	男性:内職、その他	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	50.0
	回答しない・どちらでもない	6	-	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	33.4
	無回答	4	25.0	-	50.0	-	25.0	-	25.0	50.0

4. 女性が働きにくい理由

【問10で「1.」または「2.」と答えた方に】

付問10-1. どんな点が女性にとって働きにくいと思いますか。(〇は3つまで)

図表4-7 女性が働きにくい理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



女性が働きにくい理由は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が34.3%と最も高く、次いで「賃金に男女格差がある」「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」が同率の22.9%、「募集・採用の機会が少ない」が21.4%、「補助的な業務や雑用が多い」が18.6%、「能力を正當に評価されない」が17.1%となっている。

性別にみると、女性は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が47.1%と圧倒的に高く、男性（23.5%）を23.6ポイント上回っている。その他「能力を正當に評価されない」（女性20.6%、男性14.7%）や「結婚や出産時に退職するなどの慣行がある」（同14.7%、0.0%）などが男性よりも高い。男性は「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」（同17.6%、29.4%）、「募集・採用の機会が少ない」（同17.6%、26.5%）、「補助的な業務や雑用が多い」（同14.7%、23.5%）、「女性に対する教育訓練機会が少ないため、能力の向上を図りにくい」（同0.0%、14.7%）などが女性よりも高くなっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

前回調査と比べると、女性は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が14.4ポイント、男性は「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」が11.8ポイント増えている。また、男女とも「賃金に男女格差がある」が8.6～9ポイント増えている。

職業別にみると、女性の正社員・正職員では「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」(56.3%)、男性の正社員・正職員では「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」「賃金に男女格差がある」「補助的な業務や雑用が多い」(同率30.4%)、「能力を正當に評価されない」「昇進・昇格・管理職への登用に男女格差がある」(同率21.7%)などの割合が高い。

図表4-8 女性が働きにくい理由〔全体、年齢別、職業別〕

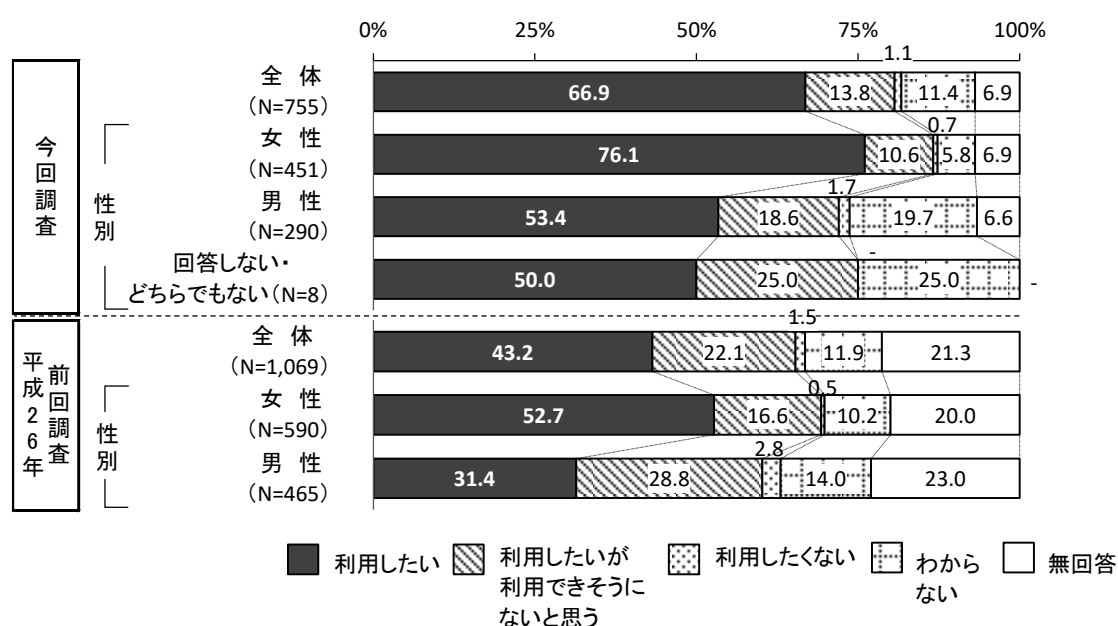
			(%)											
		標本数	い募集・採用の機会が少な	賃金に男女格差がある	い補助的な業務や雑用が多	い能力を正當に評価されない	昇進・昇格・管理職への登用に男女格差がある	結婚や出産時に退職するなどの慣行がある	向上を図りにくい	女性が少なく、能力訓練の機会が十分整っていない	仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない	低い、女性が働くことについて、上司や同僚の認識が	その他	無回答
全 体		70 100.0	15 21.4	16 22.9	13 18.6	12 17.1	9 12.9	5 7.1	5 7.1	24 34.3	16 22.9	7 10.0	13 18.6	1 1.4
年 齢 別	女性:10・20歳代	3	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	66.7	-
	女性:30歳代	11	18.2	18.2	-	27.3	9.1	27.3	-	63.6	27.3	-	9.1	-
	女性:40歳代	9	33.3	22.2	11.1	-	11.1	-	-	55.6	22.2	33.3	22.2	-
	女性:50歳代	6	16.7	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	-	33.3	-	16.7	16.7	-
	女性:60歳代	3	-	33.3	66.7	66.7	-	-	-	33.3	-	-	-	-
	女性:70歳以上	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	男性:10・20歳代	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	男性:30歳代	7	-	28.6	28.6	-	28.6	-	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	-
	男性:40歳代	9	44.4	11.1	33.3	22.2	11.1	-	-	-	44.4	-	22.2	-
	男性:50歳代	13	30.8	38.5	7.7	23.1	7.7	-	15.4	23.1	23.1	7.7	7.7	7.7
	男性:60歳代	3	33.3	-	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-
	男性:70歳以上	1	-	-	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-
	回答しない・どちらでもない	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
職 業 別	女性:自営業	4	-	-	50.0	25.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	女性:家族従事者	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	女性:会社役員、管理職	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:正社員・正職員	16	12.5	12.5	12.5	6.3	12.5	18.8	-	56.3	25.0	18.8	25.0	-
	女性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	11	18.2	45.5	9.1	36.4	18.2	18.2	-	45.5	18.2	9.1	18.2	-
	女性:内職、その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:自営業	5	20.0	-	20.0	-	-	-	20.0	20.0	20.0	-	20.0	20.0
	男性:家族従事者	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:会社役員、管理職	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	男性:正社員・正職員	23	26.1	30.4	30.4	21.7	21.7	-	13.0	21.7	30.4	13.0	13.0	-
	男性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	4	50.0	-	-	-	-	-	25.0	50.0	25.0	-	-	-
	男性:内職、その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回答しない・どちらでもない	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	無回答	1	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-

5. 育児休業・介護休業の利用について

問 11. あなたは「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。
(それぞれに○は1つだけ)

ア. 育児休業制度

図表 4－9 育児休業制度の利用について〔全体、性別〕（前回調査比較）



育児休業の利用について、「利用したい」が 66.9%と最も高く、次いで「利用したいが利用できそうにないと思う」が 13.8%、「わからない」が 11.4%となっており、「利用したくない」は 1.1%とわずかであった。

性別にみると、女性は「利用したい」が 76.1%、男性は 53.4%と女性の方が 22.7 ポイント高い。男性は「利用したいが利用できそうにないと思う」が 18.6%、女性は 10.6%で男性の方が 8 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「利用したい」が増えており、女性は 23.4 ポイント、男性は 22 ポイント増加となっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、男女とも年齢の低い層で「利用したい」の割合が高い。「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性の40歳代で28.8%と最も高く、その前後の年齢でも約2割、女性の40歳代でも22.1%と他の年齢に比べて高くなっている。

婚姻状況別にみると、女性の未婚で「利用したい」は83.8%あるが、男性は48.5%と35.3ポイント差がある。未婚の男性は「利用したいができそうにないと思う」が20.0%、「わからない」が22.3%となっている。また、既婚・パートナーと暮らしている場合でも女性の「利用したい」は74.0%に対し、男性は57.5%と16.5ポイント差となっている。

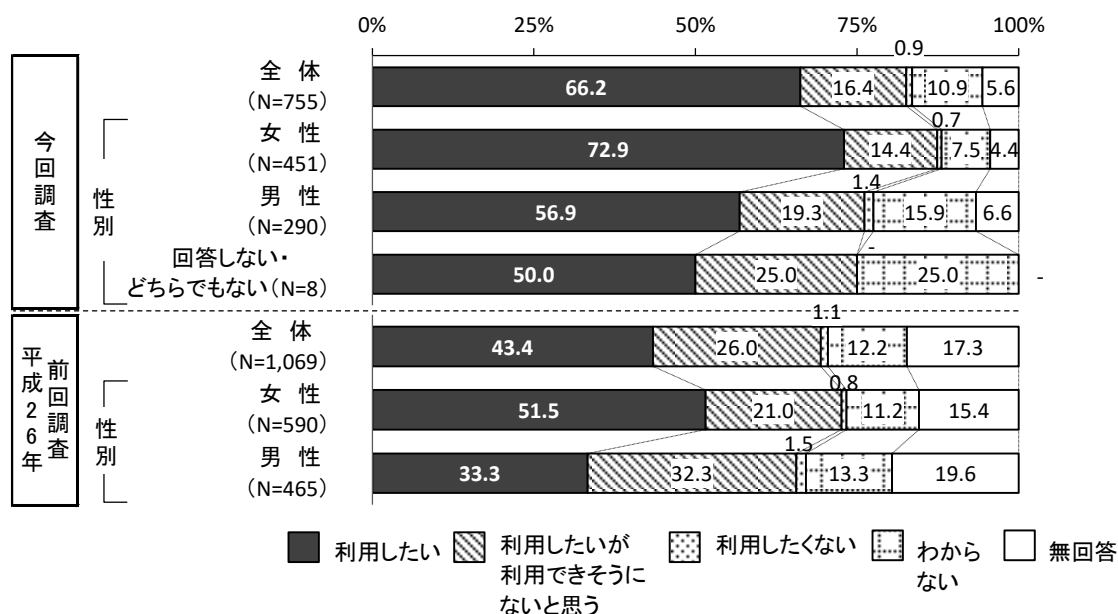
職業別にみると、女性はいずれの職業でも「利用したい」の割合が7割前後であるのに対し、男性で7割を超えるのは会社役員・管理職（75.0%）のみで、その他は5割台かそれ以下となっている。

図表4-10 育児休業制度の利用について〔全体、年齢別、婚姻状況別、職業別〕

		(%)					
		標 本 数	利 用 し た い	に利 用し ない でし た い 思 う が	い 利 用 し た く な	わ か ら な い	無 回 答
全 体		755 100.0	505 66.9	104 13.8	8 1.1	86 11.4	52 6.9
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	88.9	6.7	-	2.2	2.2
	女性:30歳代	56	89.3	5.4	1.8	1.8	1.8
	女性:40歳代	86	74.4	22.1	-	3.5	-
	女性:50歳代	86	75.6	9.3	1.2	8.1	5.8
	女性:60歳代	125	75.2	8.8	0.8	6.4	8.8
	女性:70歳以上	52	55.8	7.7	-	11.5	25.0
	男性:10・20歳代	30	76.7	10.0	-	13.3	-
	男性:30歳代	35	60.0	20.0	5.7	14.3	-
	男性:40歳代	52	50.0	28.8	1.9	13.5	5.8
	男性:50歳代	59	42.4	20.3	-	32.2	5.1
	男性:60歳代	65	52.3	15.4	3.1	18.5	10.8
	男性:70歳以上	48	54.2	12.5	-	20.8	12.5
	回答しない・どちらでもない	8	50.0	25.0	-	25.0	-
	無回答	8	50.0	12.5	-	12.5	25.0
婚 姻 状 況 別	女性:未婚	99	83.8	5.1	1.0	6.1	4.0
	女性:既婚・パートナーと暮らしている	281	74.0	11.4	0.7	6.4	7.5
	女性:離別	43	79.1	14.0	-	2.3	4.7
	女性:死別	28	64.3	17.9	-	3.6	14.3
	男性:未婚	130	48.5	20.0	1.5	22.3	7.7
	男性:既婚・パートナーと暮らしている	120	57.5	17.5	2.5	17.5	5.0
	男性:離別	32	62.5	18.8	-	15.6	3.1
	男性:死別	7	42.9	14.3	-	28.6	14.3
	回答しない・どちらでもない	8	50.0	25.0	-	25.0	-
	無回答	7	42.9	-	-	14.3	42.9
職 業 別	女性:自営業	39	69.2	15.4	-	2.6	12.8
	女性:家族従事者	27	81.5	11.1	-	-	7.4
	女性:会社役員・管理職	7	71.4	28.6	-	-	-
	女性:正社員・正職員	116	80.2	10.3	0.9	5.2	3.4
	女性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	149	74.5	12.1	1.3	8.7	3.4
	女性:内職、その他	1	100.0	-	-	-	-
	男性:自営業	39	53.8	17.9	5.1	20.5	2.6
	男性:家族従事者	4	25.0	50.0	-	25.0	-
	男性:会社役員・管理職	12	75.0	16.7	-	8.3	-
	男性:正社員・正職員	123	54.5	23.6	0.8	19.5	1.6
	男性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	50	50.0	12.0	4.0	28.0	6.0
	男性:内職、その他	2	-	-	-	50.0	50.0
	回答しない・どちらでもない	8	50.0	25.0	-	25.0	-
	無回答	178	66.9	8.4	-	8.4	16.3

イ. 介護休業制度

図表4-11 介護休業制度の利用について〔全体、性別〕（前回調査比較）



介護休業の利用について、「利用したい」が66.2%と最も高く、次いで「利用したいが利用できそうにないと思う」が16.4%、「わからない」が10.9%となっており、「利用したくない」は0.9%とわずかであった。

性別にみると、女性は「利用したい」が72.9%、男性は56.9%と女性の方が16ポイント高い。男性は「利用したいが利用できそうにないと思う」が19.3%、女性は14.4%で男性の方が4.9ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「利用したい」が増えており、女性は21.4ポイント、男性は23.6ポイント増加となっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、男性の30歳代から60歳代で「利用したいができそうにないと思う」が2割を超えて高く、女性の40歳代でも25.6%と高い。

婚姻状況別にみると、女性は未婚、既婚・パートナーと暮らしているに関わらず「利用したい」が約7割であるのに対し、男性の未婚は51.5%、既婚・パートナーと暮らしている人は61.7%と低くなっている。

職業別にみると、女性はいずれの職業でも「利用したい」が7割を超えているのに対し、男性で7割を超えるのは会社役員・管理職（75.0%）のみである。

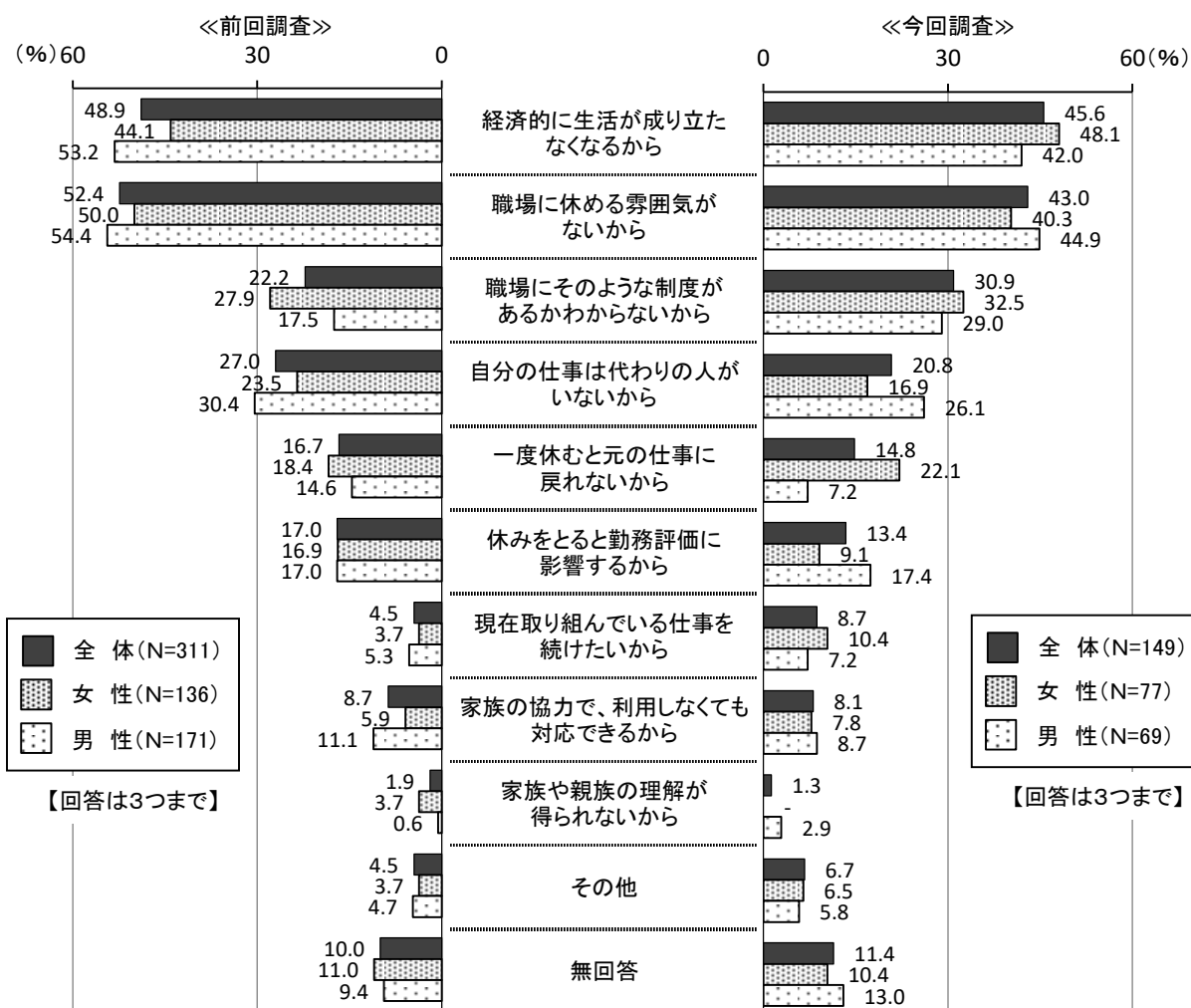
図表4-12 介護休業の利用について〔全体、年齢別、婚姻状況別、職業別〕

		(%)					
		標 本 数	利 用 し た い	に利 用 し た い と 思 う が	い 利 用 し た く な	わ か ら な い	無 回 答
全 体		755 100.0	500 66.2	124 16.4	7 0.9	82 10.9	42 5.6
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	75.6	8.9	2.2	11.1	2.2
	女性:30歳代	56	75.0	16.1	-	7.1	1.8
	女性:40歳代	86	69.8	25.6	1.2	3.5	-
	女性:50歳代	86	75.6	12.8	-	8.1	3.5
	女性:60歳代	125	76.0	11.2	-	7.2	5.6
	女性:70歳以上	52	61.5	9.6	1.9	11.5	15.4
	男性:10・20歳代	30	70.0	6.7	-	20.0	3.3
	男性:30歳代	35	54.3	22.9	5.7	17.1	-
	男性:40歳代	52	59.6	26.9	1.9	7.7	3.8
	男性:50歳代	59	49.2	23.7	-	20.3	6.8
	男性:60歳代	65	53.8	20.0	1.5	15.4	9.2
	男性:70歳以上	48	62.5	8.3	-	16.7	12.5
	回答しない・どちらでもない	8	50.0	25.0	-	25.0	-
	無回答	8	37.5	25.0	-	-	37.5
婚 姻 状 況 別	女性:未婚	99	73.7	12.1	1.0	10.1	3.0
	女性:既婚・パートナーと暮らしている	281	73.3	14.2	0.7	7.5	4.3
	女性:離別	43	67.4	23.3	-	2.3	7.0
	女性:死別	28	75.0	10.7	-	7.1	7.1
	男性:未婚	130	51.5	19.2	1.5	20.0	7.7
	男性:既婚・パートナーと暮らしている	120	61.7	20.0	1.7	10.8	5.8
	男性:離別	32	62.5	18.8	-	15.6	3.1
	男性:死別	7	57.1	14.3	-	28.6	-
	回答しない・どちらでもない	8	50.0	25.0	-	25.0	-
	無回答	7	28.6	14.3	-	-	57.1
職 業 別	女性:自営業	39	71.8	12.8	-	2.6	12.8
	女性:家族従事者	27	81.5	11.1	-	7.4	-
	女性:会社役員・管理職	7	71.4	28.6	-	-	-
	女性:正社員・正職員	116	71.6	19.0	0.9	6.0	2.6
	女性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	149	72.5	16.1	1.3	9.4	0.7
	女性:内職、その他	1	100.0	-	-	-	-
	男性:自営業	39	59.0	17.9	2.6	17.9	2.6
	男性:家族従事者	4	25.0	25.0	-	25.0	25.0
	男性:会社役員・管理職	12	75.0	16.7	-	8.3	-
	男性:正社員・正職員	123	61.0	23.6	1.6	12.2	1.6
	男性:パート・アルバイト、契約・派遣社員	50	50.0	16.0	2.0	26.0	6.0
	男性:内職、その他	2	-	-	-	50.0	50.0
	回答しない・どちらでもない	8	50.0	25.0	-	25.0	-
	無回答	178	65.2	10.7	-	10.1	14.0

6. 育児休業・介護休業を利用できない、利用したくない理由

【問 11「ア. 育児休業制度」「イ. 介護休業制度」のどちらかで「2.」か「3.」と答えた方に】 付問 11-1. 育児や介護の休業制度を利用できない、または利用したくない理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 4-13 育児休業・介護休業を利用できない、利用したくない理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



育児休業や介護休業を利用できない、利用したくない理由は、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が45.6%、「職場に休める雰囲気がないから」が43.0%、「職場にそのような制度があるかわからないから」が30.9%、「自分の仕事は代わりの人がいないから」が20.8%などとなっている。

性別にみると、女性は「経済的に生活が成り立たなくなるから」（女性48.1%、男性42.0%）や「職場にそのような制度があるかわからないから」（同32.5%、29.0%）、「一度休むと元の仕事に戻れないから」（同22.1%、7.2%）などが男性よりも3.5～14.9ポイント高い。男性は「職場に休める雰囲気がないから」（同40.3%、44.9%）や「自分の仕事は代わりの人がいないから」（同16.9%、26.1%）、「休みをとると勤務評価に影響するから」（同9.1%、17.4%）などが女性よりも4.6～9.2ポイント高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

前回調査と比べると、「経済的に生活が成り立たなくなるから」は男性では11.2ポイント減っているが、女性では4ポイント増え、前回の第2位から第1位の理由となっている。「職場に休める雰囲気がないから」は男女ともが約10ポイント減り、前回調査の第1位から第2位の理由となっている。「職場にそのような制度があるかわからないから」は男女とも4.6～11.5ポイント増えている。

年齢別にみると、女性の30歳代から50歳代で「経済的に生活が成り立たなくなるから」が約6割から8割と高く、「職場に休める雰囲気がないから」は男性の40歳代で70.6%と最も高く、その他女性の30歳代と40歳代、男性の50歳代と70歳以上でも5割を超えている。「職場にそのような制度があるかわからないから」や「一度休むと元の仕事に戻れないから」「現在取り組んでいる仕事を続けたいから」などは標本数が少なく注意が必要であるが、女性の10・20歳代で高くなっている。

図表4-14 育児休業・介護休業を利用できない、利用したくない理由〔全体、年齢別〕

(%)

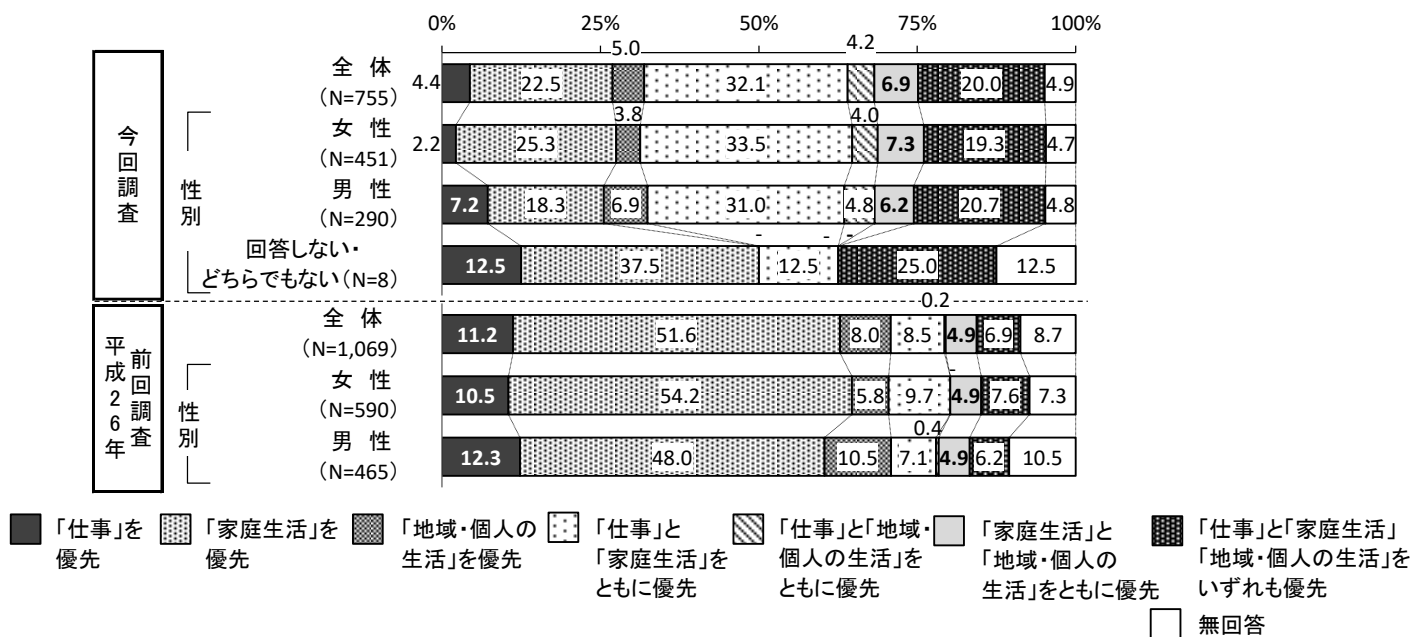
		立 経 済 的 に 生 活 が 成 り	が 職 場 に 休 め る 雰 囲 気	価 休 に み 影 響 と す る と か 勤 務 評	の 自 分 が の 仕 事 は か 代 わ り	に 一 度 休 む と 元 の 仕 事	仕 事 在 取 組 み を 続 け たい か	得 家 族 の 理 解 が	る し 家 族 の 理 解 が	い 度 か が あ る そ の よ う な 制	そ の 他	無 回 答
	標 本 数											
全 体	149 100.0	68 45.6	64 43.0	20 13.4	31 20.8	22 14.8	13 8.7	2 1.3	12 8.1	46 30.9	10 6.7	17 11.4
年 齢 別	女性:10・20歳代	5 20.0	20.0	-	-	40.0	40.0	-	20.0	40.0	-	20.0
	女性:30歳代	9 77.8	55.6	-	11.1	22.2	-	-	11.1	22.2	11.1	-
	女性:40歳代	24 58.3	58.3	4.2	12.5	20.8	4.2	-	4.2	33.3	4.2	4.2
	女性:50歳代	14 57.1	35.7	14.3	28.6	14.3	7.1	-	7.1	35.7	7.1	-
	女性:60歳代	18 27.8	27.8	22.2	22.2	22.2	22.2	-	5.6	38.9	5.6	22.2
	女性:70歳以上	7 28.6	14.3	-	14.3	28.6	-	-	14.3	14.3	14.3	28.6
	男性:10・20歳代	4 50.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-	-
	男性:30歳代	11 45.5	9.1	9.1	45.5	-	-	-	18.2	27.3	-	27.3
	男性:40歳代	17 29.4	70.6	17.6	17.6	5.9	11.8	5.9	5.9	23.5	11.8	5.9
	男性:50歳代	15 46.7	53.3	26.7	40.0	6.7	-	-	-	33.3	6.7	6.7
	男性:60歳代	15 46.7	33.3	20.0	20.0	13.3	13.3	-	6.7	26.7	6.7	20.0
	男性:70歳以上	6 50.0	66.7	16.7	-	-	16.7	16.7	16.7	66.7	-	-
	回答しない・どちらでもない	2 100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	無回答	2	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0

7. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問 12. 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についておたずねします。次のア、イのそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（それぞれに〇は1つだけ）

ア. あなたの希望

図表 4-15 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度
[全体、性別]（前回調査比較）



希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、「仕事」と「家庭生活」をともに優先が32.1%で最も高い。次いで「地域・個人の生活」を優先が22.5%、「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をいずれも優先が20.0%となっている。

性別にみると、男性は「仕事」を優先が女性より5ポイント高く、「家庭生活」を優先が7ポイント低い、その他項目についてはあまり大きな差はれない。

前回調査と比べると、男女とも「仕事」を優先や「家庭生活」を優先などの割合が減り、「仕事」と「家庭生活」をともに優先が約24ポイント増えている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は男性の30歳代以下で4割を超えて高くなっている。「家庭生活」を優先は女性の40歳代以下で、「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をいずれも優先は男女とも60歳代で約3割と他の年齢に比べて高い。

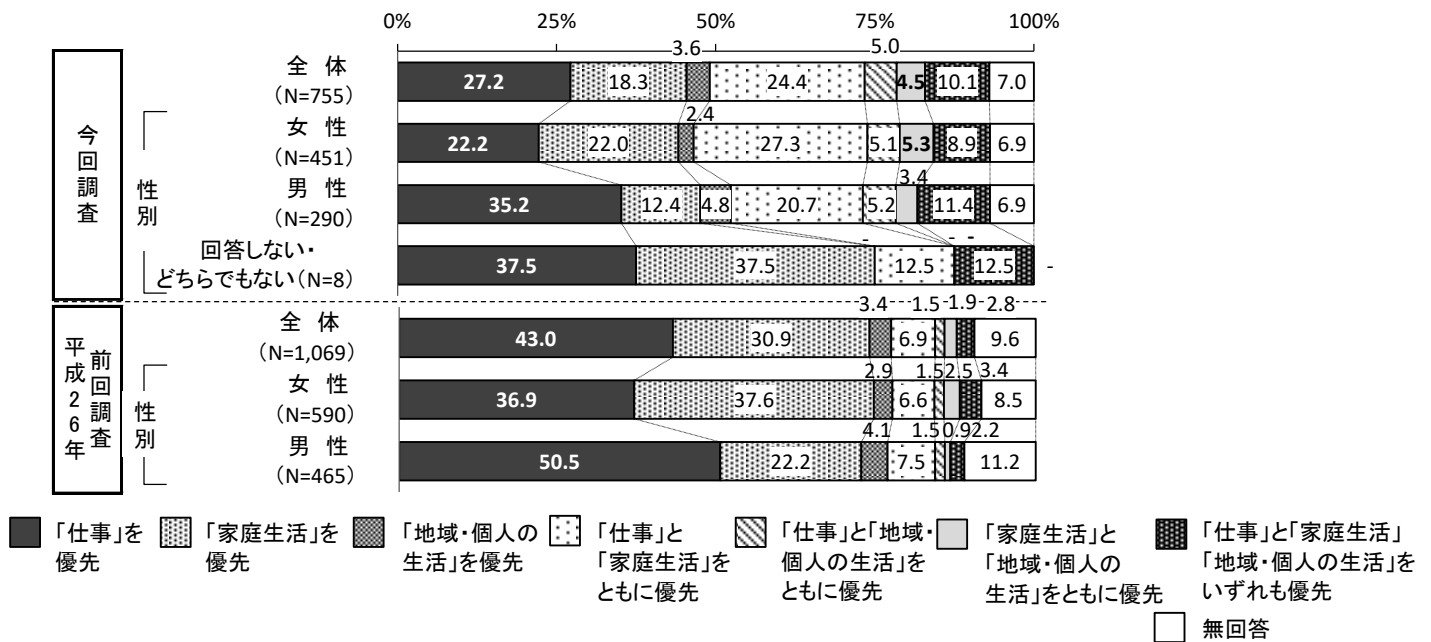
共働き別にみると、女性の共働きでは「仕事」と「家庭生活」をともに優先と「家庭庭生活」を優先がともに約3割に対し、片働きでは「仕事」と「家庭生活」をともに優先が41.4%で「家庭生活」を優先(24.1%)より17.3ポイント高い。

図表4-16 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度〔全体、年齢別、共働き別〕

		(%)								
		標本数	仕事 を優先	家庭 生活 を優先	地域・ 個人の 生活 を優先	仕事と 地域・ 個人の 生活 をともに 優先	仕事と 地域・ 個人の 生活 をともに 優先	地域・ 個人の 生活 を優先	仕事と 地域・ 個人の 生活 をともに 優先	無 回 答
全 体		755 100.0	33 4.4	170 22.5	38 5.0	242 32.1	32 4.2	52 6.9	151 20.0	37 4.9
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	4.4	28.9	8.9	28.9	-	4.4	20.0	4.4
	女性:30歳代	56	-	32.1	3.6	33.9	-	5.4	19.6	5.4
	女性:40歳代	86	1.2	30.2	2.3	36.0	2.3	14.0	12.8	1.2
	女性:50歳代	86	1.2	18.6	4.7	36.0	9.3	5.8	17.4	7.0
	女性:60歳代	125	2.4	25.6	2.4	31.2	2.4	3.2	27.2	5.6
	女性:70歳以上	52	5.8	17.3	3.8	34.6	9.6	11.5	13.5	3.8
	男性:10・20歳代	30	6.7	13.3	13.3	43.3	-	10.0	13.3	-
	男性:30歳代	35	5.7	11.4	8.6	48.6	5.7	8.6	11.4	-
	男性:40歳代	52	5.8	23.1	3.8	30.8	-	5.8	25.0	5.8
	男性:50歳代	59	15.3	20.3	3.4	32.2	3.4	5.1	16.9	3.4
	男性:60歳代	65	7.7	16.9	6.2	18.5	7.7	6.2	30.8	6.2
	男性:70歳以上	48	-	20.8	10.4	27.1	8.3	4.2	18.8	10.4
	回答しない・どちらでもない	8	12.5	37.5	-	12.5	-	-	25.0	12.5
	無回答	8	12.5	-	12.5	-	12.5	25.0	25.0	12.5
共 働 き 別	女性:共働き	173	0.6	31.2	1.2	31.8	3.5	8.1	19.7	4.0
	女性:片働き	58	-	24.1	1.7	41.4	1.7	5.2	22.4	3.4
	女性:その他	4	-	25.0	-	50.0	-	-	25.0	-
	女性:二人とも働いていない	33	-	27.3	6.1	30.3	6.1	6.1	24.2	-
	男性:共働き	76	3.9	28.9	5.3	34.2	-	5.3	21.1	1.3
	男性:片働き	25	8.0	16.0	-	20.0	8.0	8.0	32.0	8.0
	男性:その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	男性:二人とも働いていない	11	-	18.2	-	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1
	回答しない・どちらでもない	8	12.5	37.5	-	12.5	-	-	25.0	12.5
	無回答	366	7.1	16.7	7.9	31.4	5.2	7.1	18.3	6.3

イ. あなたの現実（現状）

図表4-17 現実の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度〔全体、性別〕（前回調査比較）



現実の優先度については、「「仕事」を優先」が27.2%、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が24.4%、「「家庭生活」を優先」が18.3%、「「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をいずれも優先」が10.1%となっている。

希望に比べて「「仕事」を優先」が22.8ポイント高く、「「家庭生活」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をいずれも優先」は9.9ポイント、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」は7.7ポイント低くなっている。

性別にみると、男性は「「仕事」を優先」が35.2%で女性（22.2%）より13ポイント高く、女性は「「家庭生活」を優先」（22.0%）が9.6ポイント、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」（27.3%）が6.6ポイント男性より高い。

前回調査と比べると、男女とも「「仕事」を優先」が13～14.7ポイント、「「家庭生活」を優先」が9.8～15.6ポイント減り、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が13.2～20.7ポイント、「「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をいずれも優先」が5.5～9.2ポイント増えている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、男性の30歳代以下では「仕事」を優先」が5割を超えて高い。希望では「仕事」を優先」は1割に満たず、希望と現実の違いが顕著となっている。

共働き別にみると、男女とも共働きでは「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が同率の32.9%と最も高く、「仕事」を優先」は約2割から3割となっている。片働きの男性は「仕事」を優先」が32.0%、女性は「家庭生活」を優先」が31.0%と各々最も高くなっている。

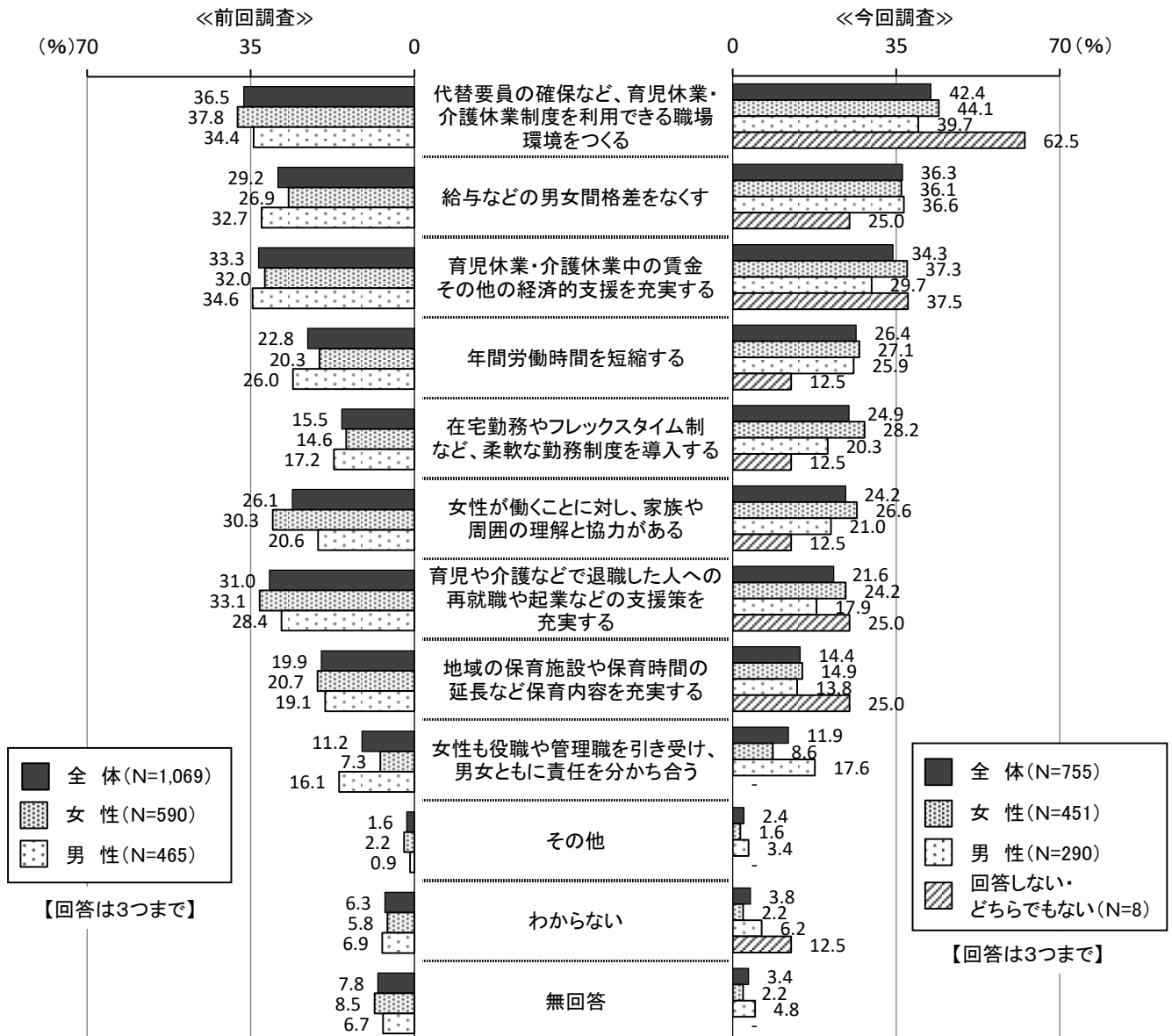
図表4-18 現実の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度〔全体、年齢別、共働き別〕

											(%)
		標 本 数	任 事 」 を 優 先	家 庭 生 活 」 を 優 先	地 域 ・ 個 人 の 生 活 」 を 優 先	任 事 」 と も に 優 先 家 庭 生 活 」	任 事 」 と 地 域 ・ 個 人 の 生 活 」 を も と に 優 先	地 域 ・ 家 庭 生 活 」 と も に 優 先	任 事 」 と 地 域 ・ 個 人 の 生 活 」 を い ず れ も 優 先	無 回 答	
全 体		755 100.0	33 4.4	170 22.5	38 5.0	242 32.1	32 4.2	52 6.9	151 20.0	37 4.9	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	31.1	20.0	-	28.9	4.4	2.2	2.2	11.1	
	女性:30歳代	56	32.1	21.4	-	30.4	3.6	3.6	3.6	5.4	
	女性:40歳代	86	30.2	18.6	2.3	37.2	3.5	4.7	3.5	-	
	女性:50歳代	86	23.3	22.1	3.5	27.9	2.3	2.3	14.0	4.7	
	女性:60歳代	125	14.4	24.0	1.6	23.2	4.8	8.0	14.4	9.6	
	女性:70歳以上	52	7.7	23.1	7.7	15.4	15.4	9.6	7.7	13.5	
	男性:10・20歳代	30	53.3	-	10.0	23.3	3.3	-	10.0	-	
	男性:30歳代	35	57.1	8.6	2.9	25.7	-	-	5.7	-	
	男性:40歳代	52	38.5	5.8	3.8	25.0	7.7	-	11.5	7.7	
	男性:50歳代	59	37.3	18.6	-	25.4	1.7	1.7	8.5	6.8	
	男性:60歳代	65	23.1	15.4	6.2	15.4	6.2	6.2	20.0	7.7	
	男性:70歳以上	48	18.8	18.8	8.3	12.5	10.4	10.4	6.3	14.6	
回答しない・どちらでもない	8	37.5	37.5	-	12.5	-	-	12.5	-		
無回答	8	-	12.5	25.0	-	-	-	37.5	25.0		
共 働 き 別	女性:共働き	173	22.5	24.9	1.2	32.9	2.9	2.9	9.2	3.5	
	女性:片働き	58	10.3	31.0	5.2	25.9	3.4	6.9	5.2	12.1	
	女性:その他	4	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0	
	女性:二人とも働いていない	33	6.1	45.5	3.0	3.0	6.1	15.2	15.2	6.1	
	男性:共働き	76	27.6	14.5	1.3	32.9	3.9	2.6	15.8	1.3	
	男性:片働き	25	32.0	20.0	-	16.0	12.0	4.0	8.0	8.0	
	男性:その他	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	男性:二人とも働いていない	11	9.1	18.2	9.1	18.2	9.1	18.2	-	18.2	
	回答しない・どちらでもない	8	37.5	37.5	-	12.5	-	-	12.5	-	
無回答	366	33.9	10.9	5.2	21.3	6.0	4.1	10.1	8.5		

8. 男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件

問 13. 男女がともに仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 4-19 男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件〔全体、性別〕(前回調査比較)



男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件は、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が42.4%と最も高く、次いで「給与などの男女間格差をなくす」が36.3%、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が34.3%などとなっている。

性別にみると、ほとんどの項目で女性の割合が高く、特に「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」(女性37.3%、男性29.7%)、「在宅勤務やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度を導入する」(同28.2%、20.3%)、「育児や介護などで退職した人への再就職や起業などの支援策を充実する」(同24.2%、17.9%)などで6.3～7.9ポイント男性より高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

前回調査と比べると、女性は割合が増えている項目が多く、特に「在宅勤務やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度を導入する」「給与などの男女間格差をなくす」「年間労働時間を短縮する」「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」などが5.3～13.6ポイント増えている。また、男女とも「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が5.3～6.3ポイント増えている。「育児や介護などで退職した人への再就職や起業などの支援策を充実する」や「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実する」などは男女とも5.3～10.5ポイント減っている。

年齢別にみると、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」は女性の10・20歳代と60歳代、男性の40歳代と60歳代で約5割、「給与などの男女間格差をなくす」は女性の40歳代と男性の10・20歳代、70歳以上で4割台半ばから5割、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」は女性の30歳代で53.6%、「在宅勤務やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度を導入する」は女性の10・20歳代で44.4%、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある」は女性の70歳以上で46.2%と他の年齢に比べて高くなっている。

共働き別にみると、共働きの女性と片働きの男性は「給与などの男女間格差をなくす」が約4割から5割、片働きの女性と共働きの男性は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が約5割、共働きの男女は「年間労働時間を短縮する」が3割台半ば、片働きの女性は「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある」が39.7%、片働きの男性は「女性も役職や管理職を引き受け、男女ともに責任を分かち合う」が36.0%と高くなっている。

図表4-20 男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件〔全体、年齢別、共働き別〕

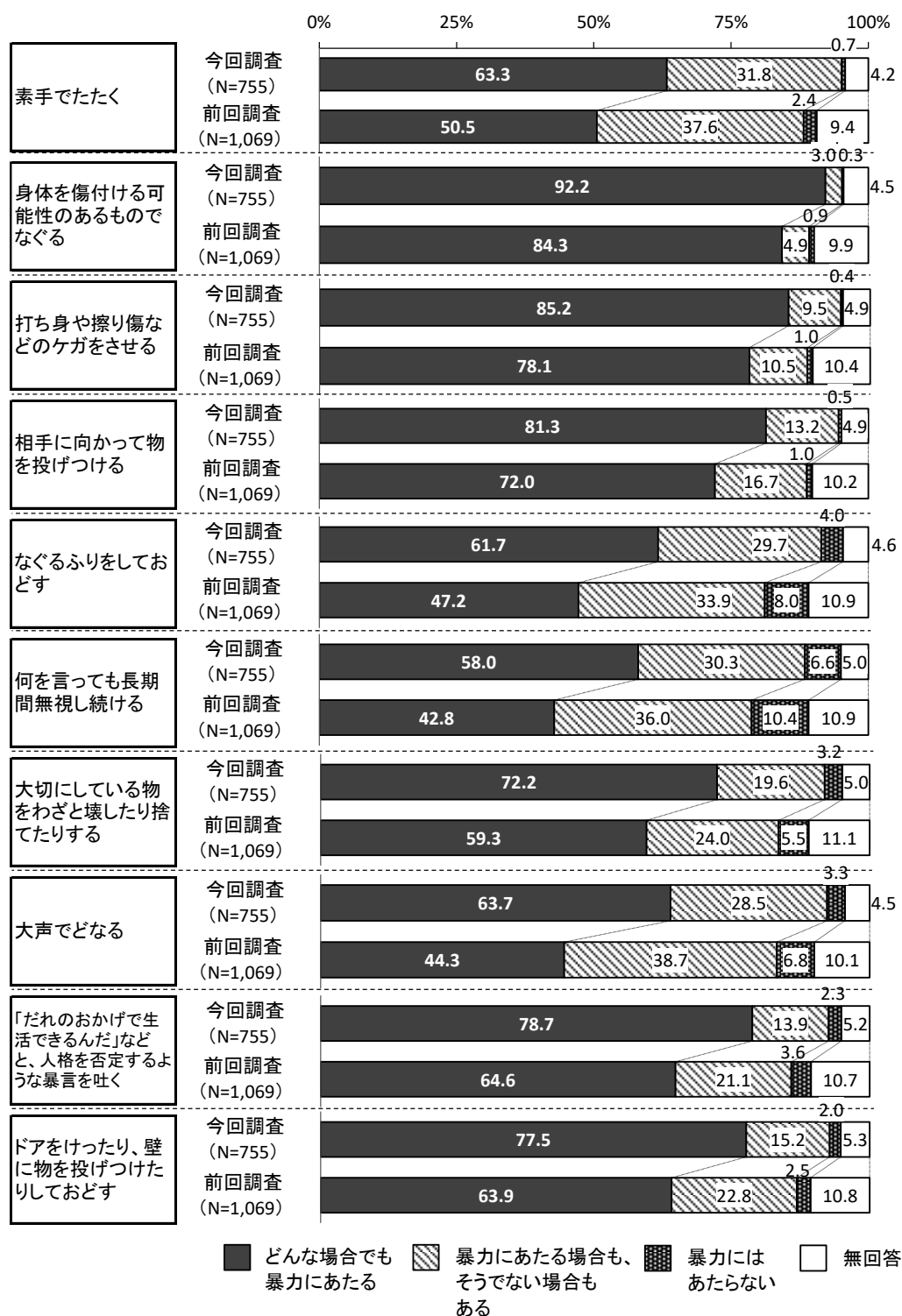
		標本数	給与などの男女間格差をなくす	年間労働時間を短縮する	代替要員の確保など、育児休業・介護休業環境を整える	支援策の再就職や退職などのため	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する	地域の保育施設や保育充実時間	在宅勤務やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度を導入する	家族や周囲の理解と協力がある	女性も役職や管理職を引き受け、男女ともに責任を分かち合う	その他	わからない	無回答
全 体		755 100.0	274 36.3	199 26.4	320 42.4	163 21.6	259 34.3	109 14.4	188 24.9	183 24.2	90 11.9	18 2.4	29 3.8	26 3.4
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	37.8	17.8	51.1	26.7	33.3	17.8	44.4	13.3	4.4	-	2.2	2.2
	女性:30歳代	56	35.7	33.9	44.6	17.9	53.6	23.2	33.9	17.9	7.1	5.4	-	-
	女性:40歳代	86	45.3	36.0	40.7	19.8	36.0	10.5	33.7	17.4	9.3	2.3	-	-
	女性:50歳代	86	41.9	24.4	36.0	31.4	40.7	12.8	25.6	24.4	4.7	-	3.5	-
	女性:60歳代	125	33.6	26.4	52.8	26.4	36.8	14.4	22.4	34.4	11.2	0.8	1.6	2.4
	女性:70歳以上	52	17.3	17.3	34.6	19.2	21.2	15.4	17.3	46.2	13.5	1.9	7.7	11.5
	男性:10・20歳代	30	50.0	30.0	43.3	20.0	23.3	16.7	36.7	6.7	3.3	3.3	10.0	-
	男性:30歳代	35	20.0	20.0	42.9	22.9	25.7	22.9	14.3	25.7	20.0	-	8.6	-
	男性:40歳代	52	36.5	28.8	50.0	17.3	38.5	11.5	15.4	11.5	19.2	3.8	3.8	3.8
	男性:50歳代	59	39.0	27.1	22.0	22.0	23.7	15.3	27.1	20.3	11.9	6.8	11.9	5.1
	男性:60歳代	65	32.3	24.6	50.8	15.4	36.9	12.3	21.5	26.2	23.1	3.1	-	7.7
	男性:70歳以上	48	43.8	25.0	31.3	12.5	25.0	8.3	10.4	29.2	22.9	2.1	6.3	8.3
	回答しない・どちらでもない	8	25.0	12.5	62.5	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	-	-	12.5	-
	無回答	8	37.5	25.0	25.0	-	25.0	-	12.5	37.5	-	12.5	-	25.0
共 働 き 別	女性:共働き	173	40.5	33.5	37.0	23.7	39.3	14.5	25.4	26.6	7.5	2.3	2.3	1.2
	女性:片働き	58	29.3	13.8	51.7	22.4	39.7	22.4	22.4	39.7	19.0	1.7	5.2	-
	女性:その他	4	25.0	50.0	25.0	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-
	女性:二人とも働いていない	33	30.3	21.2	36.4	15.2	24.2	18.2	24.2	45.5	9.1	3.0	6.1	6.1
	男性:共働き	76	35.5	34.2	50.0	25.0	31.6	11.8	22.4	19.7	19.7	1.3	2.6	-
	男性:片働き	25	52.0	16.0	28.0	4.0	28.0	4.0	28.0	24.0	36.0	12.0	-	12.0
	男性:その他	1	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
	男性:二人とも働いていない	11	45.5	18.2	27.3	9.1	45.5	18.2	-	54.5	-	-	9.1	9.1
	回答しない・どちらでもない	8	25.0	12.5	62.5	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	-	-	12.5	-
無回答		366	35.2	24.9	43.7	22.1	32.8	13.4	26.5	19.1	10.4	2.2	4.4	4.9

第5章 暴力などの人権侵害について

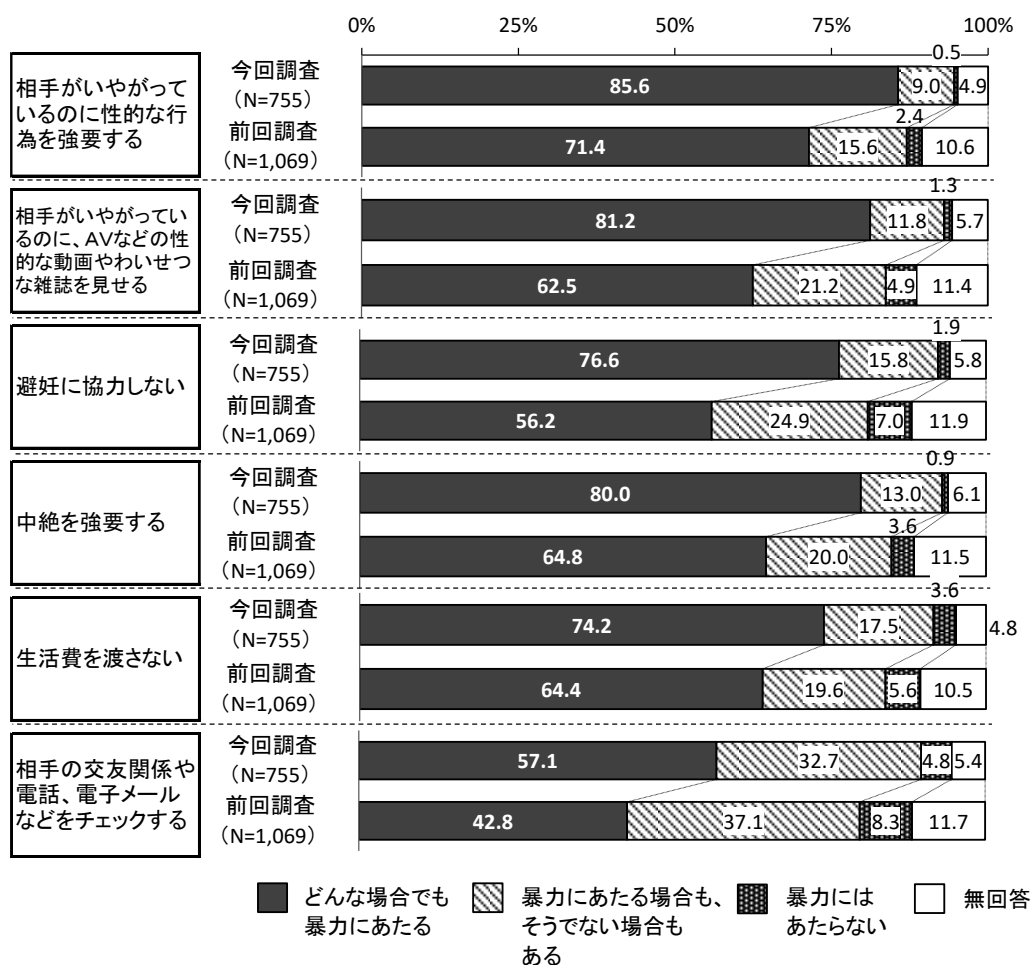
1. 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為

問 14. あなたは、次のア～タのことが配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む）や交際相手の間で行われた場合、暴力だと思いますか。
（それぞれに○は1つだけ）

図表 5-1 (1) 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為〔全体〕（前回調査比較）



図表5-1(2) 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為〔全体〕(前回調査比較)

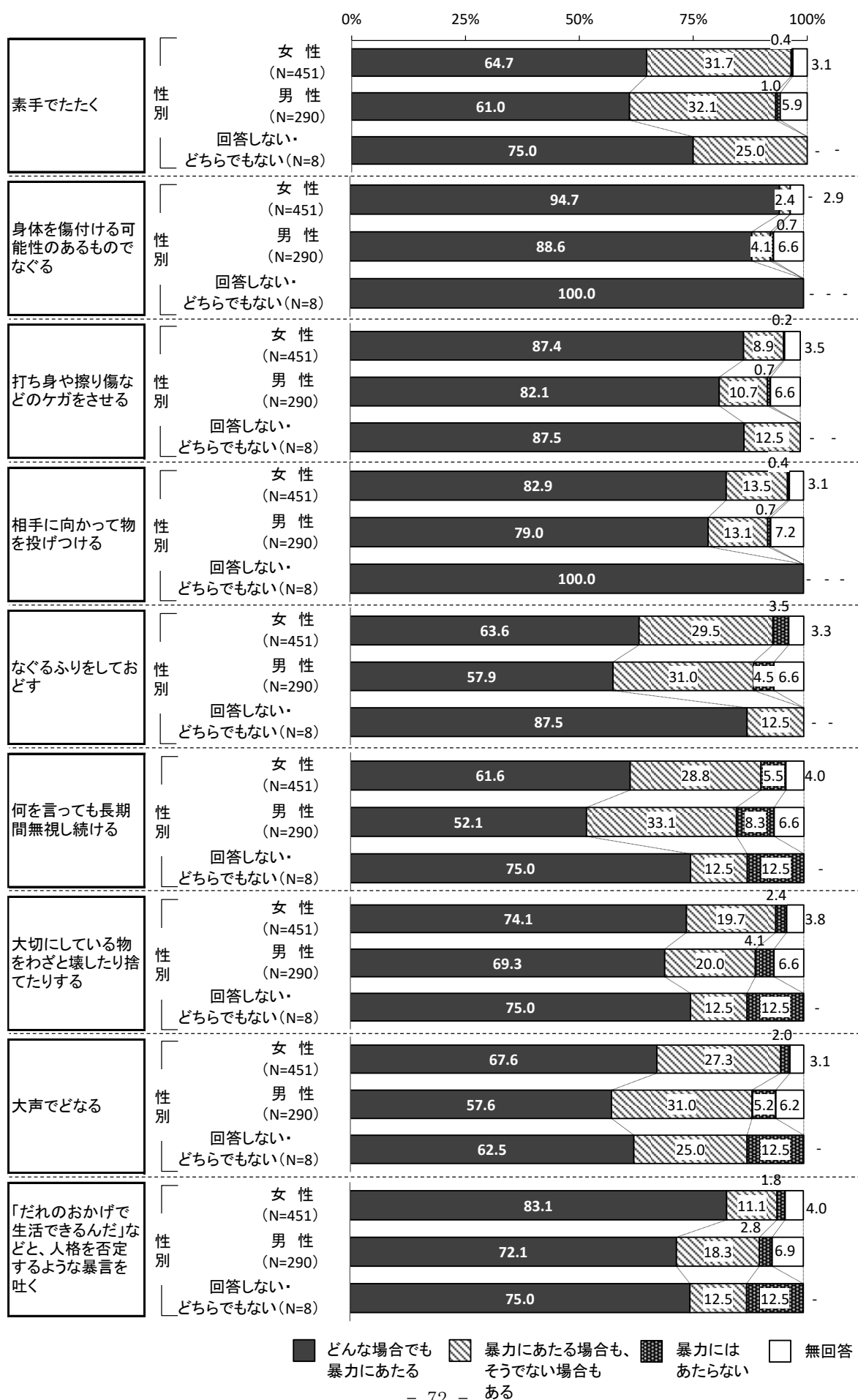


様々な行為について、それが配偶者や交際相手の間で行われた場合に暴力だと思うかどうかたずねたところ、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いは、「身体を傷付ける可能性のあるものでなぐる」が92.2%と最も高く、その他「相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」(85.6%)、「打ち身や擦り傷などのケガをさせる」(85.2%)「相手に向かって物を投げつける」(81.3%)、「相手がいやがっているのに、AVなどの性的な動画やわいせつな雑誌を見せる」(81.2%)、「中絶を強要する」(80.0%)なども8割台と高いが、その他は8割を下回り、特に「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」(57.1%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(58.0%)、「なぐるふりをしておどす」(61.7%)、「素手でたたく」(63.3%)、「大声でどなる」(63.7%)など社会的や精神的、身体的においてもその行為がどんな場合でも暴力であるとの認識が低いものがある。

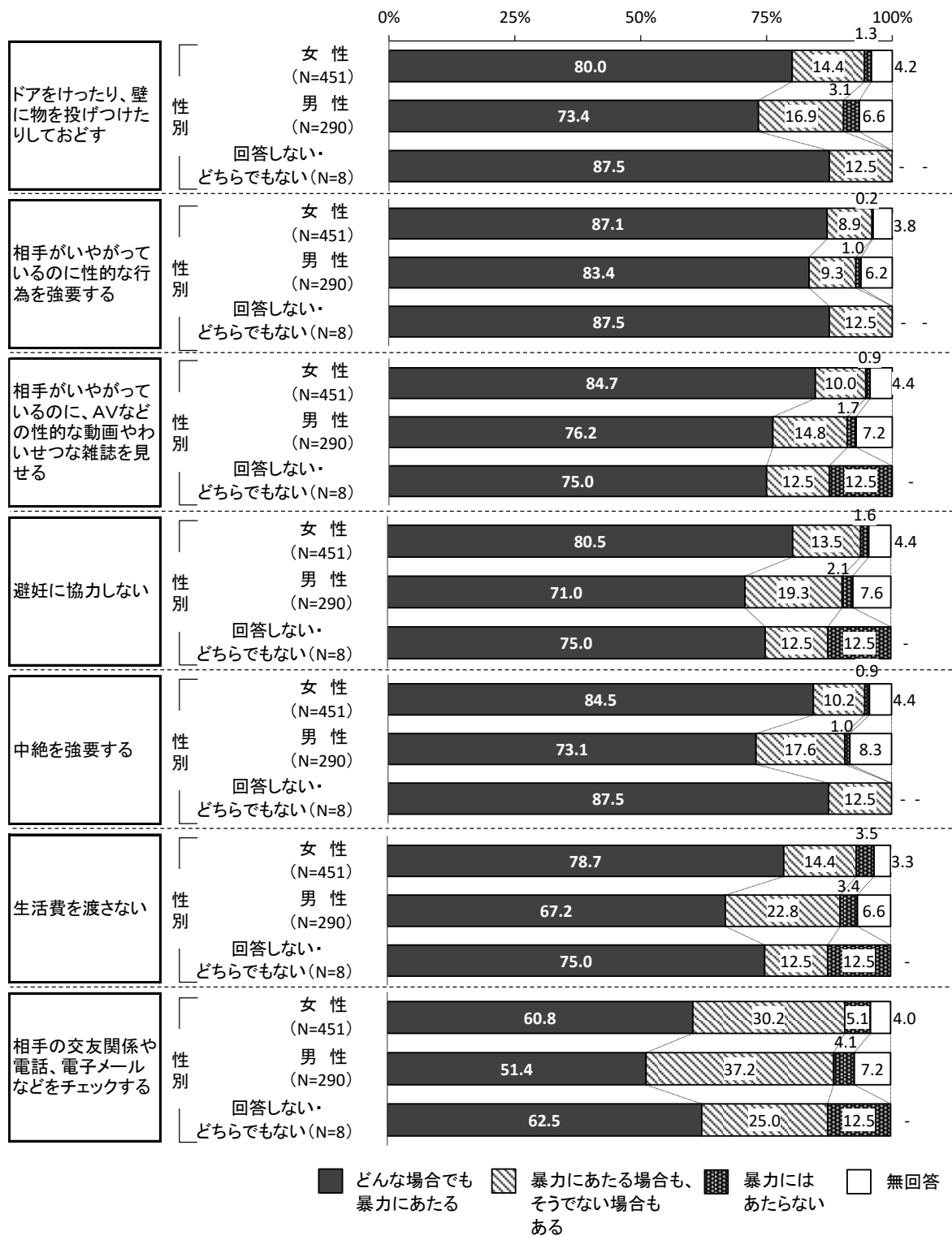
前回調査と比べると、全ての行為について「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は増えている。特に「避妊に協力しない」「大声でどなる」「相手がいやがっているのに、AVなどの性的な動画やわいせつな雑誌を見せる」などで約20ポイント増え、その他でも約7～15ポイント増えている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

図表5-2(1) 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為〔性別〕



図表5-2(2) 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為〔性別〕



性別にみると、全ての行為において「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は女性の方が男性よりも高く、特に「生活費を渡さない」「中絶を強要する」「だれのおかげで生活できるんだ」などと、人格を否定するような暴言を吐く」「大声でどなる」「何を言っても長期間無視し続ける」「避妊に協力しない」「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」などで9.4～11.5ポイント高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、ほとんどの行為において男女とも 70 歳以上で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が低い傾向がみられる。ただし、「素手でたたく」は女性の 30 歳代と男性の 30 歳代から 50 歳代で 5 割台、「打ち身や擦り傷などのケガをさせる」は男性の 30 歳代で 77.1%、「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」は男女の 10・20 歳代と男性の 70 歳以上で 4 割台と低いのが目立つ。

図表 5－3（1） 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為〔全体、年齢別〕

(%)

		標 本 数	素手でたたく				身体を傷付ける可能性のあるものでなぐ る				
			るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 な力 いには あた	無回 答	るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 な力 いには あた	無回 答	
全 体		755 100.0	478 63.3	240 31.8	5 0.7	32 4.2	696 92.2	23 3.0	2 0.3	34 4.5	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	64.4	31.1	－	4.4	93.3	2.2	－	4.4	
	女性:30歳代	56	57.1	42.9	－	－	96.4	3.6	－	－	
	女性:40歳代	86	65.1	31.4	1.2	2.3	96.5	1.2	－	2.3	
	女性:50歳代	86	67.4	30.2	1.2	1.2	97.7	1.2	－	1.2	
	女性:60歳代	125	68.0	28.8	－	3.2	94.4	2.4	－	3.2	
	女性:70歳以上	52	61.5	28.8	－	9.6	86.5	5.8	－	7.7	
	男性:10・20歳代	30	73.3	20.0	3.3	3.3	90.0	3.3	3.3	3.3	
	男性:30歳代	35	57.1	42.9	－	－	85.7	11.4	2.9	－	
	男性:40歳代	52	55.8	34.6	1.9	7.7	88.5	1.9	－	9.6	
	男性:50歳代	59	52.5	39.0	1.7	6.8	88.1	5.1	－	6.8	
	男性:60歳代	65	63.1	33.8	－	3.1	95.4	1.5	－	3.1	
	男性:70歳以上	48	70.8	16.7	－	12.5	83.3	2.1	－	14.6	
	回答しない・どちらでもない	8	75.0	25.0	－	－	100.0	－	－	－	
無回答	8	37.5	50.0	－	12.5	62.5	12.5	－	25.0		
		標 本 数	打ち身や擦り傷などのケガをさせる				相手に向かって物を投げつける				
			るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 な力 いには あた	無回 答	るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 な力 いには あた	無回 答	
全 体		755 100.0	643 85.2	72 9.5	3 0.4	37 4.9	614 81.3	100 13.2	4 0.5	37 4.9	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	82.2	13.3	－	4.4	77.8	17.8	－	4.4	
	女性:30歳代	56	83.9	16.1	－	－	87.5	12.5	－	－	
	女性:40歳代	86	87.2	10.5	－	2.3	88.4	9.3	－	2.3	
	女性:50歳代	86	91.9	5.8	－	2.3	82.6	15.1	1.2	1.2	
	女性:60歳代	125	88.8	7.2	－	4.0	82.4	12.8	－	4.8	
	女性:70歳以上	52	84.6	3.8	1.9	9.6	75.0	17.3	1.9	5.8	
	男性:10・20歳代	30	90.0	3.3	3.3	3.3	86.7	6.7	3.3	3.3	
	男性:30歳代	35	77.1	20.0	2.9	－	82.9	17.1	－	－	
	男性:40歳代	52	78.8	11.5	－	9.6	84.6	3.8	－	11.5	
	男性:50歳代	59	76.3	16.9	－	6.8	69.5	23.7	－	6.8	
	男性:60歳代	65	90.8	6.2	－	3.1	84.6	10.8	－	4.6	
	男性:70歳以上	48	81.3	4.2	－	14.6	70.8	14.6	－	14.6	
	回答しない・どちらでもない	8	87.5	12.5	－	－	100.0	－	－	－	
無回答	8	62.5	12.5	－	25.0	50.0	12.5	12.5	25.0		

図表5-3(2) 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為〔全体、年齢別〕
(%)

		標本数	なぐるふりをしておどす				何を言っても長期間無視し続ける			
			るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に はあ た	無 回 答	るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に はあ た	無 回 答
全 体		755 100.0	466 61.7	224 29.7	30 4.0	35 4.6	438 58.0	229 30.3	50 6.6	38 5.0
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	64.4	28.9	2.2	4.4	55.6	35.6	4.4	4.4
	女性:30歳代	56	76.8	19.6	3.6	-	67.9	30.4	1.8	-
	女性:40歳代	86	76.7	17.4	3.5	2.3	68.6	24.4	4.7	2.3
	女性:50歳代	86	64.0	31.4	2.3	2.3	66.3	27.9	3.5	2.3
	女性:60歳代	125	57.6	36.0	2.4	4.0	60.0	24.8	10.4	4.8
	女性:70歳以上	52	40.4	42.3	9.6	7.7	44.2	40.4	3.8	11.5
	男性:10・20歳代	30	83.3	10.0	3.3	3.3	60.0	23.3	13.3	3.3
	男性:30歳代	35	60.0	37.1	2.9	-	62.9	31.4	5.7	-
	男性:40歳代	52	63.5	25.0	3.8	7.7	55.8	28.8	7.7	7.7
	男性:50歳代	59	52.5	37.3	3.4	6.8	47.5	35.6	10.2	6.8
	男性:60歳代	65	58.5	33.8	3.1	4.6	53.8	35.4	6.2	4.6
	男性:70歳以上	48	41.7	35.4	8.3	14.6	39.6	39.6	6.3	14.6
	回答しない・どちらでもない	8	87.5	12.5	-	-	75.0	12.5	12.5	-
	無回答	8	62.5	-	25.0	12.5	50.0	25.0	12.5	12.5
		標本数	大切にしている物をわざと壊したり捨てたりする				大声でどなる			
			るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に はあ た	無 回 答	るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に はあ た	無 回 答
全 体		755 100.0	545 72.2	148 19.6	24 3.2	38 5.0	481 63.7	215 28.5	25 3.3	34 4.5
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	80.0	15.6	-	4.4	62.2	33.3	-	4.4
	女性:30歳代	56	85.7	14.3	-	-	76.8	23.2	-	-
	女性:40歳代	86	77.9	19.8	-	2.3	77.9	19.8	-	2.3
	女性:50歳代	86	80.2	14.0	3.5	2.3	69.8	25.6	2.3	2.3
	女性:60歳代	125	72.0	18.4	4.8	4.8	62.4	30.4	3.2	4.0
	女性:70歳以上	52	44.2	42.3	3.8	9.6	53.8	34.6	5.8	5.8
	男性:10・20歳代	30	73.3	16.7	6.7	3.3	66.7	20.0	10.0	3.3
	男性:30歳代	35	82.9	17.1	-	-	65.7	31.4	2.9	-
	男性:40歳代	52	67.3	21.2	3.8	7.7	53.8	36.5	3.8	5.8
	男性:50歳代	59	67.8	20.3	5.1	6.8	55.9	27.1	10.2	6.8
	男性:60歳代	65	72.3	18.5	4.6	4.6	61.5	30.8	3.1	4.6
	男性:70歳以上	48	58.3	22.9	4.2	14.6	47.9	35.4	2.1	14.6
	回答しない・どちらでもない	8	75.0	12.5	12.5	-	62.5	25.0	12.5	-
	無回答	8	62.5	12.5	-	25.0	62.5	12.5	-	25.0
		標本数	「だれのおかげで生活できるんだ」などと、人格を否定するような暴言を吐く				ドアをけったり、壁に物を投げつけたりしておどす			
			るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に はあ た	無 回 答	るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いもに 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に はあ た	無 回 答
全 体		755 100.0	594 78.7	105 13.9	17 2.3	39 5.2	585 77.5	115 15.2	15 2.0	40 5.3
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	84.4	11.1	-	4.4	82.2	13.3	-	4.4
	女性:30歳代	56	92.9	7.1	-	-	85.7	14.3	-	-
	女性:40歳代	86	88.4	8.1	1.2	2.3	82.6	14.0	-	3.5
	女性:50歳代	86	84.9	9.3	2.3	3.5	80.2	14.0	2.3	3.5
	女性:60歳代	125	78.4	15.2	2.4	4.0	77.6	15.2	2.4	4.8
	女性:70歳以上	52	71.2	13.5	3.8	11.5	73.1	15.4	1.9	9.6
	男性:10・20歳代	30	80.0	6.7	10.0	3.3	86.7	3.3	6.7	3.3
	男性:30歳代	35	80.0	20.0	-	-	77.1	20.0	2.9	-
	男性:40歳代	52	69.2	17.3	1.9	11.5	67.3	21.2	3.8	7.7
	男性:50歳代	59	76.3	13.6	3.4	6.8	72.9	15.3	5.1	6.8
	男性:60歳代	65	75.4	20.0	1.5	3.1	76.9	18.5	-	4.6
	男性:70歳以上	48	56.3	27.1	2.1	14.6	66.7	16.7	2.1	14.6
	回答しない・どちらでもない	8	75.0	12.5	12.5	-	87.5	12.5	-	-
	無回答	8	62.5	25.0	-	12.5	62.5	12.5	-	25.0

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

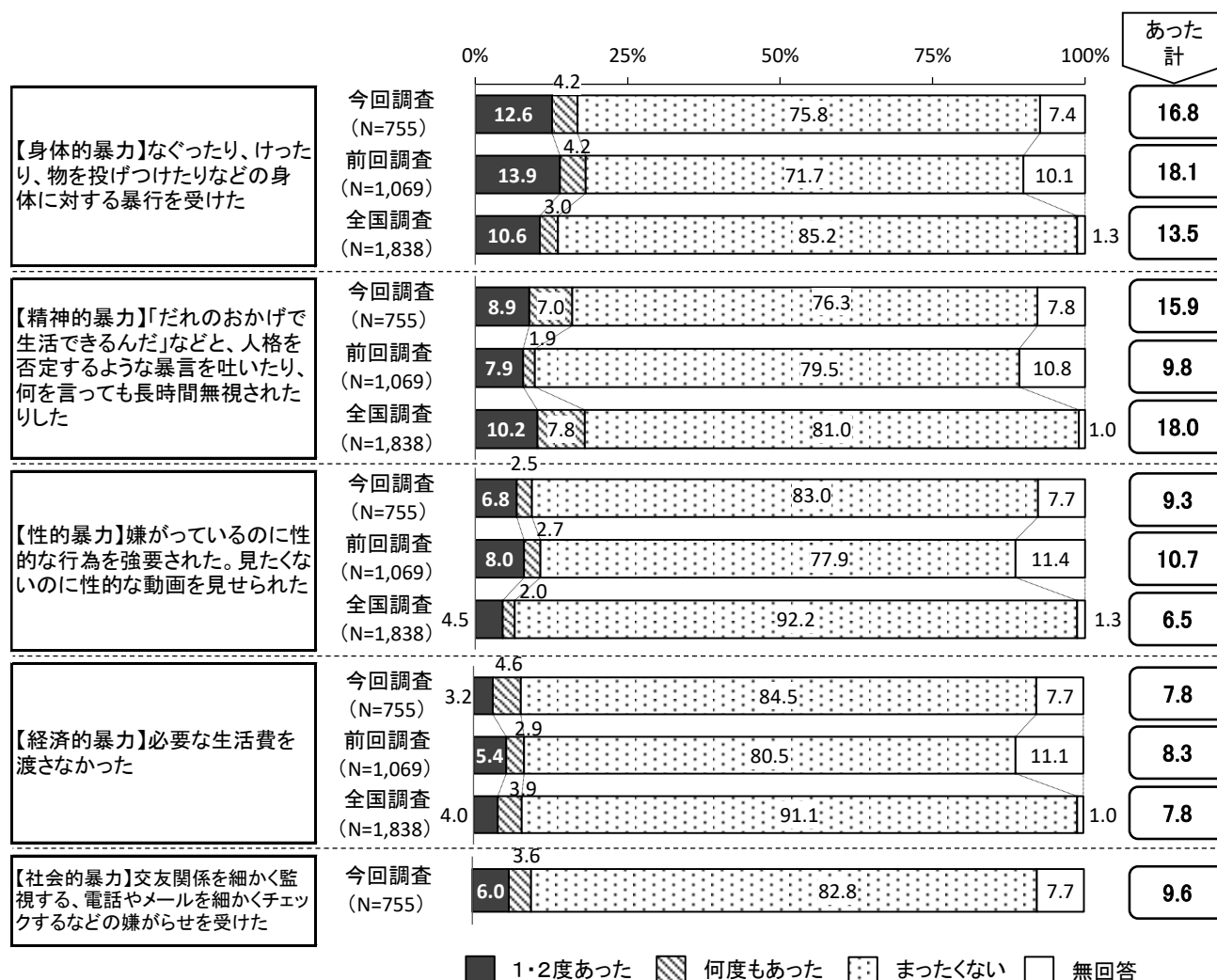
図表5-3 (3) 配偶者や交際相手の間で暴力だと認識される行為〔全体、年齢別〕

			(%)										
			標 本 数	相手がいやがっているのに性的な行為 を強要する					相手がいやがっているのに、AVなどの 性的な動画やわいせつな雑誌を見せる				
				るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いにも 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に いは あた	無 回 答		るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いにも 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に いは あた	無 回 答	
全 体			755 100.0	646 85.6	68 9.0	4 0.5	37 4.9		613 81.2	89 11.8	10 1.3	43 5.7	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	91.1	4.4	-	4.4		88.9	6.7	-	4.4		
	女性:30歳代	56	96.4	3.6	-	-		98.2	1.8	-	-		
	女性:40歳代	86	89.5	8.1	-	2.3		83.7	11.6	2.3	2.3		
	女性:50歳代	86	89.5	8.1	-	2.3		88.4	8.1	-	3.5		
	女性:60歳代	125	85.6	10.4	-	4.0		83.2	11.2	-	5.6		
	女性:70歳以上	52	69.2	17.3	1.9	11.5		65.4	19.2	3.8	11.5		
	男性:10・20歳代	30	90.0	3.3	3.3	3.3		80.0	10.0	6.7	3.3		
	男性:30歳代	35	97.1	2.9	-	-		91.4	8.6	-	-		
	男性:40歳代	52	82.7	11.5	-	5.8		75.0	15.4	-	9.6		
	男性:50歳代	59	79.7	10.2	3.4	6.8		78.0	11.9	3.4	6.8		
	男性:60歳代	65	87.7	9.2	-	3.1		76.9	20.0	-	3.1		
	男性:70歳以上	48	68.8	14.6	-	16.7		60.4	18.8	2.1	18.8		
	回答しない・どちらでもない 無回答	8 8	87.5 75.0	12.5 -	- -	- 25.0		75.0 75.0	12.5 -	12.5 -	- 25.0		
			標 本 数	避妊に協力しない					中絶を強要する				
				るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いにも 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に いは あた	無 回 答		るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いにも 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に いは あた	無 回 答	
全 体			755 100.0	578 76.6	119 15.8	14 1.9	44 5.8		604 80.0	98 13.0	7 0.9	46 6.1	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	88.9	6.7	-	4.4		86.7	8.9	-	4.4		
	女性:30歳代	56	96.4	3.6	-	-		92.9	7.1	-	-		
	女性:40歳代	86	80.2	15.1	2.3	2.3		81.4	15.1	1.2	2.3		
	女性:50歳代	86	84.9	11.6	-	3.5		89.5	7.0	-	3.5		
	女性:60歳代	125	75.2	17.6	1.6	5.6		81.6	12.8	-	5.6		
	女性:70歳以上	52	61.5	21.2	5.8	11.5		76.9	5.8	5.8	11.5		
	男性:10・20歳代	30	73.3	16.7	6.7	3.3		70.0	23.3	3.3	3.3		
	男性:30歳代	35	85.7	14.3	-	-		88.6	11.4	-	-		
	男性:40歳代	52	78.8	11.5	-	9.6		73.1	15.4	-	11.5		
	男性:50歳代	59	74.6	15.3	3.4	6.8		84.7	8.5	-	6.8		
	男性:60歳代	65	67.7	27.7	-	4.6		66.2	26.2	1.5	6.2		
	男性:70歳以上	48	52.1	25.0	4.2	18.8		60.4	18.8	2.1	18.8		
	回答しない・どちらでもない 無回答	8 8	75.0 50.0	12.5 25.0	12.5 -	- 25.0		87.5 62.5	12.5 12.5	- -	- 25.0		
			標 本 数	生活費を渡さない					相手の交友関係や電話、電子メールなど をチェックする				
				るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いにも 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に いは あた	無 回 答		るもど 暴ん 力な に場 あ合 たで	あで場暴 るな合力 いにも 場、あ 合そた もうる	ら暴 力に いは あた	無 回 答	
全 体			755 100.0	560 74.2	132 17.5	27 3.6	36 4.8		431 57.1	247 32.7	36 4.8	41 5.4	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	68.9	22.2	4.4	4.4		44.4	44.4	6.7	4.4		
	女性:30歳代	56	85.7	12.5	1.8	-		58.9	37.5	3.6	-		
	女性:40歳代	86	82.6	11.6	3.5	2.3		62.8	29.1	5.8	2.3		
	女性:50歳代	86	80.2	15.1	2.3	2.3		61.6	31.4	3.5	3.5		
	女性:60歳代	125	80.0	12.8	4.0	3.2		68.0	23.2	4.8	4.0		
	女性:70歳以上	52	67.3	17.3	5.8	9.6		53.8	26.9	7.7	11.5		
	男性:10・20歳代	30	70.0	16.7	10.0	3.3		43.3	43.3	10.0	3.3		
	男性:30歳代	35	74.3	22.9	2.9	-		62.9	34.3	2.9	-		
	男性:40歳代	52	73.1	17.3	1.9	7.7		51.9	38.5	-	9.6		
	男性:50歳代	59	72.9	18.6	1.7	6.8		50.8	39.0	3.4	6.8		
	男性:60歳代	65	67.7	24.6	3.1	4.6		56.9	33.8	4.6	4.6		
	男性:70歳以上	48	47.9	33.3	4.2	14.6		41.7	35.4	6.3	16.7		
	回答しない・どちらでもない 無回答	8 8	75.0 62.5	12.5 12.5	12.5 -	- 25.0		62.5 50.0	25.0 25.0	12.5 -	- 25.0		

2. 配偶者や交際相手からの被害経験

問 15. あなたはこれまでに、配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含む）や交際相手から次のア～オのようなことをされたことがありますか。
（それぞれに○は1つだけ）

図表 5－4 配偶者や交際相手からの被害経験〔全体〕（前回・全国調査比較）



※前回調査 【精神的暴力】あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

これまで配偶者や交際相手からのDV被害の経験があったかどうかたずねた。「1・2度あった」と「何度もあった」をあわせた『あった』の割合が高いのは「身体的暴力」で16.8%、次いで「精神的暴力」が15.9%、「社会的暴力」が9.6%、「性的暴力」が9.3%、「経済的暴力」が7.8%となっている。

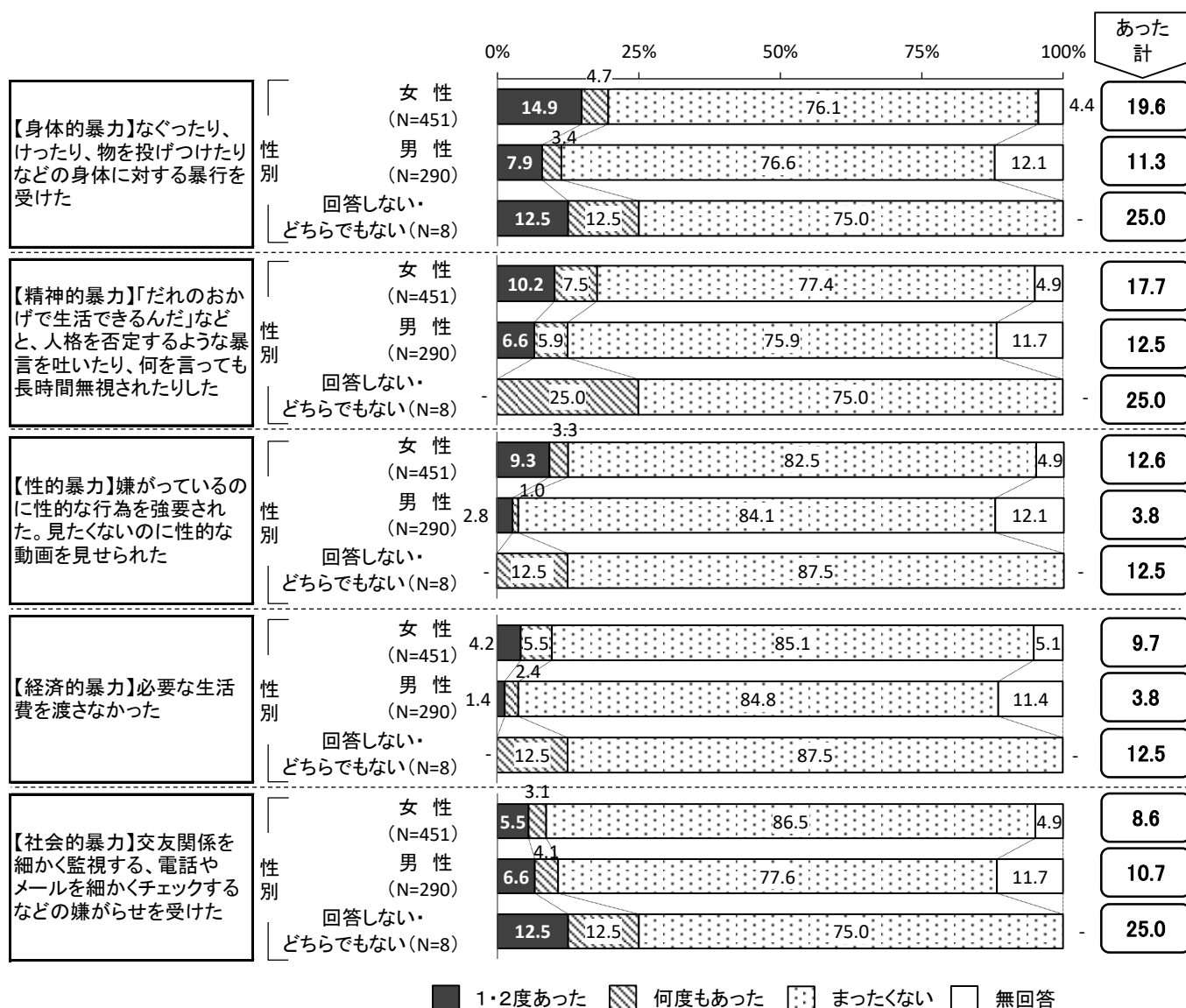
前回調査と比べると、「精神的暴力」では項目の内容が違っているためか、『あった』の割合が6.1ポイント高くなっている。

令和5年11月に実施された内閣府「男女間における暴力に関する調査」（以下、全国調査という）と比べると、「身体的暴力」「性的暴力」では今回調査の方が『あった』の割合が高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

性別にみると、「社会的暴力」は男性の『あった』が10.7%と女性（8.6%）より2.1ポイント高い。その他の「身体的暴力」（女性19.6%、男性11.3%）、「精神的暴力」（同17.7%、12.5%）、「性的暴力」（12.6%、3.8%）、「経済的暴力」（同9.7%、3.8%）は女性の『あった』が約1割から2割で男性より5.2～8.8ポイント高い。

図表5-5 配偶者や交際相手からの被害経験〔性別〕



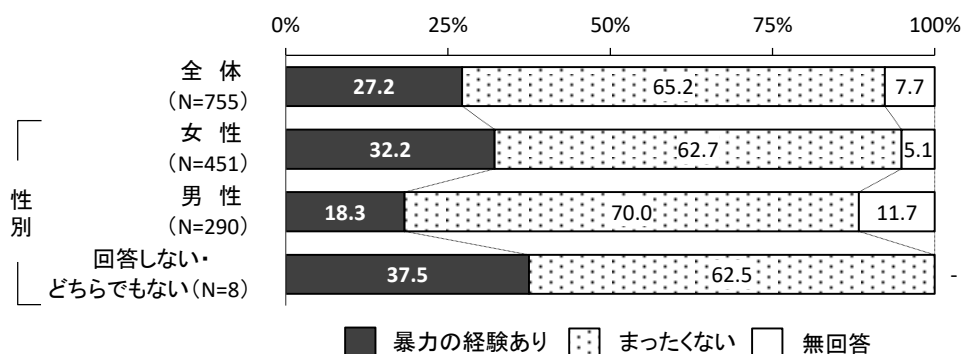
年齢別にみると、「身体的暴力」は女性の70歳以上と40歳代で2割台半ば、また50歳代と60歳代、男性の40歳代でも約2割ある。「精神的暴力」は女性の40歳代で30.3%と最も高く、また70歳以上と男性の40歳代でも2割台と高い。「性的暴力」は女性の30歳代と40歳代、60歳代で1割台半ば、「経済的暴力」は女性の30歳代と40歳代、70歳以上で1割を超えている。「社会的暴力」は男性の30歳代と40歳代で約2割、女性の30歳代と40歳代で1割台半ばと高い。

図表5-6 配偶者や交際相手からの被害経験〔全体、年齢別〕

			標 本 数	【身体的暴力】なぐったり、けったり、物を 投げつけたりなどの身体に対する暴行を 受けた					【精神的暴力】「だれのおかげで生活でき るんだ」などと、人格を否定するような暴 言を吐いたり、何を言っても長時間無視さ れたりした				
				あ 1 っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答	あ っ た 計	あ 1 っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答	あ っ た 計
全 体			755 100.0	95 12.6	32 4.2	572 75.8	56 7.4	127 16.8	67 8.9	53 7.0	576 76.3	59 7.8	120 15.9
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	6.7	-	84.4	8.9	6.7	4.4	-	86.7	8.9	4.4	
	女性:30歳代	56	10.7	5.4	82.1	1.8	16.1	5.4	7.1	83.9	3.6	12.5	
	女性:40歳代	86	17.4	7.0	74.4	1.2	24.4	16.3	14.0	68.6	1.2	30.3	
	女性:50歳代	86	12.8	5.8	76.7	4.7	18.6	9.3	5.8	77.9	7.0	15.1	
	女性:60歳代	125	19.2	0.8	74.4	5.6	20.0	9.6	7.2	77.6	5.6	16.8	
	女性:70歳以上	52	15.4	11.5	67.3	5.8	26.9	13.5	7.7	75.0	3.8	21.2	
	男性:10・20歳代	30	6.7	-	83.3	10.0	6.7	3.3	-	86.7	10.0	3.3	
	男性:30歳代	35	8.6	-	91.4	-	8.6	8.6	5.7	85.7	-	14.3	
	男性:40歳代	52	13.5	5.8	73.1	7.7	19.3	13.5	9.6	69.2	7.7	23.1	
	男性:50歳代	59	6.8	5.1	76.3	11.9	11.9	5.1	6.8	76.3	11.9	11.9	
	男性:60歳代	65	6.2	3.1	80.0	10.8	9.3	3.1	4.6	81.5	10.8	7.7	
	男性:70歳以上	48	6.3	4.2	60.4	29.2	10.5	6.3	6.3	60.4	27.1	12.6	
回答しない・どちらでもない	8	12.5	12.5	75.0	-	25.0	-	25.0	75.0	-	25.0		
無回答	8	50.0	-	37.5	12.5	50.0	25.0	-	37.5	37.5	25.0		
			標 本 数	【性的暴力】嫌がっているのに性的な行 為を強要された。見たくないのに性的な 動画を見せられた					【経済的暴力】必要な生活費を渡さなかつ た				
				あ 1 っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答	あ っ た 計	あ 1 っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答	あ っ た 計
全 体			755 100.0	51 6.8	19 2.5	627 83.0	58 7.7	70 9.3	24 3.2	35 4.6	638 84.5	58 7.7	59 7.8
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	4.4	-	86.7	8.9	4.4	2.2	-	88.9	8.9	2.2	
	女性:30歳代	56	8.9	7.1	82.1	1.8	16.0	1.8	10.7	85.7	1.8	12.5	
	女性:40歳代	86	7.0	7.0	84.9	1.2	14.0	4.7	8.1	86.0	1.2	12.8	
	女性:50歳代	86	7.0	4.7	81.4	7.0	11.7	3.5	5.8	82.6	8.1	9.3	
	女性:60歳代	125	14.4	-	79.2	6.4	14.4	6.4	2.4	85.6	5.6	8.8	
	女性:70歳以上	52	9.6	1.9	84.6	3.8	11.5	3.8	7.7	82.7	5.8	11.5	
	男性:10・20歳代	30	-	-	90.0	10.0	-	-	-	90.0	10.0	-	
	男性:30歳代	35	-	-	100.0	-	-	2.9	-	97.1	-	2.9	
	男性:40歳代	52	5.8	3.8	82.7	7.7	9.6	3.8	1.9	86.5	7.7	5.7	
	男性:50歳代	59	1.7	1.7	84.7	11.9	3.4	-	5.1	83.1	11.9	5.1	
	男性:60歳代	65	3.1	-	86.2	10.8	3.1	-	1.5	89.2	9.2	1.5	
	男性:70歳以上	48	4.2	-	66.7	29.2	4.2	2.1	4.2	66.7	27.1	6.3	
回答しない・どちらでもない	8	-	12.5	87.5	-	12.5	-	12.5	87.5	-	12.5		
無回答	8	12.5	-	75.0	12.5	12.5	12.5	25.0	37.5	25.0	37.5		
			標 本 数	【社会的暴力】交友関係を細かく監視す る、電話やメールを細かくチェックするな どの嫌がらせを受けた									
				あ 1 っ た 2 度	あ 何 っ 度 た も	な ま い っ た く	無 回 答	あ っ た 計					
全 体			755 100.0	45 6.0	27 3.6	625 82.8	58 7.7	72 9.6					
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	-	2.2	88.9	8.9	2.2						
	女性:30歳代	56	8.9	7.1	82.1	1.8	16.0						
	女性:40歳代	86	10.5	5.8	82.6	1.2	16.3						
	女性:50歳代	86	5.8	2.3	83.7	8.1	8.1						
	女性:60歳代	125	2.4	-	92.0	5.6	2.4						
	女性:70歳以上	52	5.8	3.8	86.5	3.8	9.6						
	男性:10・20歳代	30	3.3	-	86.7	10.0	3.3						
	男性:30歳代	35	14.3	2.9	82.9	-	17.2						
	男性:40歳代	52	7.7	11.5	73.1	7.7	19.2						
	男性:50歳代	59	3.4	8.5	76.3	11.9	11.9						
	男性:60歳代	65	7.7	-	81.5	10.8	7.7						
	男性:70歳以上	48	4.2	-	68.8	27.1	4.2						
回答しない・どちらでもない	8	12.5	12.5	75.0	-	25.0							
無回答	8	-	-	75.0	25.0	-							

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

図表5-7 配偶者や交際相手からの被害経験・まとめ〔全体、性別〕



「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」「社会的暴力」のいずれか一つでも暴力の経験がある人は27.2%である。

性別にみると、女性の「暴力の経験あり」は32.2%と男性の18.3%より13.9ポイント高い。

年齢別にみると、男女とも40歳代で暴力の経験が高く、女性は43.0%、男性は32.7%である。また女性は30歳代や50歳代以上でも約3割から3割台半ばと高い。

婚姻状況別にみると、「暴力の経験あり」は女性の離別で65.1%と最も高い。男女とも未婚よりも既婚・パートナーと暮らしているの方が暴力の経験は高いが、未婚でも1割台半ばが暴力を経験している。

図表5-8 配偶者や交際相手からの被害経験・まとめ〔全体、年齢別、婚姻状況別〕

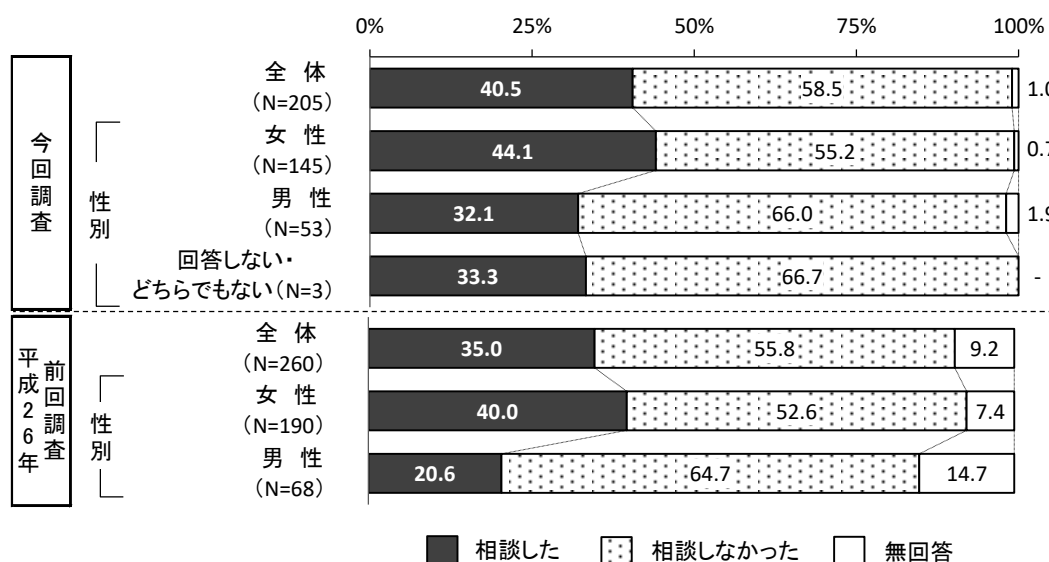
		(%)			
		標本数	暴力の経験あり	まったくない	無回答
全体		755	205	492	58
		100.0	27.2	65.2	7.7
年齢別	女性:10・20歳代	45	13.3	77.8	8.9
	女性:30歳代	56	30.4	67.9	1.8
	女性:40歳代	86	43.0	55.8	1.2
	女性:50歳代	86	29.1	65.1	5.8
	女性:60歳代	125	32.8	60.8	6.4
	女性:70歳以上	52	36.5	55.8	7.7
	男性:10・20歳代	30	6.7	83.3	10.0
	男性:30歳代	35	22.9	77.1	-
	男性:40歳代	52	32.7	59.6	7.7
	男性:50歳代	59	15.3	72.9	11.9
	男性:60歳代	65	12.3	76.9	10.8
	男性:70歳以上	48	18.8	54.2	27.1
	回答しない・どちらでもない	8	37.5	62.5	-
	無回答	8	50.0	37.5	12.5
婚姻状況別	女性:未婚	99	15.2	73.7	11.1
	女性:既婚・パートナーと暮らしている	281	32.4	65.1	2.5
	女性:離別	43	65.1	27.9	7.0
	女性:死別	28	39.3	53.6	7.1
	男性:未婚	130	14.6	67.7	17.7
	男性:既婚・パートナーと暮らしている	120	20.8	76.7	2.5
	男性:離別	32	28.1	53.1	18.8
	男性:死別	7	-	85.7	14.3
	回答しない・どちらでもない	8	37.5	62.5	-
無回答		7	57.1	14.3	28.6

3. 被害を受けた際の相談の有無

【問 15 でア～オのいずれかで「1」または「2」と答えた方に】

付問 15-1. あなたがこれまでに受けた問 15 であげたような行為について、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。(○は1つ)

図表 5－9 被害を受けた際の相談の有無〔全体、性別〕（前回調査比較）



これまでに受けた暴力について、誰かに打ち明けたり相談したりしたかたずねた。「相談した」は40.5%、「相談しなかった」は58.5%で、約6割が相談をしていない。

性別にみると、男女とも「相談しなかった」は5割台半ばから6割台半ばで「相談した」よりも高い。女性の「相談した」は44.1%、男性は32.1%と女性の方が12ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「相談した」の割合が女性で4.1ポイント、男性で11.5ポイント増えている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「相談しなかった」は男女とも60歳代と男性の40歳代で7割を超えて高い。

図表5-10 被害をうけた際の相談の有無〔全体、年齢別〕

(%)

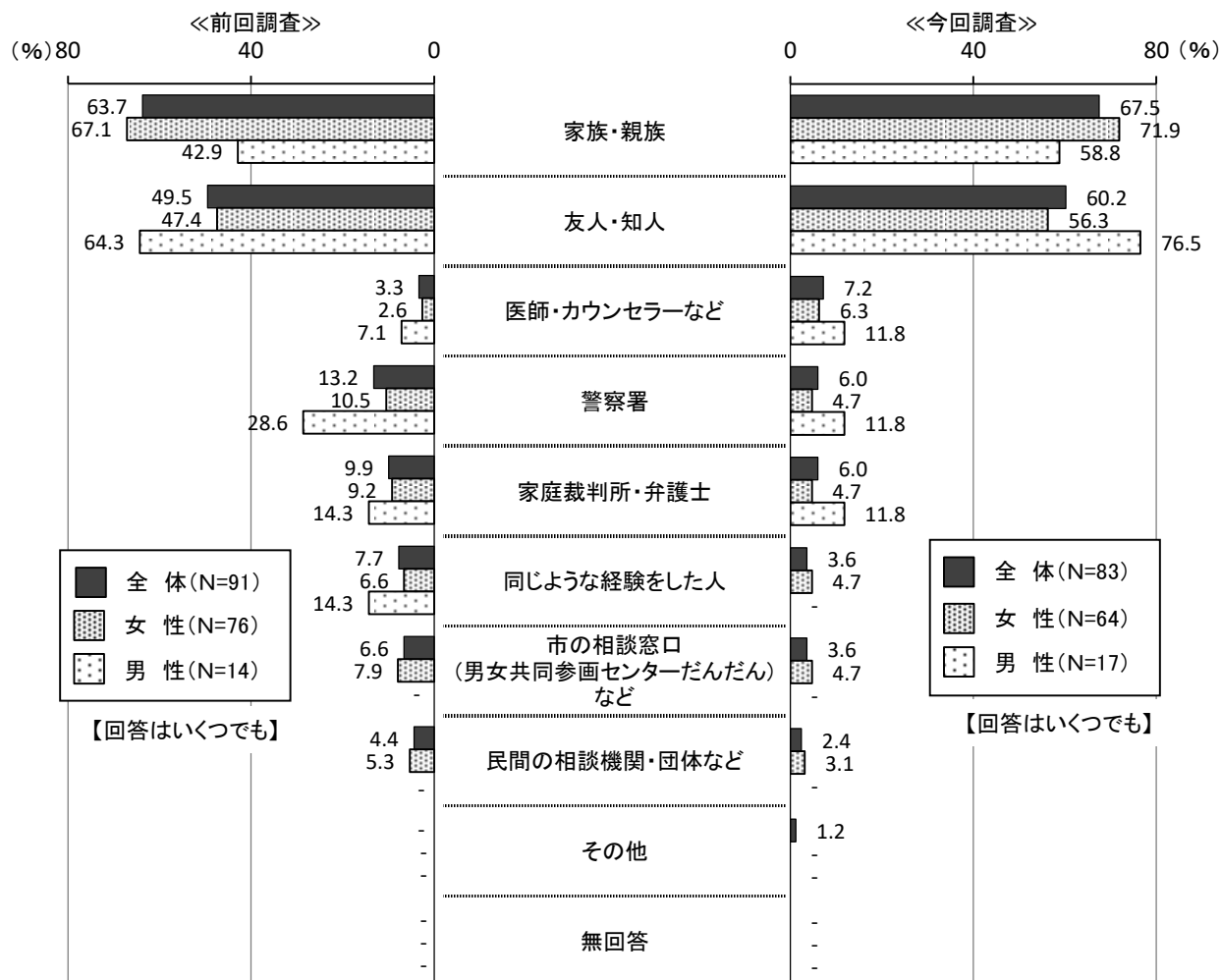
		標 本 数	相 談 し た	か 相 談 し な い	無 回 答
全 体		205 100.0	83 40.5	120 58.5	2 1.0
年 齢 別	女性:10・20歳代	6	66.7	33.3	-
	女性:30歳代	17	35.3	64.7	-
	女性:40歳代	37	45.9	54.1	-
	女性:50歳代	25	64.0	36.0	-
	女性:60歳代	41	29.3	70.7	-
	女性:70歳以上	19	47.4	47.4	5.3
	男性:10・20歳代	2	50.0	-	50.0
	男性:30歳代	8	37.5	62.5	-
	男性:40歳代	17	29.4	70.6	-
	男性:50歳代	9	33.3	66.7	-
	男性:60歳代	8	12.5	87.5	-
	男性:70歳以上	9	44.4	55.6	-
	回答しない・どちらでもない	3	33.3	66.7	-
	無回答	4	25.0	75.0	-

4. 被害を受けた際の相談先

【付問 15-1 で「1. 相談した」と答えた方に】

付問 15-2. あなたは実際に、だれに（どこに）相談しましたか。（〇はすべて）

図表 5-11 被害を受けた際の相談先〔全体、性別〕（前回調査比較）



これまでに受けた暴力について、実際に相談した先は「家族・親族」が 67.5% で最も高く、次いで「友人・知人」が 60.2% でその他の相談先は 1 割に満たず、「市の相談窓口（男女共同参画センターだんだん）など」は 3.6% と低かった。

性別にみると、女性は「家族・親族」、男性は「友人・知人」の割合が高い。また、男性では「医師・カウンセラー」「警察署」「家庭裁判所・弁護士」などが 1 割を超えている。

前回調査と比べると、男女とも「家族・親族」「友人・知人」の割合が増えている。その他割合は低いが「警察署」「家庭裁判所・弁護士」への相談が減り、「医師・カウンセラーなど」がやや増えている。

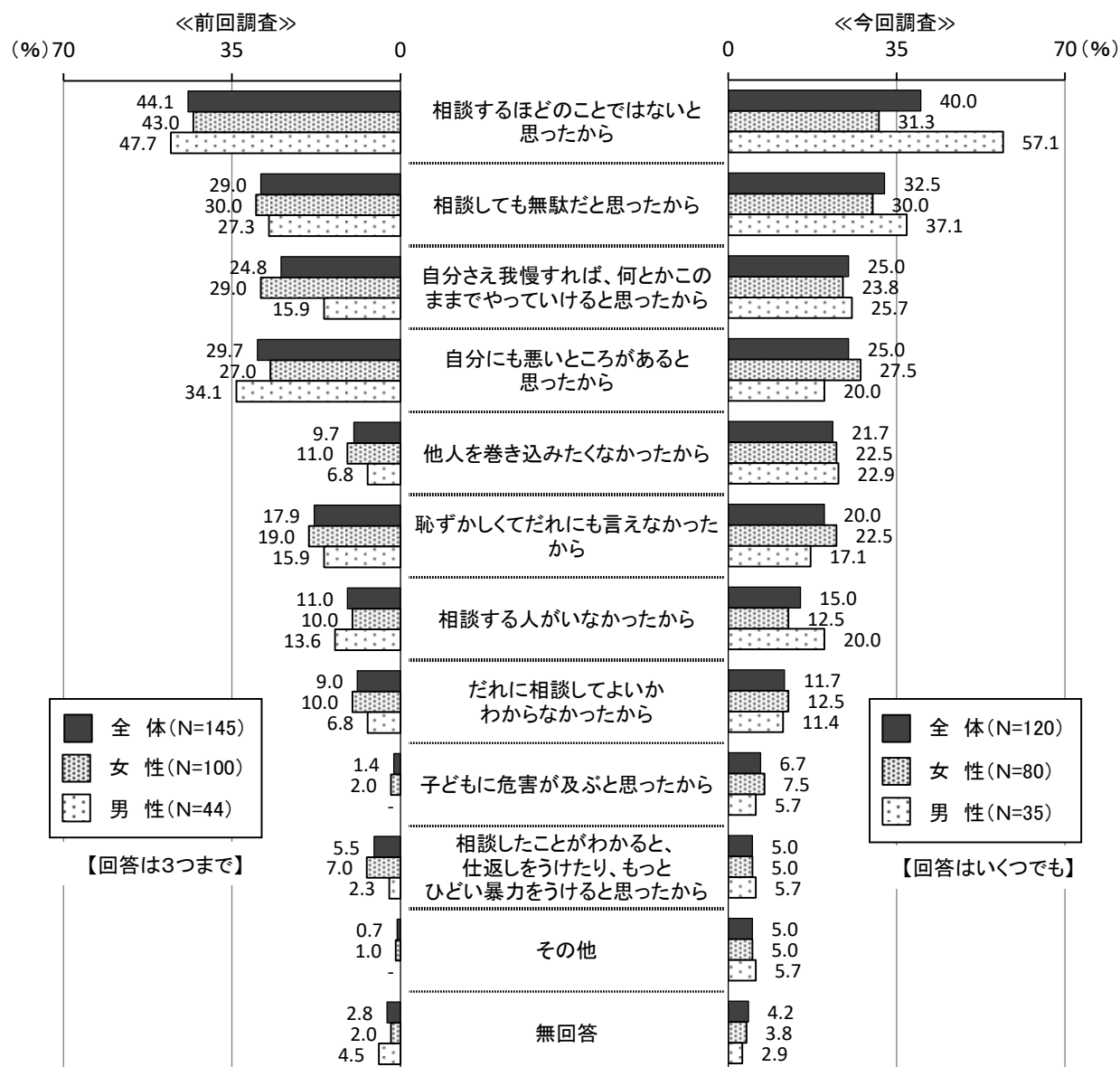
5. 被害を受けた際に相談しなかった理由

【付問 15-1 で「2. 相談しなかった」と答えた方に】

付問 15-3. あなたが、だれ（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

（〇はすべて）

図表 5-12 被害を受けた際に相談しなかった理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



暴力を受けた際に相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が40.0%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が32.5%、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が同率の25.0%となっている。

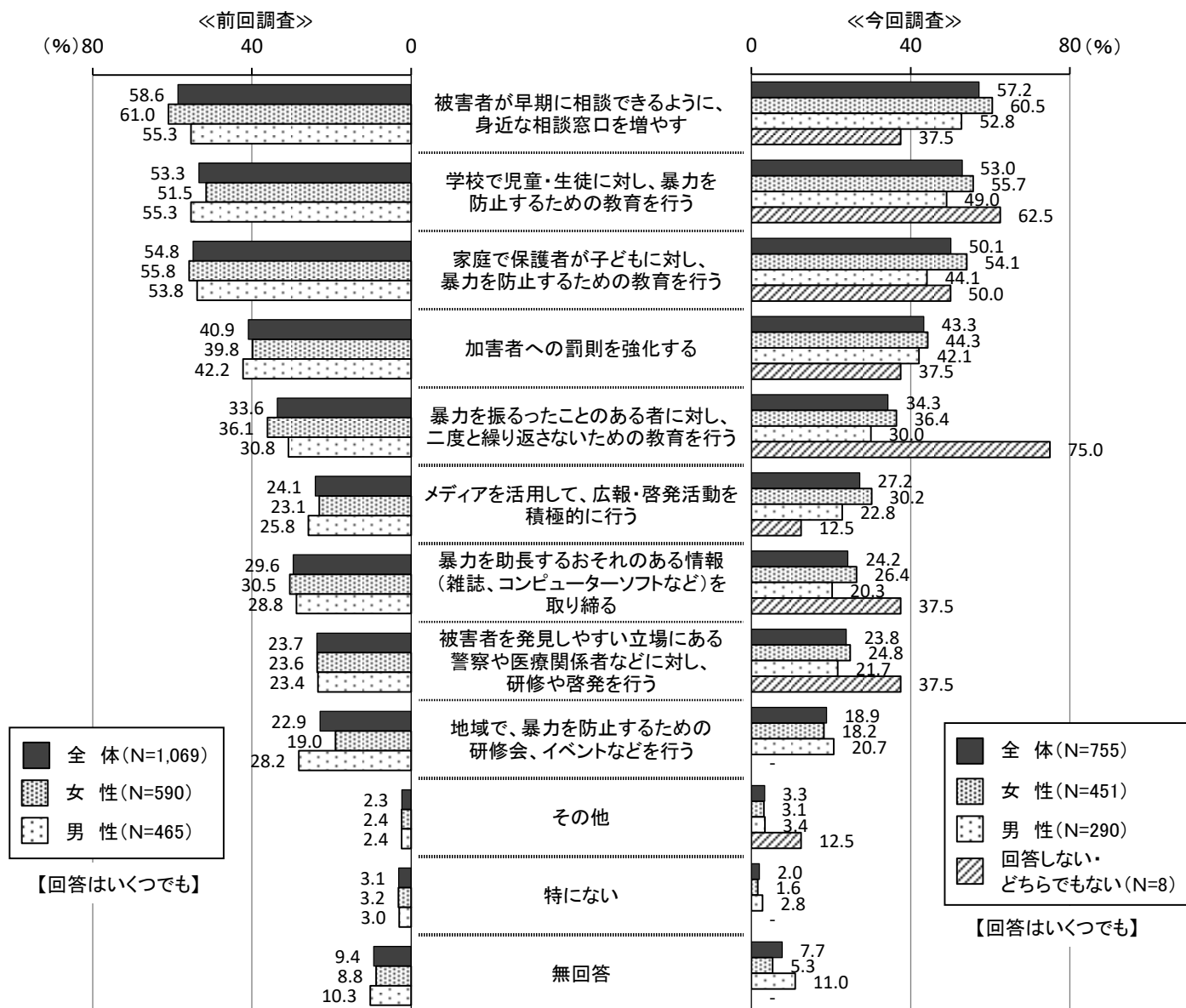
性別にみると、女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」（女性 27.5%、男性 20.0%）や「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」（同 22.5%、17.1%）などが男性より 5.4～7.5 ポイント高い。男性は「相談するほどのことではないと思ったから」（同 31.3%、57.1%）が女性を 25.8 ポイント上回り特に高い。その他「相談しても無駄だと思ったから」（同 30.0%、37.1%）、「相談する人がいなかったから」（同 12.5%、20.0%）などが女性より 7.1～7.5 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「他人を巻き込みこみたくなかったから」が 10 ポイント以上増え、その他男性で「相談するほどのことではないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」などが約 10 ポイント増えている。

6. 暴力を防止する方法

問16. 男女間における暴力を防止するために必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はすべて)

図表5-13 暴力を防止する方法〔全体、性別〕(前回調査比較)



男女間における暴力を防止するために必要なことは、「被害者が早期に相談できるように、身近な相談窓口を増やす」が57.2%で最も高く、次いで「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」が53.0%、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が50.1%であげられている。

性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が割合は高く、特に「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(女性54.1%、男性44.1%)で10ポイント、「被害者が早期に相談できるように、身近な相談窓口を増やす」(同60.5%、52.8%)、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」(同30.2%、22.8%)などで約7ポイント男性より高い。

前回調査と比べると、男性は割合が減っている項目が多く、特に「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」は9.7ポイント、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締る」が8.5ポイント減っている。女性は「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」が7.1ポイント増えているが、その他の項目ではあまり大きな差はみられない。

年齢別にみると、女性の30歳代で「被害者が早期に相談できるように、身近な相談窓口を増やす」が71.4%、「加害者への罰則を強化する」が62.5%と高いのが目立つ。その他「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」は女性の40歳代で62.8%と高い。

図表5-14 暴力を防止する方法〔全体、年齢別〕

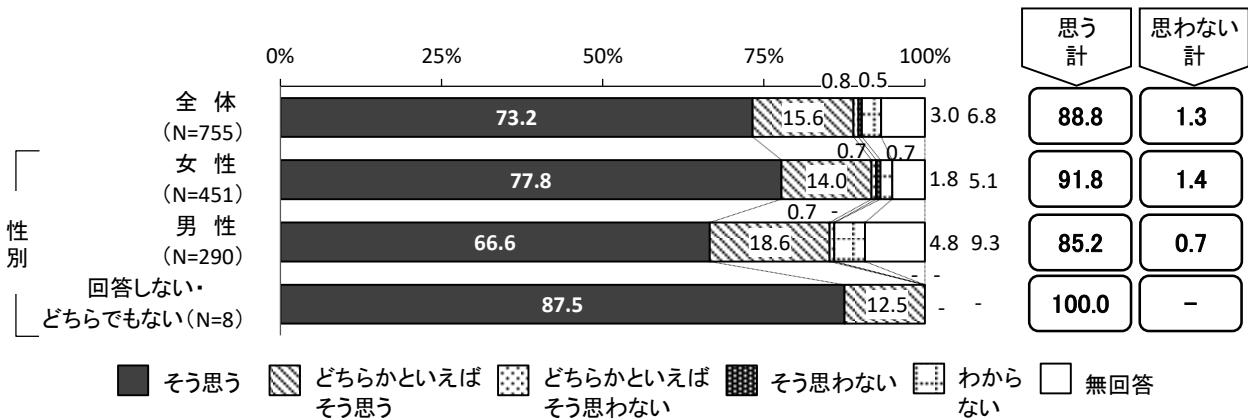
															(%)			
		標本数	う暴力を防止するための教育を行う、	家庭で保護者が子どもに教育を行う、	学校で児童・生徒に教育を行う、暴力	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行うの	メディアを活用して、広報・啓発活動積極的に	に、身近な相談窓口を増やす	被害者が早期に相談できるよう	被害者や医療関係者など、対	の教育を行う	暴力を振るったことのある者に	加害者への罰則を強化する	ト(雑誌、コンピュター、その他)を取り締	暴力を助長するおそれのある情	その他	特にな	無回答
全 体		755 100.0	378 50.1	400 53.0	143 18.9	205 27.2	432 57.2	180 23.8	259 34.3	327 43.3	183 24.2	25 3.3	15 2.0	58 7.7				
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	53.3	48.9	2.2	31.1	55.6	15.6	26.7	53.3	13.3	4.4	-	4.4				
	女性:30歳代	56	51.8	58.9	14.3	26.8	71.4	37.5	41.1	62.5	19.6	7.1	-	-				
	女性:40歳代	86	52.3	62.8	14.0	33.7	50.0	24.4	39.5	54.7	24.4	7.0	1.2	1.2				
	女性:50歳代	86	58.1	55.8	22.1	34.9	66.3	23.3	41.9	50.0	29.1	1.2	3.5	5.8				
	女性:60歳代	125	56.0	53.6	24.0	30.4	63.2	24.8	33.6	27.2	32.8	0.8	1.6	7.2				
	女性:70歳以上	52	50.0	51.9	23.1	19.2	53.8	23.1	32.7	32.7	28.8	-	1.9	13.5				
	男性:10・20歳代	30	36.7	43.3	6.7	30.0	56.7	20.0	23.3	50.0	6.7	3.3	3.3	6.7				
	男性:30歳代	35	45.7	51.4	28.6	31.4	57.1	25.7	34.3	51.4	17.1	5.7	2.9	5.7				
	男性:40歳代	52	42.3	51.9	11.5	13.5	48.1	21.2	28.8	55.8	23.1	1.9	-	9.6				
	男性:50歳代	59	47.5	49.2	28.8	28.8	57.6	27.1	35.6	42.4	20.3	5.1	1.7	11.9				
	男性:60歳代	65	47.7	47.7	33.8	20.0	56.9	23.1	29.2	33.8	29.2	3.1	4.6	10.8				
	男性:70歳以上	48	41.7	47.9	6.3	18.8	41.7	12.5	25.0	27.1	16.7	2.1	4.2	18.8				
回答しない・どちらでもない		8	50.0	62.5	-	12.5	37.5	37.5	75.0	37.5	37.5	12.5	-	-				
無回答		8	25.0	37.5	12.5	25.0	50.0	25.0	37.5	25.0	25.0	-	-	25.0				

7. 妊娠や性に関する考えについて

問17. 次のア、イの考え方について、それぞれにあなたの考えに最も近いものを選んでください。(それぞれに○は1つだけ)

(ア) 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである

図表5-15 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである
[全体、性別]



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである」という考え方に対して、「そう思う」が73.2%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(15.6%)をあわせた『思う』は88.8%となっている。

性別にみると、『思う』は女性が91.8%、男性が85.2%と8割を超えて高いが、その内訳をみると「そう思う」は女性が77.8%、男性が66.6%と女性の方が11.2ポイント高い。

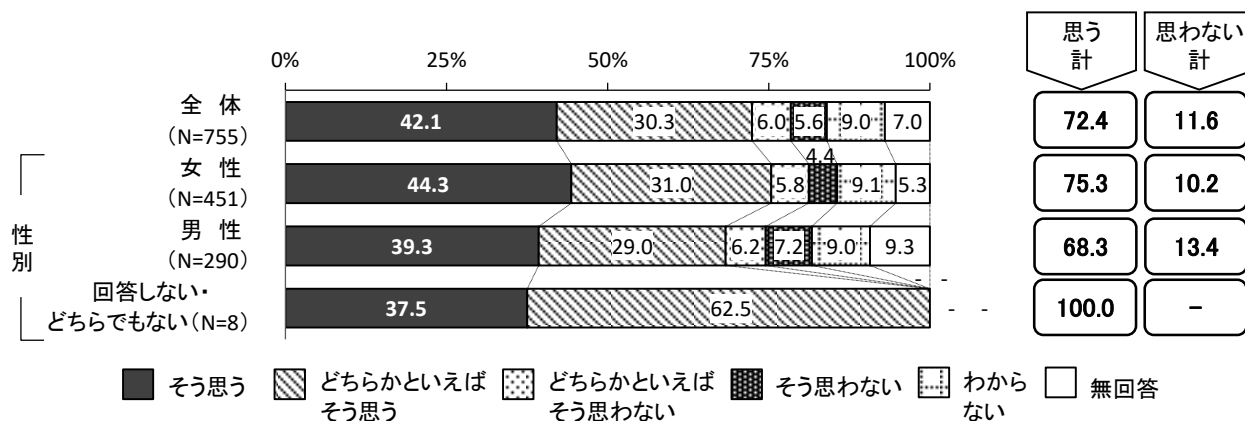
年齢別にみると、女性の30歳代で『思う』が100%、その前後の年代でも9割台半ばと高い。男性では30歳代で91.4%と唯一9割を超えている。

図表5-16 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである
[全体、年齢別]

		(%)								
		標 本 数	そ う 思 う	思 い え ば そ う と	思 い え ば そ う と	い そ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	思 う 計	思 わ な い 計
全 体		755 100.0	553 73.2	118 15.6	6 0.8	4 0.5	23 3.0	51 6.8	671 88.8	10 1.3
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	88.9	4.4	-	-	-	6.7	93.3	-
	女性:30歳代	56	91.1	8.9	-	-	-	-	100.0	-
	女性:40歳代	86	84.9	11.6	-	1.2	-	2.3	96.5	1.2
	女性:50歳代	86	69.8	22.1	1.2	-	3.5	3.5	91.9	1.2
	女性:60歳代	125	73.6	14.4	1.6	1.6	2.4	6.4	88.0	3.2
	女性:70歳以上	52	67.3	15.4	-	-	3.8	13.5	82.7	-
	男性:10・20歳代	30	80.0	6.7	-	-	6.7	6.7	86.7	-
	男性:30歳代	35	74.3	17.1	-	-	-	8.6	91.4	-
	男性:40歳代	52	67.3	21.2	-	-	3.8	7.7	88.5	-
	男性:50歳代	59	61.0	22.0	-	-	6.8	10.2	83.0	-
	男性:60歳代	65	70.8	16.9	3.1	-	3.1	6.2	87.7	3.1
	男性:70歳以上	48	52.1	22.9	-	-	8.3	16.7	75.0	-
	回答しない・どちらでもない	8	87.5	12.5	-	-	-	-	100.0	-
無回答	8	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	50.0	25.0	

(イ) 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである

図表5-17 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである [全体、性別]



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである」という考え方に対して、「そう思う」が42.1%、「どちらかといえばそう思う」が30.3%でこれらをあわせた『思う』は72.4%と、「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人との間で十分話し合うべきである」という考え方より割合が16.4ポイント低い。「そう思わない」は5.6%、「どちらかといえばそう思わない」は6.0%でこれらをあわせた『思わない』は11.6%である。

性別にみると、女性の『思う』は75.3%、男性は68.3%と女性の方が7ポイント高い。
年齢別にみると、女性の30歳代で『思う』が85.7%と最も高い。

図表5-18 妊娠や性に関して、配偶者・パートナー・恋人と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである [全体、年齢別]

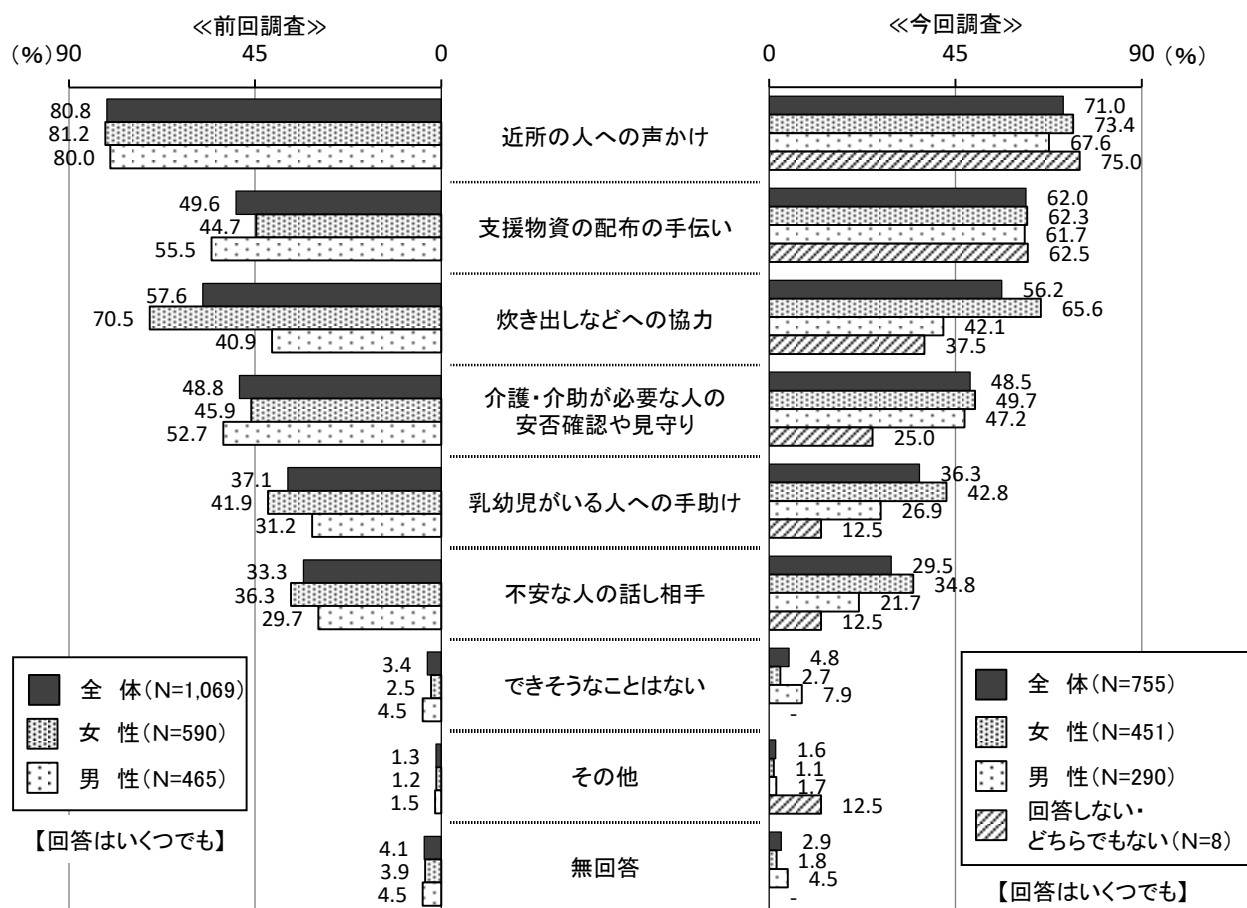
		(%)								
		標 本 数	そ う 思 う	思 い ど え ち ら か う と	思 い ど わ え ち ら か う と	い そ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	思 う 計	思 わ な い 計
全 体		755 100.0	318 42.1	229 30.3	45 6.0	42 5.6	68 9.0	53 7.0	547 72.4	87 11.6
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	37.8	33.3	8.9	2.2	11.1	6.7	71.1	11.1
	女性:30歳代	56	48.2	37.5	7.1	5.4	1.8	-	85.7	12.5
	女性:40歳代	86	51.2	26.7	8.1	5.8	5.8	2.3	77.9	13.9
	女性:50歳代	86	37.2	41.9	3.5	4.7	10.5	2.3	79.1	8.2
	女性:60歳代	125	46.4	24.8	5.6	4.8	11.2	7.2	71.2	10.4
	女性:70歳以上	52	42.3	25.0	1.9	1.9	13.5	15.4	67.3	3.8
	男性:10・20歳代	30	43.3	20.0	10.0	13.3	6.7	6.7	63.3	23.3
	男性:30歳代	35	34.3	37.1	8.6	8.6	5.7	5.7	71.4	17.2
	男性:40歳代	52	46.2	26.9	1.9	7.7	7.7	9.6	73.1	9.6
	男性:50歳代	59	33.9	30.5	6.8	3.4	15.3	10.2	64.4	10.2
	男性:60歳代	65	44.6	29.2	6.2	4.6	9.2	6.2	73.8	10.8
	男性:70歳以上	48	33.3	29.2	6.3	8.3	6.3	16.7	62.5	14.6
	回答しない・どちらでもない	8	37.5	62.5	-	-	-	-	100.0	-
無回答	8	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0	25.0	37.5	

第6章 防災について

1. 災害が発生したときに地域の一員としてできること

問 18. 災害が発生したときに、地域の一員としてあなたができそうなことは何ですか。
(〇はすべて)

図表6-1 災害が発生したときに地域の一員としてできること〔全体、性別〕（前回調査比較）



災害は発生したときに地域の一員としてできそうなことは、「近所の人への声かけ」が 71.0% で最も高い。次いで「支援物資の配布の手伝い」が 62.0%、「炊き出しなどへの協力」が 56.2%、「介護・介助が必要な人の安否確認や見守り」が 48.5% であげられている。「できそうなことはない」は 4.8% とわずかである。

性別にみると、ほとんどの項目で女性の割合が高く、特に「炊き出しなどへの協力」(女性 65.6%、男性 42.1%) は男性より 23.5 ポイント高く、女性では第 2 位になっている。また、「乳幼児がいる人への手助け」(同 42.8%、26.9%) や「不安な人の話し相手」(同 34.8%、21.7%) でも 13.1 ～15.9 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「支援物資の配布の手伝い」が女性で 17.6 ポイント、男性で 6.2 ポイント増加し、女性の増え方の方が大きい。

年齢別にみると、「近所の人への声かけ」は女性の60歳代以上と男性の60歳代で8割を超えて高い。また「支援物資の配布の手伝い」は女性の30歳代と50歳代で、「炊き出しなどへの協力」は女性の60歳代で7割を超えて高い。「介護・介助が必要な人の安否確認や見守り」は男性の30歳代で62.9%、「乳幼児がいる人への手助け」は女性の30歳代で64.3%、「不安な人の話し相手」は女性の40歳代で43.0%と他の年齢に比べて高い。

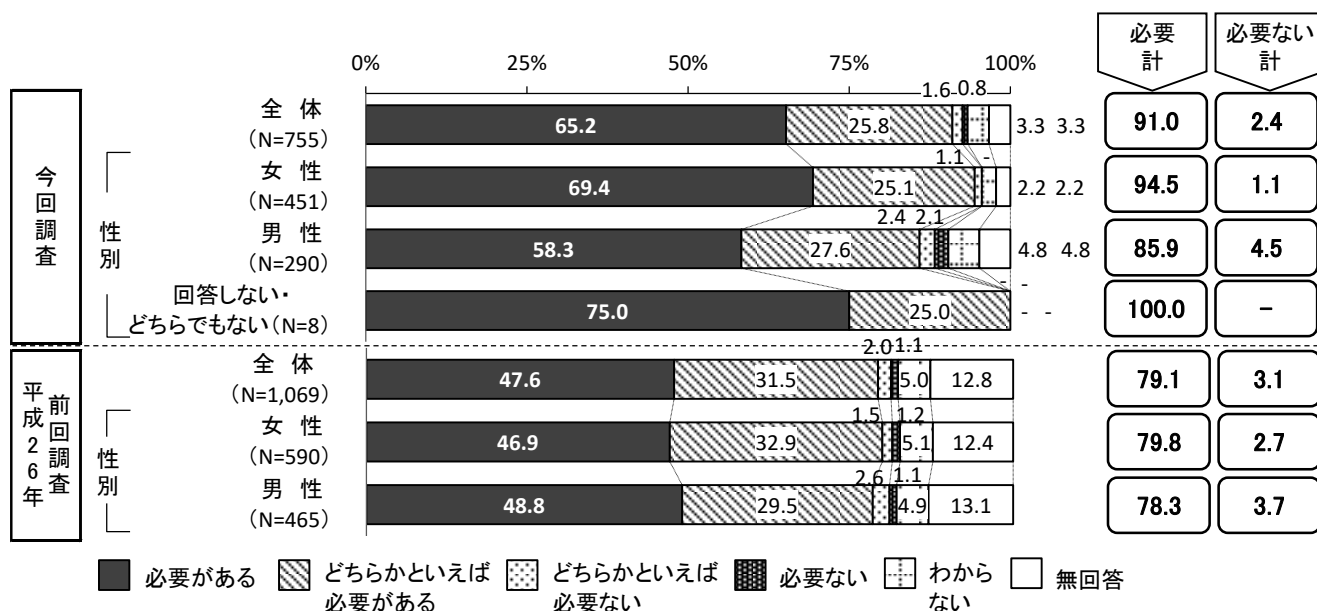
図表6-2 災害が発生したときに地域の一員としてできること〔全体、年齢別〕

				見な介の乳のけ近協炊手支手不安その他できないできそうなのは無回答	(%)						
		標 本 数	守人の護・介助が り安の否必要 確認や要	手幼児が 助ける人へ	所の人への 声か	力き出し などへの	伝援物資の 配布の	不安な人の 話し相	その他	できない ようなことは	無 回 答
全 体		755 100.0	366 48.5	274 36.3	536 71.0	424 56.2	468 62.0	223 29.5	12 1.6	36 4.8	22 2.9
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	35.6	24.4	48.9	46.7	51.1	35.6	-	2.2	4.4
	女性:30歳代	56	41.1	64.3	58.9	66.1	73.2	21.4	-	3.6	-
	女性:40歳代	86	58.1	55.8	66.3	66.3	69.8	43.0	4.7	3.5	-
	女性:50歳代	86	52.3	41.9	75.6	66.3	74.4	36.0	1.2	1.2	1.2
	女性:60歳代	125	49.6	40.8	85.6	73.6	57.6	35.2	-	2.4	3.2
	女性:70歳以上	52	53.8	21.2	88.5	59.6	38.5	32.7	-	3.8	1.9
	男性:10・20歳代	30	36.7	26.7	43.3	50.0	63.3	16.7	3.3	13.3	3.3
	男性:30歳代	35	62.9	48.6	68.6	54.3	60.0	34.3	5.7	2.9	2.9
	男性:40歳代	52	42.3	30.8	69.2	44.2	57.7	26.9	-	9.6	1.9
	男性:50歳代	59	42.4	27.1	64.4	45.8	69.5	20.3	1.7	8.5	5.1
	男性:60歳代	65	56.9	24.6	81.5	44.6	67.7	18.5	-	4.6	3.1
	男性:70歳以上	48	41.7	10.4	64.6	16.7	50.0	16.7	2.1	10.4	10.4
	回答しない・どちらでもない	8	25.0	12.5	75.0	37.5	62.5	12.5	12.5	-	-
	無回答	8	37.5	25.0	62.5	62.5	50.0	25.0	12.5	12.5	12.5

2. 性別に配慮した防災・復興対策の必要性

問19. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。
(〇は1つ)

図表6-3 性別に配慮した防災・復興対策の必要性〔全体、性別〕(前回調査比較)



防災・災害復興対策で性別に配慮した対応が必要かどうかについて、「必要がある」が65.2%、「どちらかといえば必要がある」が25.8%でこれらをあわせた『必要』は91.0%である。

性別にみると、女性の「必要がある」は69.4%と男性の58.3%より11.1ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「必要がある」が女性で22.5ポイント、男性で9.5ポイント増加し、女性の増え方の方が大きい。

年齢別にみると、「必要がある」は男女とも年齢が低い層で割合は高い傾向がみられる。

図表6-4 性別に配慮した防災・復興対策の必要性〔全体、年齢別〕

		標本数	必要がある	がいどあえちるばら必要と	ないどいえちるばら必要と	必要ない	わからない	無回答	必要計	必要ない計
全体		755	492	195	12	6	25	25	687	18
		100.0	65.2	25.8	1.6	0.8	3.3	3.3	91.0	2.4
年齢別	女性:10・20歳代	45	73.3	20.0	-	-	2.2	4.4	93.3	-
	女性:30歳代	56	82.1	16.1	1.8	-	-	-	98.2	1.8
	女性:40歳代	86	84.9	14.0	-	-	1.2	-	98.9	-
	女性:50歳代	86	69.8	25.6	2.3	-	2.3	-	95.4	2.3
	女性:60歳代	125	65.6	28.0	-	-	3.2	3.2	93.6	-
	女性:70歳以上	52	36.5	48.1	3.8	-	3.8	7.7	84.6	3.8
	男性:10・20歳代	30	70.0	10.0	3.3	3.3	10.0	3.3	80.0	6.6
	男性:30歳代	35	71.4	22.9	-	2.9	-	2.9	94.3	2.9
	男性:40歳代	52	65.4	28.8	-	1.9	3.8	-	94.2	1.9
	男性:50歳代	59	62.7	28.8	-	1.7	3.4	3.4	91.5	1.7
	男性:60歳代	65	50.8	33.8	3.1	1.5	4.6	6.2	84.6	4.6
	男性:70歳以上	48	39.6	31.3	6.3	2.1	8.3	12.5	70.9	8.4
	回答しない・どちらでもない	8	75.0	25.0	-	-	-	-	100.0	-
無回答		8	50.0	12.5	12.5	-	12.5	12.5	62.5	12.5

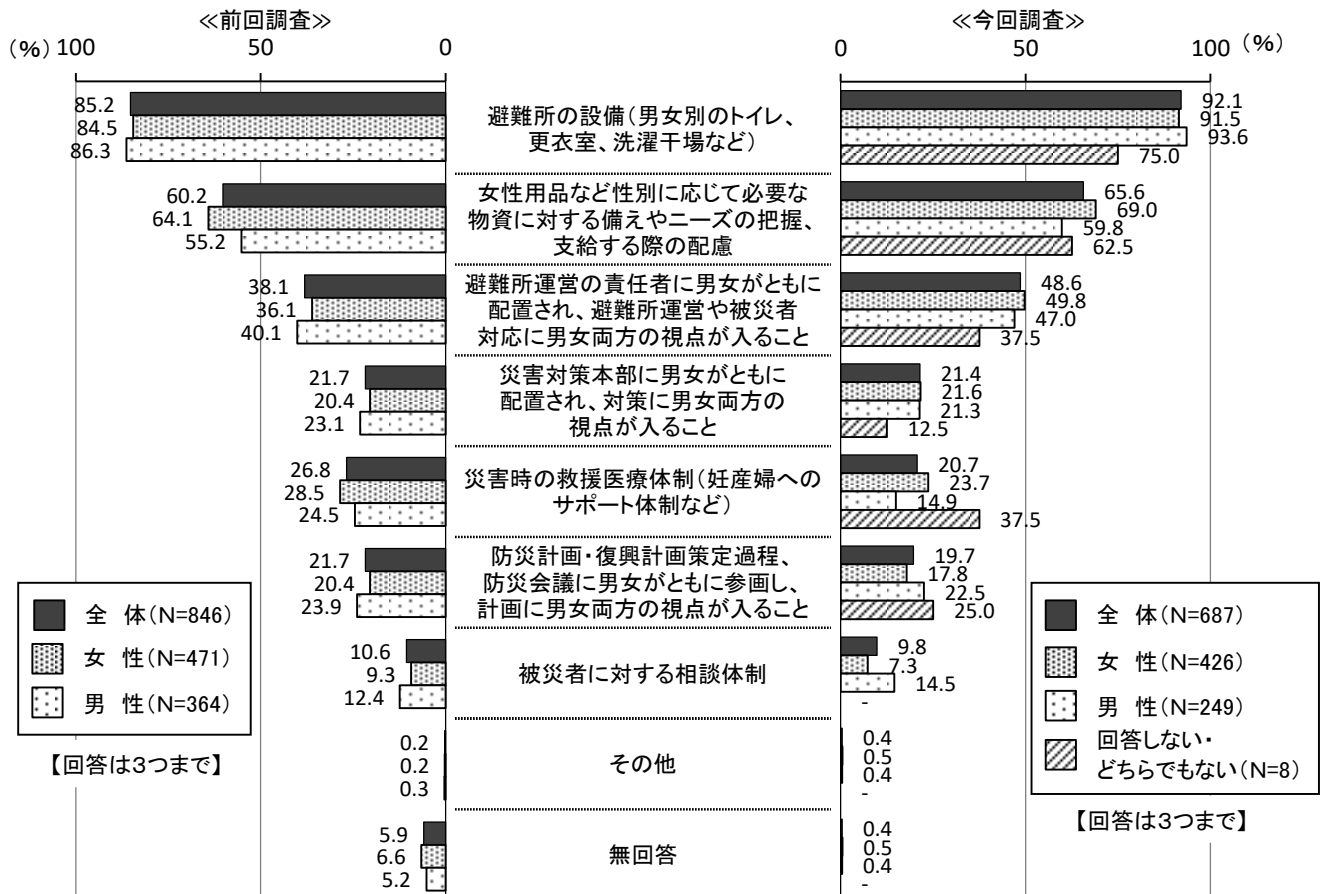
3. 防災・復興対策において、性別に配慮した対応が必要なこと

【問19で「1.」または「2.」と答えた方に】

付問 19-1. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか。（〇は3つまで）

図表6-5 防災・復興対策において、性別に配慮した対応が必要なこと

[全体、性別]（前回調査比較）



防災・復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場など）」が 92.1%と最も高い。次いで「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が 65.6%、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が 48.6%であげられている。

性別にみると、女性は「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」（女性 69.0%、男性 59.8%）や「災害時の救援医療体制（妊産婦へのサポート体制など）」（同 23.7%、14.9%）などが男性より 8.8～9.2 ポイント高い。

前回調査と比べると、上位3位にあげられている項目について、男女とも前回調査より割合が 4.6～13.7 ポイント高くなっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

年齢別にみると、「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は女性の30歳代以下で8割から8割台半ば、「災害時の救援医療体制(妊産婦へのサポート体制など)」は女性の30歳代以下で約3割、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」は男性の10・20歳代と女性の30歳代から50歳代で5割台半ばから約6割と他の年齢に比べて割合が高い。「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること」や「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること」などは男女とも年齢の高い層で割合が高い傾向がみられる。

図表6-6 防災・復興対策において、性別に配慮した対応が必要なこと〔全体、年齢別〕

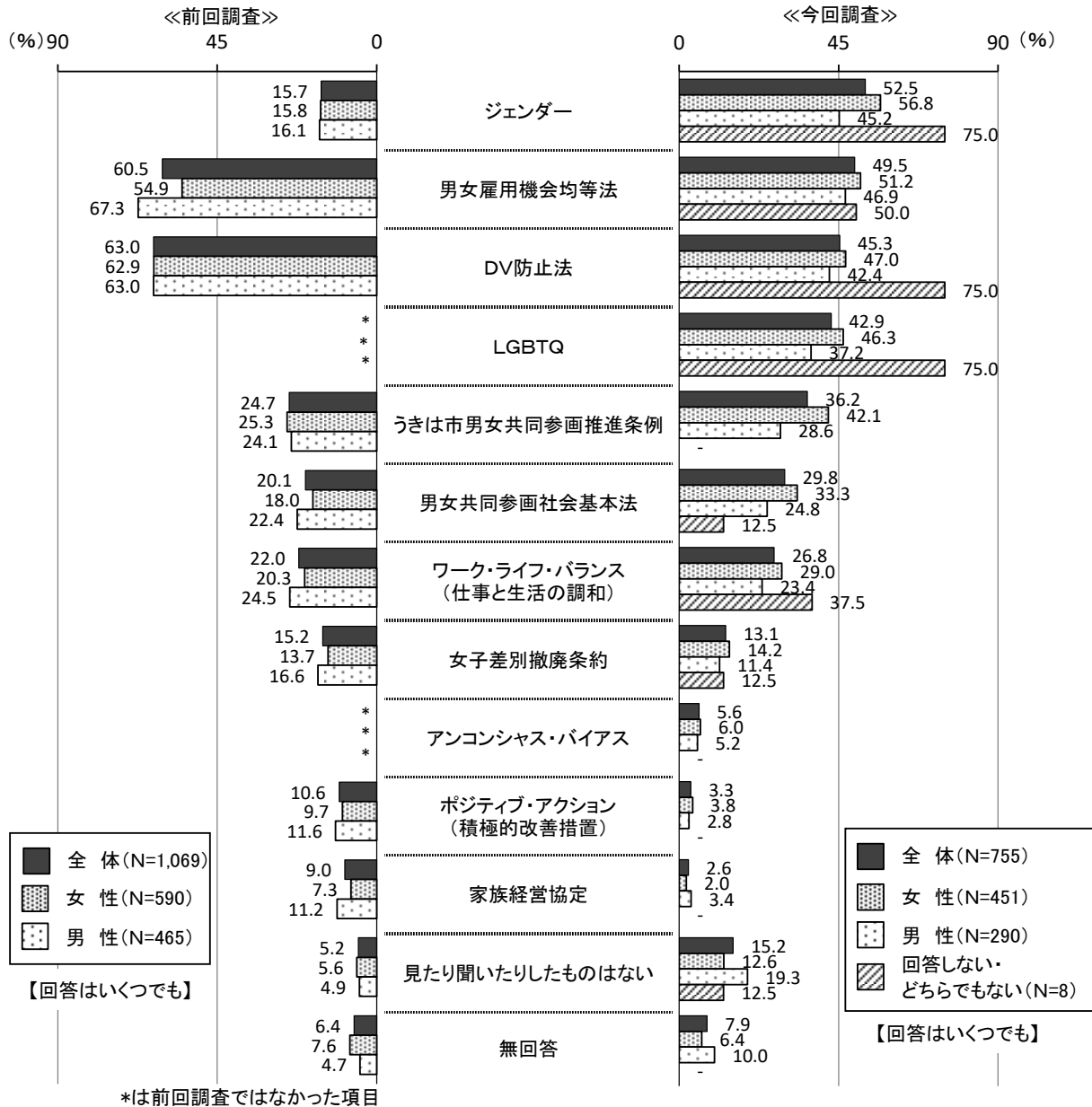
		(%)								
		標本数	避難所・更衣室の洗濯設備(男女別トイレ、)	避難所運営の責任者(男女がともに)	避難所に設置する物資の配給(女性用品など性別に必要)	災害時の救援医療体制(妊産婦へのサポート)	被災者に対する相談体制	災害対策本部に男女両方の視点が入ること	防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女両方の視点が入ること	無回答
全 体		687 100.0	633 92.1	334 48.6	451 65.6	142 20.7	67 9.8	147 21.4	135 19.7	3 0.4
年 齢 別	女性:10・20歳代	42	83.3	42.9	85.7	28.6	-	21.4	9.5	-
	女性:30歳代	55	89.1	56.4	80.0	29.1	3.6	18.2	9.1	-
	女性:40歳代	85	91.8	54.1	72.9	20.0	5.9	16.5	16.5	2.4
	女性:50歳代	82	96.3	54.9	72.0	23.2	4.9	19.5	12.2	-
	女性:60歳代	117	94.0	44.4	60.7	23.9	9.4	27.4	23.9	0.9
	女性:70歳以上	44	86.4	45.5	47.7	20.5	18.2	25.0	34.1	-
	男性:10・20歳代	24	91.7	58.3	75.0	12.5	20.8	-	4.2	-
	男性:30歳代	33	93.9	51.5	60.6	12.1	9.1	12.1	21.2	3.0
	男性:40歳代	49	91.8	32.7	71.4	16.3	18.4	24.5	24.5	-
	男性:50歳代	54	94.4	51.9	53.7	14.8	11.1	24.1	20.4	2.0
	男性:60歳代	55	96.4	49.1	65.5	12.7	14.5	23.6	27.3	-
	男性:70歳以上	34	91.2	44.1	32.4	20.6	14.7	32.4	29.4	-
回答しない・どちらでもない		8	75.0	37.5	62.5	37.5	-	12.5	25.0	-
無回答		5	100.0	40.0	80.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-

第7章 男女共同参画社会について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知

問 20. 次のことから、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。(〇はすべて)

図表 7-1 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知〔全体、性別〕(前回調査比較)



男女共同参画に関する法令・制度、言葉について見たり聞いたりしたものについては、「ジェンダー」が52.5%、「男女雇用機会均等法」が49.5%、「DV防止法」が45.3%、「LGBTQ」が42.9%、「うきは市男女共同参画推進条例」が36.2%となっている。「見たり聞いたりしたものはなし」は15.2%である。

性別にみると、ほとんどの項目で女性の割合が高く、特に「うきは市男女共同参画推進条例」(女性42.1%、男性28.6%)や「ジェンダー」(同56.8%、45.2%)では11.6~13.5ポイント高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

前回調査と比べると、「ジェンダー」の認知は男女とも 29.1～41 ポイントと大幅に増えている。また、女性で「うきは市男女共同参画推進条例」や「男女共同参画社会基本法」の認知が約 15 ポイント増えている。

年齢別にみると、「ジェンダー」や「L G B T Q」「男女共同参画社会基本法」「男女雇用機会均等法」「女子差別撤廃条約」などは女性の年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。また、これらについては男性の 30 歳代でも認知は高い。「DV防止法」は女性の 30 歳代と 40 歳代、男性の 60 歳代で 5 割台半ば、「うきは市男女共同参画推進条例」は女性の 70 歳以上と男性の 30 歳代で約 5 割と他の年齢に比べて高い。

図表 7-2 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知〔全体、年齢別〕

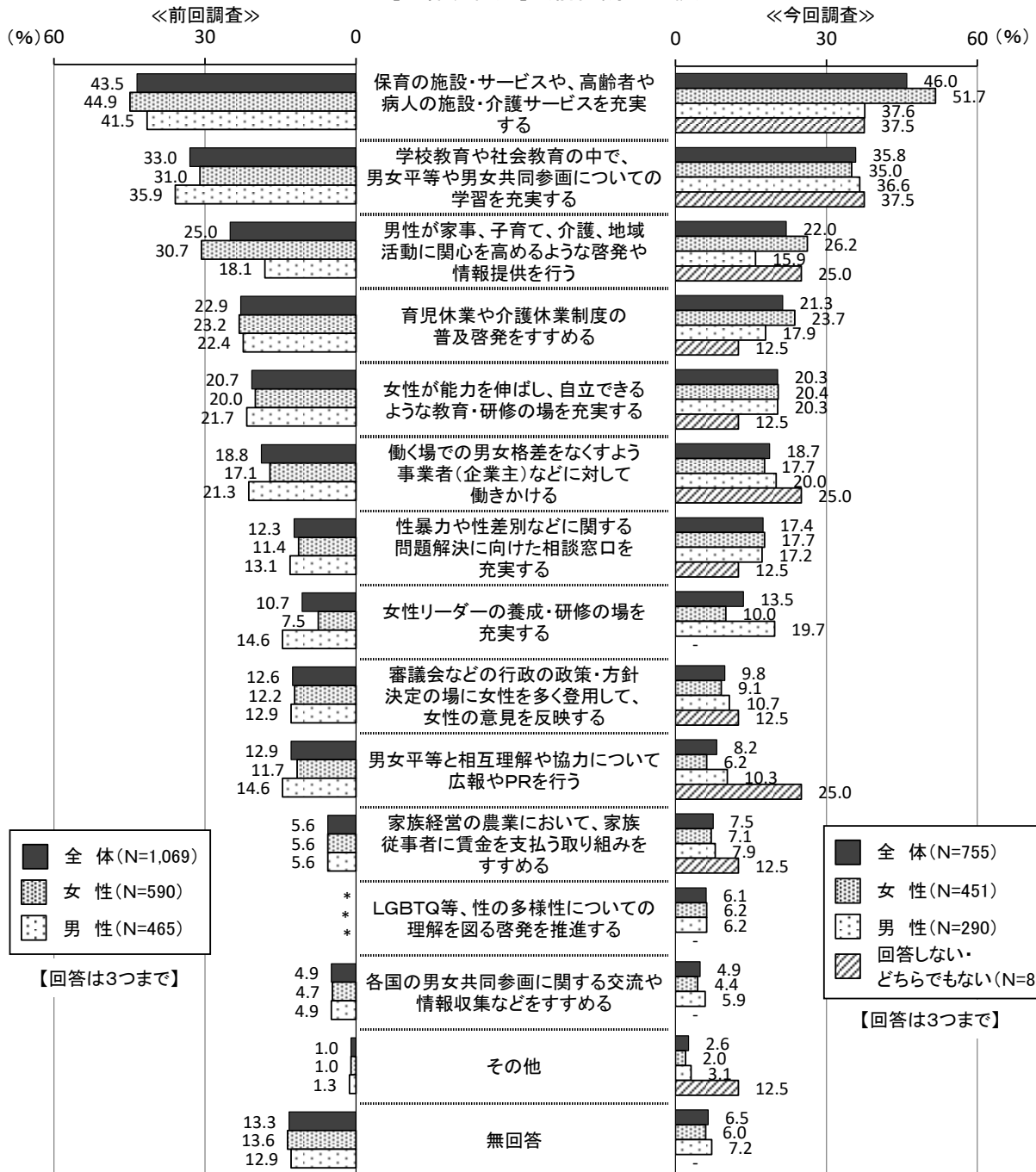
																	(%)
		標 本 数	うきは市男女 共同参画推進 条例	男女共同参 画社会基本 法	男女雇用機 会均等法	女子差別撤 廃条約	D V 防止 法	ジェンダー	善措置（シ ョン（積極 的・改	ポジティブ・ アクセシブル な生活の調 和）	ワーク・ライ フ・バランス （仕事と家 族経営協 定	L G B T Q	パンコンシ ヤス・	見たり聞 いたりし たもの はない	無 回 答		
全 体		755 100.0	273 36.2	225 29.8	374 49.5	99 13.1	342 45.3	396 52.5	25 3.3	202 26.8	20 2.6	324 42.9	42 5.6	115 15.2	60 7.9		
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	33.3	57.8	57.8	40.0	48.9	66.7	6.7	53.3	4.4	75.6	11.1	11.1	4.4		
	女性:30歳代	56	44.6	50.0	51.8	19.6	55.4	71.4	1.8	48.2	5.4	64.3	8.9	7.1	1.8		
	女性:40歳代	86	43.0	25.6	58.1	10.5	57.0	64.0	3.5	29.1	1.2	58.1	8.1	9.3	2.3		
	女性:50歳代	86	44.2	25.6	45.3	10.5	46.5	57.0	3.5	19.8	-	38.4	7.0	11.6	5.8		
	女性:60歳代	125	39.2	32.0	52.8	9.6	43.2	51.2	4.8	24.0	0.8	35.2	3.2	16.8	7.2		
	女性:70歳以上	52	50.0	23.1	40.4	9.6	30.8	34.6	1.9	15.4	3.8	23.1	-	15.4	19.2		
	男性:10・20歳代	30	26.7	33.3	23.3	6.7	20.0	40.0	6.7	30.0	6.7	46.7	10.0	33.3	6.7		
	男性:30歳代	35	48.6	45.7	54.3	20.0	40.0	57.1	5.7	31.4	5.7	60.0	5.7	17.1	5.7		
	男性:40歳代	52	11.5	15.4	46.2	7.7	42.3	53.8	1.9	28.8	1.9	40.4	9.6	21.2	13.5		
	男性:50歳代	59	18.6	13.6	49.2	8.5	47.5	33.9	-	28.8	-	28.8	3.4	22.0	11.9		
	男性:60歳代	65	36.9	29.2	53.8	12.3	53.8	46.2	-	13.8	4.6	35.4	3.1	21.5	3.1		
	男性:70歳以上	48	35.4	22.9	45.8	14.6	37.5	43.8	6.3	14.6	4.2	25.0	2.1	4.2	16.7		
	回答しない・どちらでもない	8	-	12.5	50.0	12.5	75.0	75.0	-	37.5	-	75.0	-	12.5	-		
	無回答	8	-	25.0	37.5	12.5	12.5	37.5	-	-	12.5	12.5	-	25.0	37.5		

2. 「男女共同参画社会」の形成に向けて求められる行政の役割

問 21. 「男女共同参画社会」づくりのために、今後、うきは市（行政）はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（〇は3つまで）

図表 7-3 「男女共同参画社会」の形成に向けて求められる行政の役割

〔全体、性別〕（前回調査比較）



男女共同参画社会づくりのために行政に求められていることは、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」が46.0%で最も高く、次いで「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」が35.8%、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心が高めるような啓発や情報提供を行う」が22.0%となっている。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

性別にみると、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」は女性が51.7%で男性の37.6%より14.1ポイント高い。また、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるような啓発や情報提供を行う」（女性26.2%、男性15.9%）や「育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる」（同23.7%、17.9%）などでも女性の方が5.8～10.3ポイント高い。

前回調査と比べると、女性は「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」や「性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する」などが6.3～6.8ポイント増えている。男性は「女性リーダーの養成・研修の場を充実する」が5.1ポイント増えている。

年齢別にみると、女性の30歳代と60歳代で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」が5割台半ばから約6割、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるような啓発や情報提供を行う」が約3割、男性の30歳代と70歳以上で「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」が約5割から5割台半ばと高い。その他「育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる」は女性の10・20歳代と60歳代で約3割、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・研修の場を充実する」は男性の60歳代で33.8%、「性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する」は女性の10・20歳代と30歳代、男性の10・20歳代と40歳代で2割台半ば、「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける」は男性の30歳代と40歳代、60歳代で2割台半ば、「女性リーダーの養成・研修の場を充実する」は男性の60歳代以上で2割を超えて他の年齢に比べて高い。

図表7-4 「男女共同参画社会」の形成に向けて求められる行政の役割〔全体、年齢別〕

																			(%)
		標本数	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・研修の場を充実する	女性リーダーの養成・研修の場を充実する	学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する	性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する	病人の施設・介護サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する	育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる	家族経営の農業に取組む、家族従事者に賃金を支払う取り組みをすすめる	情報収集などをすすめる	各国の男女共同参画に関する交流や情報収集などをすすめる	働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）などに対して働きかける	意見の反映を促す	審議会などの行政の政策・方針決定の場などに女性の多くを登用して、女性の参画を促進する	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるような啓発や情報提供を行う	の理解を図る啓発を推進する	広報やPRを行う	その他	無回答
全 体		755 100.0	153 20.3	102 13.5	270 35.8	131 17.4	347 46.0	161 21.3	57 7.5	37 4.9	141 18.7	141 18.7	74 9.8	166 22.0	46 6.1	62 8.2	20 2.6	49 6.5	
年 齢 別	女性:10・20歳代	45	20.0	4.4	35.6	24.4	46.7	28.9	8.9	4.4	17.8	11.1	24.4	11.1	11.1	-	4.4	2.2	
	女性:30歳代	56	23.2	12.5	25.0	26.8	55.4	23.2	5.4	3.6	16.1	3.6	32.1	7.1	7.1	1.8	1.8		
	女性:40歳代	86	19.8	11.6	40.7	16.3	43.0	27.9	8.1	7.0	18.6	14.0	22.1	9.3	4.7	4.7	4.7		
	女性:50歳代	86	18.6	11.6	33.7	16.3	52.3	16.3	7.0	5.8	20.9	9.3	26.7	5.8	5.8	1.2	3.5		
	女性:60歳代	125	20.0	7.2	36.0	16.0	60.8	29.6	6.4	2.4	15.2	8.8	28.8	4.8	9.6	-	4.0		
	女性:70歳以上	52	23.1	13.5	34.6	11.5	42.3	11.5	7.7	3.8	17.3	5.8	21.2	-	5.8	1.9	25.0		
	男性:10・20歳代	30	16.7	6.7	16.7	26.7	26.7	16.7	10.0	6.7	16.7	10.0	26.7	3.3	10.0	-	16.7		
	男性:30歳代	35	20.0	17.1	51.4	20.0	37.1	8.6	11.4	8.6	25.7	2.9	11.4	8.6	5.7	5.7	5.7		
	男性:40歳代	52	7.7	19.2	28.8	26.9	42.3	26.9	9.6	5.8	26.9	9.6	15.4	5.8	7.7	3.8	7.7		
	男性:50歳代	59	25.4	18.6	30.5	16.9	37.3	16.9	5.1	3.4	13.6	11.9	20.3	8.5	10.2	5.1	6.8		
	男性:60歳代	65	33.8	26.2	35.4	12.3	38.5	20.0	1.5	4.6	26.2	13.8	12.3	4.6	16.9	1.5	1.5		
	男性:70歳以上	48	12.5	22.9	56.3	6.3	39.6	14.6	14.6	8.3	8.3	12.5	12.5	6.3	8.3	2.1	10.4		
回答しない・どちらでもない	8	12.5	-	37.5	12.5	37.5	12.5	12.5	-	25.0	12.5	25.0	-	25.0	12.5	-			
無回答	8	12.5	-	50.0	-	37.5	12.5	12.5	-	37.5	12.5	-	-	25.0	12.5	12.5			

3. 「男女共同参画社会」推進に関する意見（自由意見）

◎うきは市における男女共同参画社会の推進に関して、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

性別	年齢	意見
女性	10 歳代	うきは市には高齢者が多く、高齢者の方への昔からの古い男尊女卑への考え方が今変わろうとしている世の中を圧迫している可能性があると考え。若い人ばかりに男女平等を語るべきでなく、高齢者の方の考えも変えていけるよう、老若男女が学んでいく必要がある。また、女性リーダーを増やすことにも意味はあると思うが、女性だからという理由で選ばれた人が必ずしも良い意見を持っているとも限らない。女性枠がそこまで必要とは思わなかった。
女性	20 歳代	男女平等ではなく、男女公平をすすめたい。平等では全く同じになる。例えば体力はどう頑張っても男性の方があり、力では勝てない。その中で平等にすると女性には不利になる。男女の違い、差は認め、公平になるような決まりを作り、男女が過ごしやすくなるようになればと思う。
女性	20 歳代	障がい者雇用。
女性	20 歳代	うきは市に限らず、男性も育休を取られるようになってきているが、育休を男性が取るというのに対して、取りづらい雰囲気がある気がするので取りやすい環境になって、育児に対しても積極的な男性が増えてくると良いのかと思う。
女性	20 歳代	女性の推進活動をするとかでなく、男だから女だからという区別をしなくていい、一人ひとりが自分らしく生きていける社会にしてほしい。誰だって得手不得手があるのだから、それを生かせる職場づくりをお願いする。
女性	20 歳代	市民に対する啓発活動の他に、企業、事業所に対して男女共同参画に関する啓発をすることが大切だと思う。意識を変えることはとてもむずかしいと思うが、積極的な働きかけを継続することで少しずつでも変化があらわれるとうれしい。
女性	30 歳代	うきは市はまだまだ男性優位な地域だと思う。頑張ってもらいたい。
女性	30 歳代	男女共同参画センターの企画をいつも楽しみにしている。男性向けや女性向け、夫婦向けなど様々に展開されているなどと思い、拝見している。市民がイベントに参加するかどうかは、企画をし、市民が視覚的にイベントみただけでも啓発や考える機会になっていると思う。参加するのも市民の選択なので、うきは市民が1回でも参加したいと思うようになったらうれしいし、イベントを知って男女、性について少しでも意識して、考えるきっかけになるようになればいいと思う。今後もイベント、行事楽しみにしている。
女性	30 歳代	介護や子育てをしている人たちが今より働きやすい職場環境で過ごせることを願っている。子育てをしている母親に職場がもっと理解をすべきだと思う。よりよい社会を作っていくためによりよくお願いします。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

女性	30 歳代	子育てや家庭生活に困っている方などの話をよく耳にします。市役所や相談センターなどにいくと家族にわかってしまうので行きづらいという方もいるので、もっと気軽に相談できる場があればと思います。また、そういう場があるのなら、もっと周知する必要があるかと思います。
女性	40 歳代	0～2歳までの保育料無償化もお願いしたいです。仕事、育児、家事はとても大変である。学び、喜び、何事にも変えられない価値もあるが、本当に大変である。
女性	40 歳代	私は男の仕事と言われる土木の仕事をしていましたが、当時はまだ女性がいなかった。しかし監督と職場の人から言われ、女性がいるとうれしいと言われたりした。女だからじゃなく、みんなができることをしていけばいいと思う。女だからと思わないでほしい。
女性	40 歳代	女性が社会で活躍するためには、職場の改善のみならず、社会へ出て行くことを可能にするための暮らしの土台を整えることが必要だと思う。家事、育児、介護などに携わるのが女性中心である以上は、まずはそこから取り組めることを検討していく必要があると思う。
女性	40 歳代	朝ドラ「虎に翼」に私もハマリ、多くの方も主人公の寅子に共感したと思う。女性の地位向上のためのモデルとなった三沢さんをはじめ、たくさんの女性たちが時代を変えてきたことに感謝すると同時に、さらにすべての人にとって幸せな差別のない社会を作っていく努力をしていく一人でありたいと思う。今回、このようなアンケートに答えるまで、今という時代について、うきは市の今についてじっくり考えることはなかった。思っていることを伝えることができる人もいれば、伝えるのが苦手な人もいて、様々な人がお互いに関わり合って今を作っている。そして時代がその人の価値観を作っていく。意見とは違うことが当然あるが、仮に違う意見と出会った際には、その人の意見が何に基づいて言っているのかを真摯に受け止める自分でありたいと思う。自分の価値観が常に正しいとは限らず、多様な意見の中に折り合いや妥協点が見いだされることが、時代に揺さぶりをかけることにつながると思う。国がすすめるからとか、法律ができたからという理由にとどまらず、全ての人がうきは市に住む人が国籍や人種、年齢、障害の有無にかかわらずとともに幸せに暮らすことができるような社会の実現を市民の一人として切に望む。前回も子育てについて同じようなアンケートの協力がきたが、あわただしさで提出期限が過ぎてしまった。今回は時間を作って答えさせてもらった。自分の価値観と向き合う良い時間となった。
女性	40 歳代	年配の方の偏見が強い。考え方も違うとを感じるので、そういった方達への教育をしてほしい。
女性	40 歳代	求人の募集を多くする。賃金を上げる。他の都市部からの会社移転をうながし、うきは市が活性化していくこと。
女性	40 歳代	男は台所へ入らない精神をまだ持ち続ける土地である間は、うきは市の企業も育休などの導入と取得は進まない。トイレ掃除を女性にだけさせている企業があるのが現状である。

女性	40 歳代	特に昭和初期の世代の人が、古い考えを持っており、新しい意見や女性の意見を自分と違う＝変わり者と判断する傾向がある。地域で高齢者の方への考え方を柔軟にするよう何かしら進めてほしい。若い人たちがその地域にとどまらないのは、昔からの出来事が多いなどもある。若い人たちがまずうきは市に住みたいと思うことが大切なので、それに向けての専門の人を育ててみてはどうか。人がいないと意味がなくなって来る。他の人が、他所の人が引っ越ししてきても住みにくいエリアだと思う。
女性	40 歳代	まずは現時点で、子育てと仕事を両立している女性に話を聞く体制を整えて欲しい。絶対的ではないが、育児しながらの社会生活は、男性が思うよりはるかに重労働。精神的にも体力的にも、とても負担になっている事を知って欲しい。申し訳ないが、子育てを終えた世代の人は、昔の大変さを忘れ、できて当たり前…の精神を押し付けがち。できれば現役子育て世代の人がリーダーになり、今困っていること、今すぐに必要な事を的確に見極め、父親であろうが、母親であろうが、安心して子育てしていける環境を整えて欲しい。
女性	40 歳代	男女それぞれの特性や個人の得意不得意があります。仕事や家庭においては、男性だから女性だから、の視点ではなく、個人の良いところを活かせるよう、性やDVにおいては男女共にお互いの特性（生理や妊娠出産、男女更年期、男女の考え方の違い等）をまず知ることが大事だと思います。学校や地域社会での教育に体験を盛り込んだ内容を組み込んで欲しいなと思います（机上の学習だけでは想像出来ない場合もあるため）
女性	50 歳代	地域には男性優先の考え方が根付いていると思われる。様々なリーダーに男女同数の配置を望む。
女性	50 歳代	インフルエンザ、コロナの予防注射は、若くても持病がある人は多いと思う。かかりつけ医の判断で負担額を決めて受けられるようにしてほしい。吉井町中町にある白壁交流広場に行く階段で、先日お年寄りの方が滑って頭にけがをし、救急車で運ばれている。石の階段で少し傾斜が急で何人もの方が転倒しており、役所に手すりをつけてほしいと電話をしているみたいである。高齢者も多い地域であるし、昔からの恵比須様もあるのでお参りが日課になっているようである。これ以上けが人が出ないためにも安全対策をよろしく願いいたします。
女性	50 歳代	うきは市において、女性が参画を拒否されるような事案があるでしょうか。よく知りません。どうしても男性でないと無理なこと、男性の参入はお断りしたいことなどの問題があるとしたらどうしても男女共同参画ばかりを声に出す勇氣はない。
女性	50 歳代	岩光区において道路愛護の参加の規約に女性が参加した場合には、罰則金を支払わなければならない。うきは市の基本的理念から逸脱しているように思う。
女性	50 歳代	うきは市でも男女共同参画社会の推進に向けて積極的な取組が進められているということが、具体性をともなって見えてこない。啓発活動は進められていると思うが、直接的な施策をたくさん打ち出してほしいと考える。特に子育て世代や子どもに対する取り組みを強化してほしい。そうすることがうきは市のこれからの力になると思う。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

女性	50 歳代	まず職員が男女共同や平等 LGBTQ について多様性について勉強してもらって学校や家庭でディスカッションする。っていうか今の時代は1人の人間として扱うのが正解だと思います。～だからとかではなく。質問内容が誘導尋問みたいでチェック入れるところがないから困りました。もっと勉強してから質問してきてください。
女性	50 歳代	教育や環境が大事だと思います。いろんなパターンがあると思うので、みんなで意見や知識を出しあっていい方向にもっていきたいと思います。
女性	60 歳代	今年より墓掃除、道路愛護で男性の代わりに女性が参加していたことに対する部センがなくなった。常会で以前よりそのことについて意見を述べていたが、却下されていた。うきは市は考えが古すぎる。やっと60代の方が役員になって改められた。現実問題としてはまだまだ平等になっていない。
女性	60 歳代	うきは市に生まれてずっと住んでいるが、市の行政については全く知らなかった。最近「男女共同参画」という言葉の意味を知り、どんなことをしているのか少しわかったが、まだまだ情報を知らない人が多いようである。アピールの仕方もあると思う。市民が興味を持ち、大切さがわかればと取り組む方は大変だと思うが、頑張っ欲しい。
女性	60 歳代	うきは市男女共同参画推進条例は知っていたが、2006 年制定は今回知った。私は60代になり、地域の福祉活動に携わるようになったが、知らないことが多い。知識の面で不安である。今後、男女共同参画社会の講演などに参加したいと思う。家庭生活、就労、人権侵害、防災について記入しながら参考になった。ありがとうございました。
女性	60 歳代	女子差別をなくし、男女がそれぞれに特性を生かし、協力していけるように声をあげて、うきは市を住みよい市にして行けたら、若い人も移住する家族も増えていくのではと思う。将来の若い人たちのために協力していきたいと思う。
女性	60 歳代	男性、女性問わず、働く場所を紹介してほしいと思う。
女性	60 歳代	まだまだ男女平等の社会とは言えないと思う。女性の経済的自立を推進するような支援をもっとして欲しい。経済的自立無くして家庭的、社会的自立は望めないだろう。性別に左右されることなく、人として生涯差別さることなく、自立して生活できるようにあらゆる場を通じて取り組みを進めてほしい。頑張ってください。
女性	60 歳代	子育てや介護のしやすいうきは市になってほしい。
女性	60 歳代	人の考えを変えるのは難しい。男女とも自分の都合のいいように考えるので難しい。
女性	60 歳代	私は核家族で共働きである。まだ、私たちの子育て時代は女性が家事と仕事の両立で今から思うとどうやって過ごして来たのか、そのころの自分をほめてあげたい。子どもの性格もあるかもしれないが、末っ子の次男には、小さいころから洗濯や片付けぐらいいは身につけないと言ってきた。現在、37歳の次男は共働きをしながら洗濯、掃除、食事の片付けと協力的である。家庭でも社会でも子どものころから親の姿を見せて教育することが大事だと思う。
女性	60 歳代	男女と区別せず、同じ人として生活が成り立っていけばいいと思う。私は性別を意識して人を見たりしてはいないと思う。同じレベルで見たいだけではないか。

女性	60 歳代	若い女性が、自信に満ちてキラキラと輝やける様な地域であって欲しいと願っています。そのための研修の場や情報の発信を多くして頂きたいと思います。
女性	70 歳以上	高齢のため回答が難しい。65 歳未満の方をお願いしたい。自分自身がどうするかと考えている所である。結婚もしていないし、子どもも育てていないので回答にとっても考える。
女性	70 歳以上	ありがとうございます。70 歳を過ぎており、仕事もしていないのであまり参考にはならないと思いますが。
女性	70 歳以上	うきは市のいい所は、もう少しそんなことも考えてみてはいかがでしょうか。市役所前の川草が茂り、水のきれいな町とは。費用も時間もかかると思うが、もう少しきれいにならないでしょうか。
女性	70 歳以上	私の職場の話であるが、10 年も務めているのに。時給が 1,000 円のまま 1 円も上がらず、有給を使うから残業を明細に記入しない、出勤が 8 時 30 分からなのに 7 時 50 分から来て働いているのに、帰る時間は 10 分単位で書かなくてはならない。注意するときは場所もかまわず、利用者の前で文句を言う。そのような職場であるが、私も年なので我慢して働いている。
女性	70 歳以上	男女共同参画の推進に関しては、自分なりに若い頃より参画してきた方だと思う。女性が仕事を持つことにより、各自の考え方があり役職が回ってくれば、仕方なく付き合いで受ける人もいるのではないかと。間によっては年齢で答えにくい項目もあった。
女性	70 歳以上	こんな立派なアンケート用紙を使うより係がもっといろいろな会合に出席して意見を聞いた方が効果的だと思う。男女が平等でないという前提でのアンケート内容はおかしいし、うきは市の男女共同参画ならばもっと身近な問題（うきは市の様子）を知ったうえでアンケート内容を考えてほしい。
女性	70 歳以上	70 歳を過ぎて、老後をどのように過ごすか考え中である。これまで学校や集落、いろいろなお世話をさせてもらった。学び事も多く、近所のおじいちゃん、おばあちゃん達の話の聞いたりしながら学習したものである。今はそんな機会もなく、昔のことで終わってしまっている。私自身もおばあちゃんになり、子どもたちとは別に生活をしているので、若い人たちと会話することなどない。なるべく若い人たちに迷惑をかけないような生活をと願っているが、今の若い人たちに私たち老人とこころの通じる会話ができるか心配である。日ごろの会話の中にこそ学び事、学習することがたくさんあると思っている。ここで書けただけでも良かった。人に対して思いやり、優しさ、支え合って生きていること、私たちの時代には考えられなかった項目である。人様に迷惑をかけない老後を過ごしたく思う。
男性	20 歳代	男性、女性、年齢、国籍、障害の有無にかかわらずすべての人が平等で安心、安全に暮らせるまちにしたい。
男性	30 歳代	人間得手不得手があるのだから、男女共同だの平等だのと言ってないで、やりたいことをすればよい。夫がとか、妻がとかいう人は、異性を見る目がないだけである。無礼を承知で言わせてもらえば、男でも辛い。残業に家事に育児に地域行事に消防団に PTA に子ども会、うきは市には地域行事や消防団の出事を減らしてほしい。若い世代が嫌がるので、久留米市に移住しています。市民に自由を。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

男性	30 歳代	若年層への教育のほかないと考えます。大人世代の考え方を变えることはできないのではと思ってます。現に両親含め、地域の親世代の方達の習慣発言が変わってきているようには感じない。
男性	30 歳代	一般的な意見ですが、行政職に対する女性管理職の割合を増やしていければ、女性意見がもっと重んじられると思います。
男性	40 歳代	男女平等は難しい問題だと思う。女性優先とか女性専用とか、昔の人間が今さら平等にしようと考えた結果男女共同参画のような考えが出てきてように思う。現在の若者はそんなことを気にしていないのではないのでしょうか。古い人間の考えがいつまでも残っている現状を考えるべきである。
男性	40 歳代	現在の社会生活において、男女平等が希望であるが、実際にはそうではない。男性優先である。女、子ども、障がい者に対しては下にみられている。それを無くす努力が必要だと思う。
男性	40 歳代	ポリコレは分断をあおっているの、このようなテーマにリソースを割くのはプラスにならない。今や男女間の対立をあおっているだけになっている。少子化の原因の一つと言える。
男性	40 歳代	企業誘致に力を入れ、女性のみならず、若い人たちが働く場（市外に行かなくても）を作り、税収が増えるようにしてほしい。外国人ばかり増えても意味はない。逆に女性、子どもたちが危なくなる。まずは日本人を守ることを優先してほしい。
男性	50 歳代	うきは市は女性のパワーが強く、男性が負けそうであるので、あまり女性をよいしょしない方が良いのかもと思うことがある。
男性	50 歳代	女性が男性がでなく、一人の人間（成人）としてお互いを気遣いながら協力し合えるような社会生活、家庭生活をみんなが送れるようになると良いと思う。ともに心遣いがあれば、いろいろなことが良い方向に向かうものだと思っている。
男性	50 歳代	性の多様性については、人権を尊重する上で非常に重要だと思っている。ただ、男は男らしく、女は女らしく、人間は人間らしく生きていくという考え方が、今は言いにくい世の中になっているのが気がかりである。
男性	50 歳代	このアンケートは男女共同参画と思いますが、女性重視と感じました。男性も悩んでいる人はいっぱいいると思う。
男性	50 歳代	浮羽町保木の信号機に周辺の樹や枝などが生い茂り、信号機が見えない。前後の道路も上から樹が覆いかぶさっており、通行がかなり危険である。
男性	50 歳代	男女共同参画社会について聞いたことはあるが、内容が情報不足しているため、もっとわかりやすくできる場を提供してほしい。
男性	50 歳代	PTA 活動では、会長は男という雰囲気があり、固定化されている。前に出たくない女性、仕事をしたい人、色々いる。LGBTQ が思春期の子どもや成人してもしばらくは不安定な思考では、治療や手術など積極的にしなくてもいいように感じる。過度な情報で自我を決めつけてしまわないか心配である。
男性	50 歳代	自治会活動において、いまだに女性の役員負担が根強く残り、それが当然のもののように扱われているのを目にすることが少なからずある。様々な活動に際して事細かに例をあげた教育活動や啓発活動が必要と思われる。SNS 上でもよく話題に上る九州男児の悪い慣習や扱いに関してもまだまだ現実には当たり前のような感覚がある。幅広い年齢層に向けた啓発活動が急務だと考えている。

男性	60 歳代	LGBTQ においては、過度な推進によりトイレ、共同浴場などにおいて女性の権利を侵害するような事例が多く見受けられる。なお、未成年での性転換手術により後に後悔の念からの自殺率が極めて高い。人権を尊重することは大切なことだと思うが、他人の人権を侵してまで人権を主張するのが果たして正しいことなのか。移民政策、ウクライナ復興、ODA など湯水のようにお金を使い、能登半島の復旧には使わない。そんな政府が推進する人権とは一体誰のための何のためのものだろうか。
男性	60 歳代	男性の育児休業と同じで少しずつでも社会に理解を求めていく啓もう活動が続けていくことではないでしょうか。そのためには、企業、団体が推進の場に参加していくこともひとつの方法だと思う。
男性	60 歳代	女性の場合、何でも言っている人っているが、良い事と悪い事、言っている事と悪い事とのけじめはつけるべきだと思う。もっと責任を持った行動をするべきである。
男性	60 歳代	男女共同参画に関するのではないが、ゴミ収集について、曜日が 40 年以上まえから変わらず、我が地区では 1 回目と 2 回目の間隔が短すぎる。誰も何十年も文句も言わず我慢している。また、吉井町では家の前の道路に出しておけば収集車が来て集めてくれるが、我が地区では車で収集場所までもって行かなければならない。この不公平さは何とか解消されないでしょうか。ごみは日々の問題で、永遠の課題だと思う。何とかしてほしい。
男性	60 歳代	設問の中に愚問的な所がある。専門家や弁護士などアドバイスを受けた設問なのか疑問もある。
男性	60 歳代	うきは市に引っ越してきて古典的な家族観を強く感じます。女性が働くことの理解を地域全体で広げて行く必要を感じます。全国規模の企業が少なくまだまだ社会が封建的なままで、制度を含めて改善が必要だと思います。
男性	70 歳以上	防災について。仕切りを作り、1 区画デフテントと段ボールの寝床が良い。姉が 2 回、るり色館に避難したが、床の上に薄い敷物で（家から座布団を持っていくが）痛かった。腰の持病があるため。今後は行かないと言っている。昔からずっと変わらない市長さん、お願いします。男女共同参画について、女性でないといけないことも多いと思うので、女性の責任者を増やす。
男性	70 歳以上	新しい市長にかわり期待している。すばらしいうきは市に生まれ変わることを希望する。
男性	70 歳以上	40 歳を過ぎた娘が小学生のころからスカートを全く着ようとせず、困ったことがあった。今では認知されている性同一性障害でした。小学生のころからの教育が必要だと思う。女性はスカート、男性はスラックスは古い教えだと思い、筆をとりました。
男性	70 歳以上	社会における男女の生活のあり方は長い歴史、時間をかけて少しずつ変化すべきもので、行政が立ち入って推進するような事柄ではありません。世界のなかで日本だけが従来からあった良い習慣が破壊されようとしています。海外に行ってみると日本が既に、十分に男女お互いが尊重されている社会であることがわかりますよ。日本国として進め、それに基づきうきは市でも進めている男女共同参画事業の廃止を求めます。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

無回答	60 歳代	うきは市議には女性がひとりしかいない。ほとんどが高齢の男性市議である。女性や若い人の改革的意見は出づらいのではないか。子どものころからの男女共同参画に対する教育を積極的に行い、女性が活躍しやすい社会を目指していただきたいと思う。まずは、女性が中心に担っている家事、育児、介護など男女問わず協力し合える社会を実現していただきたいと思う。
無回答	70 歳以上	真の男女平等社会を実現するために、男女の肉体的、精神的、感性などの違いを認め、尊重することができるための教育はすでに行われているが、さらに研究改善を重ねて行くことが重要。

調査結果のまとめ

はじめに

男女共同参画社会基本法には、男女共同参画の取り組みにおける国民及び自治体の責務が明記されている。うきは市においては、2016 年度に「第 2 次うきは市男女共同参画計画」を計画期間 10 年間として施行し、2026 年度に「第 3 次うきは市男女共同参画計画」を策定する予定である。

本調査は、第 2 次計画で実施した男女共同参画に関わる事業の 10 年間の成果を検証するとともに、今後、本市において男女共同参画を進める上での課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。

本市では、2014 年に同様の調査を実施している。よって、前回の調査と比較することで、この 10 年間の市民の意識の変化を把握し、さらに国による同様の調査との比較も行うことで、うきは市の現状を多角的に検証することとした。本調査結果から男女共同参画に関する市民意識の現状と動向および今後の課題について考察したい。

1. 男女平等について

「男は仕事、女は家庭」という考え方、固定的性別役割分担意識については、『反対』が約 8 割、『賛成』が 1 割台半ばと圧倒的に『反対』が高い。性別でみると、女性の方が男性よりも『反対』が 8.8 ポイント高い。前回調査と比べると、『反対』は女性では 13.9 ポイント増、男性では 6.6 ポイント増と女性の方が男性よりも増え方が大きく、性別による意識の差が広がっている。全国調査と比べると、今回調査の方が『反対』が高く、本市において固定的性別役割分担意識の解消は進んでおり、その傾向は女性に強いといえる。年齢別にみると、『反対』の割合は女性の 50 歳代以下では高いが、男性の 40 歳代以下では低く、年齢の低い層では女性と男性でギャップがみられる。

男女の地位の平等感について 7 つの項目でたずねたところ、『男性優遇』が高いのは「社会通念、慣習、しきたりなど」と「政治・経済活動の場」の 2 つの項目であった。

性別にみると、すべての項目で『男性優遇』の割合は女性が男性を上回り、男女の地位については、女性の方に不平等感が強い。特に「家庭」では、女性の『男性優遇』は 61.8%と男性(38.9%)を約 23 ポイント上回り、性別による不平等感の違いが最も大きい。また、既婚・パートナーと暮らしている女性の『男性優遇』は 64.8%と最も高い。「政治・経済活動の場」「法律や制度」でも性別の違いが大きくなっていった。「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」などが施行されているが、男女の賃金格差は縮小されておらず、政治分野においても女性比率は低いままであり、法律が掲げるところと現状との乖離が大きいために、経済活動や法律に対しては女性の不平等感をより強めていることが推測される。さらに、「地域活動・社会活動の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」でも女性の『男性優遇』は男性より 10 ポイント以上高く、身近な場での女性の不平等感も根強いといえる。一方、「職場」では前回調査と比べると『男性優遇』は男女とも低く、「平等になっている」が約 6 ポイント増えている。全国調査と比べても、『男性優遇』の割合は男女とも低く、本市における職場の平等感が高いといえる。「学校教育の場」については、「平等になっている」が最も高く、性別の違いも小さく、平等という認識が高い。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

男女共同参画を進めていくために学校教育で必要なことは、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が最も高く、次いで「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」などが男女とも4割を超えて高い。「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は女性の方が男性より約8ポイント高く、「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は男女とも年齢の低い層で割合が高い。近年では、学校教育の場で性暴力防止について学ぶ機会が増えており、また、若い親を対象に適正な性教育に関する情報や若年男性も被害者となる性暴力の問題に関する情報がインターネットや書籍等で増えており、これらの影響がうかがえる。

以上のことより、経年でみると本市において固定的性別役割分担意識は解消しつつあり、この10年間の男女共同参画の啓発に関わる施策の効果があらわれたといえる。しかしながら、依然として生活の様々な場で『男性優遇』という認識は高く、特に女性に不平等の認識が高いという性別の違いがある。様々な場における男性を優遇するジェンダー構造は、「社会通念、慣習、しきたりなど」に支えられており、平等を推進するためには根深い社会通念や慣習を解消しなければならず、啓発は重要である。啓発を進めるうえでは、性別、年齢別、配偶関係別などの違いをふまえて工夫することが求められる。若い保護者には性教育や子どもの安全、家庭の多様性などをテーマにした学習機会を提供することなどは有効といえよう。

2. 家庭生活について

現在、配偶者・パートナーがいる人に対し、家庭内の9つの役割の分担状況についてたずねた。『主に夫』は「家計を支える（生活費を得る）」で6割弱、一方、『主に妻』は「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」が8割を超え、「日々の家計の管理」でも6割台半ばと高く、夫が稼ぎ妻は家事という性別役割分担が家庭内で行われている実態がうかがえる。しかし、前回調査と比べると、男女とも「家計を支える（生活費を得る）」は「主に夫がしている」の割合が約10～15ポイント低くなり、その分「主に夫が行い、妻が一部を分担している」が女性で約19ポイント高くなっている。「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」でも「主に妻がしている」の割合が男女とも約11～31ポイント低くなり「主に妻が行い、夫が一部を分担している」が約14～24ポイント高いなど、家庭内での性別役割分担は解消される方向にある。「育児、子どものしつけをする」は前回調査より全体的に「該当なし」が増えているが、『主に妻』の割合に変化はみられず、依然として妻が担っている状況がうかがえる。一方で「自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動」の『主に夫』は男女とも約5割と性別による認識の違いは小さく、特に女性は前回調査より約13ポイント高いなど、地域活動は夫の役割となっている。

共働きの場合についてみると、「家計を支える（生活費を得る）」は、「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合は男性では約4割、女性では約3割で、男性の方が妻と同程度に分担しているという認識が強い。「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」では『主に妻』の割合は女性では約9割で男性を約15ポイント上回っている。共働き家庭においても、家事は主に妻という性別役割分担があり、特に女性で家事を担っているという認識が強い。

家庭内の決定における男女の認識の違いをみると、「土地・家屋の購入の決定」「家庭の問題における最終的な決定」のどちらも『主に夫』の割合は女性の方が男性より高く、「夫と妻が同じ程

度に分担している」は男性の方が高い。家庭内の重要な決定に関しては男性の方が主導しているという認識は女性の方に強い。前回調査と比べると「夫と妻が同じ程度に分担している」は女性では低くなっているが、男性では高くなっている。また『主に夫』は女性では高くなっているが、男性では低くなるなど、男性が決定権を持っているという認識の性別による違いは広がる状況にある。

配偶者・パートナーにもっとしてもらいたい家庭内の仕事としては、女性では「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が最も高く5割台半ばに上り、次いで「家計を支える（生活費を得る）」「親の世話をする」「育児、子どものしつけをする」が高く、特に共働きの場合で「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」や「育児、子どものしつけをする」が高くなっていた。男性では「家計を支える（生活費を得る）」「自治協議会、行政区（自治会）などの地域活動」が約2割で女性より高く、男性が担っているという認識が男女とも高かった役割では、女性にも分担してもらいたいと望んでいることがわかる。

男女ともに家庭内の仕事に積極的に参加するために必要なこととしては、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が男女とも第1位で最も高く、他の項目のほとんどは、前回調査よりも割合が低く、社会通念や慣習、しきたりの解消はより重視される傾向にある。次いで「職場において理解を得やすい環境づくりをすすめる」「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実につとめる」が続いて高く、男女とも既婚・パートナーと暮らしている人で高い。「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」は前回調査と比べて低く、個人での取り組みより就労環境の方が課題であり、特に既婚者の場合に職場の環境がより課題となっていることがうかがえる。

以上のことから、前項で「家庭生活」で女性の不平等感が高い傾向がみられたのは、家事を主に妻が担っているという女性の負担感や家庭内の決定権が依然として男性にあるという認識が一因と思われる。共働き家庭でも依然として家事は妻中心であり、女性が仕事との二重負担を抱えている状況がうかがえる。家庭の男女共同参画をすすめるためには、男性が家庭責任を担える労働環境の改善が必要である。労働時間の短縮や休暇制度を取得しやすい組織風土を醸成するよう、事業主には職場での意識啓発が求められる。

3. 地域活動について

地域づくりに関わる活動への参加状況については、「特に参加していない」が男女とも4割台半ばを占めている。参加が最も高いのは「自治協議会、行政区（自治会）での活動」で、男性は約3割、女性は1割台半ば、男女とも60歳代で高くなっている。男女とも定年後に町内会活動への参加が高くなる状況がうかがえる。「PTA活動や子ども会などの青少年育成に関する活動」は女性の30歳代と40歳代で約3割から4割と高いが、男性の40歳代では約2割、30歳代では該当者がおらず、子育て世代では男性の参加率は低い。

地域活動に女性が方針を決める場に積極的に参画するという考え方について、『賛成』は女性で約5割、男性で6割台半ばと、男女とも肯定的でより男性の方に高い。特に、男性の60歳代では約9割に上っている。

地域活動に女性の参画を進めるために必要なことは、女性では「育児や介護に関する公的支援（各種サービスなど）を充実させる」が約5割で最も高く、男性を約18ポイント上回り、前回調

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

査を約10ポイント上回っていた。さらに女性では「参画しやすいよう活動時間帯を工夫する」が第2位、「家族が家事・育児の分担をする」が第3位に上がり、家庭内の役割と地域のリーダーとの両立は困難ととらえられている状況がうかがえる。男性では、「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」が女性に比べて約13ポイント高く、地域における社会通念や慣習への問題意識が高いことがうかがえる。

地域の2つの役職、政策に関わる2つの役職について、立候補を依頼された場合の対応をたずねた。『受ける』は女性では「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」「PTA会長」は1割を超えているが、「自治会（行政区）長」では女性は1割を下回っている。男性の「自治会（行政区）長」を『受ける』は2割台半ばにのぼり、女性との差は大きく、女性はこれらの役職就任にはより困難さを感じているといえる。

役職を断る理由については、男女とも第1位は「知識や能力の面で不安があるから」だが、女性では6割台半ばと男性より約13ポイント高く、女性の第2位の「責任が重いから」は5割台半ばで男性より約10ポイント高くなっている。男性の第2位は「時間的な余裕がないから」で約5割にのぼり、40歳代では約7割あり、前後の30歳代から50歳代でも5割台半ばと高い。「時間的な余裕がないから」は、女性でも30歳代でも約6割と高い。定年前の年代では地域や社会に貢献する役割に時間が取れない状況がうかがえる。

第1項でみたように、「地域活動・社会活動の場」での平等感は女性が男性を大きく下回っていた。地域に参画するのは、男性では60代中心で女性より年齢が高い層が中心である。決定の場に女性の参画が求められても、自分は知識も経験もないと気後れする女性が多い状況が推察される。地域活動における託児などの子育て支援を充実するとともに、夫などの家族が家庭責任を分担できるように、また、定年前から地域でのネットワークが築けるように、男性のワーク・ライフ・バランスの実現が重要となる。若い世代では地域活動への参画が少ない住民が多いことも推測され、きっかけづくりとなるよう情報をソーシャルメディアなどで発信することも必要である。

4. 就労について

女性が職業をもつことについては、男女とも「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続の支持が第1位で、女性では約7割を占め、男性を約6ポイント上回っている。「子どもがでたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という中断・再就職は男女とも1割台半ばで、就労継続を大きく下回っている。前回調査と比べると、男女とも就労継続は増加し、中断・再就職は減少しており意識の変化は顕著である。全国調査と比べても、本市の女性の就労継続志向は高い。年齢別では、中断・再就職は女性の70歳以上と男性の60歳代で2割台半ばと他の年齢に比べて高い。一方、就労継続は男性の10・20歳代では約7割、女性は約6割と、年齢の低い層では男性の方が女性の就労継続への志向が強い。

また、女性が職業をずっと持たない方がいいと考える理由は、男女とも「現在ある仕事と家庭を両立できるための制度では不十分だから」が3割台半ばで最も高く、前回調査から約10～16ポイント高くなっており、制度の整備がより求められるようになってきている。次いで「育児休業など仕事と家庭が両立する制度があっても、利用できる職場の雰囲気でないから」が3割前後あるが、前回調査より割合は低くなっており、雰囲気の改善は進んでいる状況がうかがえる。とはいえ、男女とも仕事を持っている人についてみると「現在ある仕事と家庭を両立できるための制度では

不十分だから」や「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」などが高く、依然として課題は大きい。また、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は女性が男性を約 10 ポイント上回っている。

仕事を持っている人に、職場での女性の働きやすさをたずねた。女性では『働きやすい』は 6 割を超え、男性を約 16 ポイント上回る。女性の 30 歳代、40 歳代の子育て世代では『働きやすい』が 10・20 歳代や 50・60 歳代より約 10 ポイント低い。女性の家族従事者、パート・アルバイト、契約・派遣社員など、時間の制約が少ない働き方をしている人では『働きやすい』の割合が高い。

女性が『働きにくい』と回答した人にその理由をたずねたところ、女性は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が約 5 割と圧倒的に高く、男性を約 24 ポイント上回り、前回調査よりも約 14 ポイント高くなっている。男性は「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」が約 3 割と最も高く、女性を約 12 ポイント上回っている。女性は「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」が前回調査よりも約 12 ポイント低く、働きにくいと感じている女性は、両立制度について利用しやすい雰囲気よりも制度の不備が課題となっていることがわかる。また、女性は「能力を正当に評価されない」「結婚や出産時に退職するなどの慣行がある」などの女性に差別的な取り扱いも男性を上回っていた。

育児休業の利用意向について、「利用したい」が女性は 7 割台半ばあり男性を 23 ポイント上回り、男女とも前回調査よりも 20 ポイント以上高くなっている。特に、男女とも 30 歳代以下の年齢の低い層では利用意向は高く、女性は約 9 割に上る。未婚の女性では「利用したい」が 8 割を超えるが、男性は 5 割を下回る。「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性では約 2 割で女性を 8 ポイント上回るが、男女とも前回調査より割合は低くなっている。この 10 年間で育児休業の利用意向が高まってきたという変化はあるが、男性よりも女性の方が利用しやすい状況にあることがわかる。

介護休業の利用意向について、女性は「利用したい」が 7 割を超え、男性を 16 ポイント上回る。前回調査と比べると、育児休業と同じく男女とも 20 ポイント以上高くなっている。男性は「利用したいが利用できそうにないと思う」が約 2 割で女性を上回り、男性の 30 歳代から 60 歳代、女性の 40 歳代で高くなっており、介護に関わる可能性の高い年代では利用意向はあってもあきらめている傾向がうかがえる。介護休業も育児休業と同じく利用意向は高まっているが、男性には利用しにくい状況にあることがわかる。

育児休業や介護休業を利用できない、あるいは、利用したくないと回答した人にその理由をたずねた。最も高いのは、男女とも、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が第 1 位、「職場に休める雰囲気がないから」が第 2 位、「職場にそのような制度があるかわからないから」が第 3 位で続く。男性は「自分の仕事は代わりの人がいないから」が女性より高く、女性は「一度休むと元の仕事に戻れないから」が男性よりも高い。男性にとっては代替要員の確保ができない職種についていること、女性にとっては代替要員を得やすいがために仕事を失うことが課題となることが推測される。「経済的に生活が成り立たなくなるから」は、男性では前回調査より約 11 ポイント減少し、女性では 4 ポイント増加している。また、「職場に休める雰囲気がないから」は男女ともに約 10 ポイント減り、「職場にそのような制度があるかわからないから」は増加している。職場風土の改善は進んでいるが、制度の周知は不十分であることがわかる。

ワーク・ライフ・バランスについて、生活で何を優先するかを希望と現実に分けてたずねた。

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

希望では、男女とも「仕事と家庭生活をともに優先」が約3割で高く、男性では30歳代以下の年齢の低い層で4割を超えて高かった。また、「家庭生活を優先」は、女性では40歳代以下の年齢の低い層で高かった。「仕事と家庭生活、地域・個人の生活をいずれも優先」は男性では「家庭生活を優先」よりやや高く、60歳代が最も高くなっていた。前回調査よりも「家庭生活優先」「仕事優先」は低くなっており、仕事か家庭かの2者択一ではない両立志向が高くなっていることがわかる。

現実では、男性では「仕事優先」は希望より約28ポイント、女性で20ポイント高く、男女とも現実では希望より仕事優先になっていることがわかる。「仕事優先」は、男性の30歳代以下の年齢の低い層で5割を超えて高い。しかし、前回調査と比べると男女とも「仕事優先」「家庭生活優先」の割合は低く、「仕事と家庭生活をともに優先」が高くなっており、バランスのとれた生活に変わってきていることがわかる。

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件をたずねたところ、男女とも「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が4割前後で最も高く、次いで「給与などの男女間格差をなくす」が3割台半ばで高かった。「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が第3位で、女性の30歳代では5割を超えており、育児休業の当事者の年代では経済的支援は切実である。また、上位3項目はどれも前回調査よりも割合が高く、さらに、ほとんどの項目で女性の割合が高いなど、両立を実現するためには女性は多様な支援を望んでいることがわかる。女性は「育児や介護などで退職した人への再就職や起業などの支援策を充実する」が10.5ポイント減少しているが、就労を中断した人対象の支援策の要望は、就労を継続する人が増えているために低くなってきたと考えられる。共働きの女性では「給与などの男女間格差をなくす」が高く、共働きでも育児休業は給与の低い方が取得することが多いため、課題となっていることが推測される。

女性の働き方については、就労を中断しない就労継続への支持が多数派となっている。現実の生活でも女性は仕事優先の生活になってきているが、男女ともワーク・ライフ・バランスのとれた生活を望んでおり、両立支援策はより求められている。男性の育児休業や介護休業取得のためには、男女とも代替要員確保や経済的支援が求められている。代替要員確保については助成金制度があり、経済的支援についても2025年度から休業期間の給付金は100%となるなど、支援策については職場での情報提供を進める必要がある。また、第1項でみたように、職場での不平等感は低くなっているが、現在就労している女性では差別的な慣行を問題視しており、改善のために事業所への注意喚起が求められる。

5. 暴力などの人権侵害について

ドメスティック・バイオレンス（DV）にあたる16の行為について、暴力と思うかどうかをたずねた。「どんな場合でも暴力にあたる」についてみると、「身体を傷つける可能性のある物で殴る」は9割を超え、「相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」「打ち身や擦り傷などのケガをさせる」「相手に向かって物を投げつける」「相手がいやがっているのに、AVなどの性的な動画やわいせつな雑誌を見せる」「中絶を強要する」などは8割を超えて高いが、「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」の社会的暴力、「なぐるふりをしておどす」「大声でどなる」「何を言っても長期間無視し続ける」などの精神的暴力など直接身体に危害を及ぼす行

為でない暴力や「素手でたたく」の身体的暴力に対してさえ、DVであるという認識が低い。また、ほとんどの行為について男性の方が女性に比べてDVに当たるという回答が低く、DVを認識していない傾向がある。

これまでにDVを受けた経験については、身体暴力と精神的暴力では女性は約2割、男性は約1割で、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力では女性は約1割、男性は社会的暴力で約1割となっており、5種類の暴力は男女とも被害が発生している。社会的暴力については、唯一男性の被害が女性を上回っている。これらの暴力をいずれか1つでも受けた人は、女性では約3割、男性では約2割に上り、女性の婚姻状況が離別の場合には3分の2に上る。男女とも未婚者では1割台半ばあり、デートDVが起きていることがうかがえる。

DVを受けた人の女性では半数以上、男性では3分の2が誰にも相談をしていないが、前回調査と比べると相談した人は増えており、男性では11.5ポイント増えている。相談した相手は身近な「家族・親戚」と「友人・知人」が多く、女性は「家族・親族」、男性は「友人・知人」の割合が高い。「相談しなかった」人の理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」が高く、女性では「自分にも悪いところがあると思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が男性よりも高い。男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が女性を大きく上回り、「相談しても無駄だと思ったから」や「相談する人がいなかったから」も高い。

男女間における暴力を防止するために必要なことは、男女とも上位3項目は「被害者が早期に相談できるように、身近な相談窓口を増やす」「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」で、女性では5割台半ばから約6割で男性よりも割合が高い。また、その他のほとんどの項目でも女性の方が割合は高く、女性の方が暴力防止に対する関心が高いことがわかる。

女性が、妊娠するかどうか、いつ産むかなど性と生殖に関して自ら決定する権利は、国際的に認められた女性の人権である。「妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分に話し合うべきである」について、『思う』は女性が約9割で、男性は8割台半ばである。「妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で合意できない場合は、女性の意思が尊重されるべきである」については、『思う』は女性が7割台半ば、男性は約7割で、『思わない』は男女とも1割を超える。妊娠や性に関してカップル間で話し合うことは支持されていても、女性の性的自己決定権への支持は低いことがわかる。

以上のことから、DVの精神的暴力や社会的暴力についての認識を高めることが、今後の啓発に求められる。また、男性の被害者では相談する人がいないが多いことから、相談しやすい窓口の整備および窓口に関する情報の周知が重要である。それとともに相談された被害者の身近な人が二次加害をしないよう、DVに関しての一般的な啓発を行うことが重要である。性的自己決定権の理解を深めるためには、特に若年層を対象に暴力防止教育を充実させることも求められる。

6. 防災について

災害が発生した時に地域の一員としてできることは、男女とも「近所の人への声かけ」が最も高い。女性では「炊き出しなどへの協力」が6割を超えて2番目に高いが、男性では4割にとどまる。女性は「乳幼児がいる人への手助け」「不安な人の話し相手」が男性よりも高い。家事やケ

第1部 男女共同参画に関する市民意識調査

アなど、家庭で女性に求められる役割が、発災時にも地域における女性の役割であると女性自身が認識していること、男性は自分の役割と認識していないことがわかる。前回調査と比べると、「炊き出しなどへの協力」は女性が低く、男性ではやや高くなっており、炊き出しについては性別役割分担が解消されつつあるが、「乳幼児がいる人への手助け」「不安な人の話し相手」のケア役割では女性はあまり変わらないが、男性では低くなっており、男性にとってはハードルの高い役割となっていることがわかる。

性別に配慮した防災・復興対策の必要性については、「必要がある」は女性の方が男性よりも高く、前回調査と比べると、女性では約23ポイント増加し、男性を約10ポイント上回り、性別に配慮することへの認識は女性の方でより高まっている。

性別に配慮することの具体的な内容については、男女とも「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場など）」が9割を超えて最も高い。「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は第2位、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が第3位で、これらの上位の項目はすべて前回調査より割合が高くなっており、災害時に性別に配慮する必要性の認識は高まっている。また、「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること」は女性の割合は男性よりも低く、特に年齢の低い層で低くなっており、決定の場への女性参画の重要性の認識は女性自身が低いといえる。

防災や災害復興対策において、男女共同参画の視点が欠かせないことについては、近年の大規模災害から国全体が学んだことであり、その重要性についての啓発は国や県が進めてきている。本市においても、重要性への理解が高まっており、この10年の啓発事業は評価できよう。ただし、非常時に備え、平時の地域の女性の決定の場への参画をより進めなければならない。日頃から、性別や年齢に関わらず、対等に意見が言えるような関係を築けるよう地域への啓発が求められる。

7. 男女共同参画社会について

男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知では、「ジェンダー」が女性で最も高く5割台半ばで前回調査よりも約41ポイント高い。男性は2番目に高く4割台半ばで前回よりも約30ポイント高く、この10年間で認知の高まった言葉である。「LGBTQ」は今回初めてたずねた言葉であるが、男女とも認知は高かった。「男女雇用機会均等法」「DV防止法」は男女とも前回調査よりも低くなっているものの、4割を超えて認知の高い法律である。「うきは市男女共同参画推進条例」は女性では4割を超え、男性は約3割と女性より低い、男女とも前回調査を上回り、認知は高くなっている。

男女共同参画社会の形成に向けて行政に求められる役割は、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」は女性では5割を超えて最も高く、特に子育て期の30歳代や介護に携わる50・60歳代で高く、前回調査に比べ約7ポイント高くなっている。「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を充実する」も男女とも3割台半ばで高い項目となっている。「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるような啓発や情報提供を行う」は女性の方が男性より約10ポイント高く、子育て期の30歳代や介護に携わる60歳代で高い。また、「育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる」も女性が男性より約6

ポイント高い。

男女がともに子育てや介護と就労とを両立できる支援が行政へ求められており、就労状況や年齢に応じた事業を提供していくとともに、市民の実情に応じた支援策や啓発事業を進めていくことが求められている。